

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



マイグレーション・ガイド

バージョン 5.4

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



マイグレーション・ガイド

バージョン 5.4

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、167 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、IBM WebSphere Commerce Business Edition for iSeries バージョン 5.4 と、IBM WebSphere Commerce Professional Edition for iSeries バージョン 5.4、およびそれ以降のすべてのリリースとモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典:	IBM WebSphere® Commerce for IBM @server iSeries 400 Migration Guide Version 5.4
発行:	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当:	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2001, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

まえがき	v
WebSphere Commerce 5.4 の新機能	v
マイグレーションを実行すべき担当者	vi
サポートされるマイグレーション・パス	viii
前のバージョンからのマイグレーション	viii
オペレーティング・システム別のマイグレーション・パス	viii
その他の考慮事項	ix
本書の表記規則	ix
データベース・スクリプトの実行	ix
Oracle への参照	x

第 1 部 必要なマイグレーション・ステップ 1

第 1 章 マイグレーションの前に 3

マイグレーション前のアクション	4
インストール前の要件	4
ATP 在庫へのマイグレーション	4
オーダーおよびオーダー・アイテム	6
マスター・カタログ	8
デフォルト契約	9
アクセス・コントロール	9
メンバー・サブシステム	11
Payment コンポーネントのマイグレーション考慮事項	16
マイグレーション時のダウン時間の最小化	21
単独のマシンへの WebSphere Commerce 5.4 のインストール	22
単独のマシンへの WebSphere Commerce Suite 5.1 環境の複製	23
WebSphere Application Server 4.0 への遷移	25
遷移の概要	25
製品の前提条件のマイグレーション	28
他の無料の前提条件のマイグレーション	28
非 IBM 前提条件のマイグレーション	28
バージョン 4.0 への構成のマッピング	29
新しいインストール単位に以前の構成をリストアする	30

第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ 33

Commerce Suite 5.1 システムのバックアップ	33
ディレクトリーおよびファイルのバックアップ	33
データベースのバックアップ	35

第 3 章 ソフトウェアのアップグレード 37

WebSphere Commerce Suite 5.1 および WebSphere Commerce 5.4 IBM ソフトウェアのマッピング	37
ハードウェアのアップグレード	37

オペレーティング・システムのアップグレード	37
IBM 以外のソフトウェアのアップグレード	37
Internet Explorer 5.5 以降	37
WebSphere Application Server 4.0.2 へのアップグレード	38
WebSphere Payment Manager 3.1.2 へのアップグレード	39
Payment Manager のインストールの準備	39
Payment Manager のインストール	39
Payment Manager カセットのインストール	39
WebSphere Commerce Suite の WebSphere Commerce 5.4 へのアップグレード	40
リモート DB2 Universal Database のインストールを完了する	41

第 4 章 インスタンスのマイグレーション 43

Commerce Suite 5.1 インスタンス構成のマイグレーション	43
インスタンス構成をマイグレーションする前のステップ	43
インスタンス構成のマイグレーション	44
データベースのマイグレーション	45
データベース・プレマイグレーション・アナライザーの実行	45
Commerce Suite 5.1 キャッシュ・トリガーの除去	50
カスタム制約の除去	50
データベース・スキーマのマイグレーション	51
カスタム制約のリストア	53
識別名の更新	54
マスター・カタログの割り当て	55
オーダーおよびオーダー・アイテムの状況の変更	56
デフォルト・ストアのブートストラップ・データ	56
データベース・マイグレーションの検証	57
データベースの整合性チェッカーの実行	59
データ・マイグレーション後	62
ルール・サービスのオフへの切り替え	62
新規ロケーションへのストア資産のコピー	62
WebSphere Commerce インスタンスの更新	63
WebSphere Application Server EJB セキュリティーの使用可能化	63
セキュリティー構成のマイグレーション	64
ストア・ファイル資産のマイグレーション	66
マイグレーションの検証	72
Payment Manager インスタンスの 2.2 から 3.1.2 へのマイグレーション	72
決済カセット	73
データベース	73
インストール前の考慮事項	74
インストールおよびマイグレーション	74
インストール後の考慮事項	75

第 5 章 データ・マイグレーション後の追加のアクション 77

ルール・サーバー構成のマイグレーション	77
ルール・サーバー管理コマンド	79
オークション	81
ビジネス・アカウント	81
カスタマイズしたデータベース・テーブル用のステージング・サーバーの再構成	82
使用されなくなった Commerce Suite 5.1 テーブルの除去	82
新しいキャッシュ・トリガーのロード	83
カスタマイズしたプロパティの改良	83
配送計算コード	83
商品および在庫の検索	84
カスタマイズ・コマンド	84
edit_registration ページにおけるログオン ID の形式	85
商品アドバイザーのマイグレーション考慮事項	85

第 2 部 追加のマイグレーション考慮事項 87

第 6 章 メンバー・サブシステムのマイグレーション考慮事項 89

マイグレーション手順の概説	89
既存のディレクトリー・サーバーを使用する既存の Commerce Suite 5.1 ユーザー	92
WebSphere Commerce 5.4 での 5.1 ディレクトリー・サーバーの継続使用	92

第 7 章 アクセス・コントロール・サブシステムの考慮事項 95

getResourceOwners() の使用例	100
------------------------------------	-----

第 8 章 その他のマイグレーション考慮事項 101

デフォルトの通貨の動作	101
価格設定のための考慮事項	102

第 3 部 付録 103

付録 A. データベース・スキーマの拡張 105

付録 B. マイグレーション・スクリプトの概要 107

メンバーのマイグレーション	107
カタログのマイグレーション	109
ATP 在庫のマイグレーション	109
オーダー・アイテムのマイグレーション	110
配送計算コード	110
支払いのマイグレーション	110
割引データのマイグレーション	110
契約のマイグレーション	111
デフォルト契約	111
キャンペーンのマイグレーション	112
アクセス・コントロールのマイグレーション	112

付録 C. 後からの ATP インベントリーへの変換 115

付録 D. データベース・スキーマの変更点 117

データベース・スキーマの変更点	117
---------------------------	-----

付録 E. 変更されたプログラミング・インターフェース 135

使用すべきでないコマンド	135
変更されたコマンド	136
商品アドバイザー	136
UserRegistrationAddCmd および	
UserRegistrationUpdateCmd	136
WCS_Order	137
WCS_Catalog	142
WCS_User	143
WCS_Databean	145
Enterprise JavaBeans	145

付録 F. サンプル JSP の更新 149

register.jsp	150
account.jsp	155
infashiontext_en_US.properties	159

付録 G. トラブルシューティング 161

トレース情報の使用可能化	166
------------------------	-----

特記事項 167

商標	169
--------------	-----

まえがき

本書は、IBM @server for iSeries で WebSphere Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーションを行うためのステップを説明しています。 WebSphere Commerce Studio 5.1 から WebSphere Commerce Studio 5.1, Business Developer Edition へのマイグレーションを実行したい場合は、*WebSphere Commerce Studio* マイグレーション・ガイド バージョン 5.4 を参照してください。

本書での WebSphere Commerce 5.4 または WebSphere Commerce という表現は、現行リリースの WebSphere Commerce 5.4 を意味しています。 WebSphere Commerce Suite または Commerce Suite という表現は、前のリリースの WebSphere Commerce Suite 5.1 を意味しています。

重要

このマイグレーション・ガイドと、そのすべての更新版は、以下の WebSphere Commerce Web ページの Technical Library セクションから入手可能です。

- Business Edition の場合

www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

- Professional Edition の場合

www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

製品に加えられた最新の変更について知るには、WebSphere Commerce Disk 1 CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。 WebSphere Commerce 5.4 を、前のバージョンの Commerce Suite とサポートされている製品がインストールされていない マシン上にインストールするには、*WebSphere Commerce* インストール・ガイド バージョン 5.4 を参照してください。

WebSphere Commerce 5.4 の新機能

重要な機能強化と新規機能が、前のリリースの WebSphere Commerce から WebSphere Commerce 5.4 に追加されています。このリリースで使用可能な機能強化と新規機能の詳細については、*IBM WebSphere Commerce* 新着情報 バージョン 5.4 の資料を参照してください。

以下の領域において機能強化がされています。

- アクセス・コントロール
- 拡張されたユーザー、メンバー、および組織管理
- 請求、送り状、およびクレジット管理
- ビジネス関係管理
- 購買サイドの購入
- IBM Catalog Manager

- カタログ・サブシステム
- コラボレーション
- Commerce Accelerator
- Commerce モデル
- 構成マネージャー
- 契約ベースのコマース
- ローター・パッケージ
- マーケティング・サブシステム
- Payment Manager
- 見積要求 (RFQ)
- オーダー管理の機能強化
- 検索の機能強化
- セキュリティーの機能強化

Commerce Suite 5.1 システムを WebSphere Commerce 5.4 に、マイグレーション・ガイドで説明されているとおりにマイグレーションした後は、「新着情報」資料と WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照して、マイグレーション先のシステムでこれらの新規機能を使用する方法を調べてください。

マイグレーションを実行すべき担当者

マイグレーション作業は技術を要するので、その作業の大半はシステム管理者が実行すべきです。以下に示すのは、マイグレーション・プロセスにおける、各種のユーザーとその期待される役割の一覧です。

システム管理者

以下の知識と経験

- プログラミングの理解があること (たとえば、Java™、JSP など)
- データベース管理の理解があること
- Web マスター
- システム体系に関する知識があること

以下の作業

- WebSphere Commerce のインストール、構成、および保守
- データベースの管理
- Web サーバーの管理
- アクセスの制御
- 大量インポートまたは他のメカニズムによるデータ更新の管理

マイグレーション・プロセスの期待事項

マイグレーションのプログラムおよび手順は、**現行のシステム資産**がダウンしている時間を最小限にとどめるマイグレーションができるものにすべきです。

ストア開発者

以下の知識と経験

- プログラミングの理解があること
- マルチメディア・ツールの理解があること

以下の作業

- ストアの作成およびカスタマイズ
- 決済、発送、税サポートのセットアップおよびカスタマイズ

マイグレーション・プロセスの期待事項

マイグレーションのプログラムおよび手順は、**現行のストア資産**がダウンしている時間を最小限にとどめるマイグレーションができるものにすべきです。

ストア管理者

以下の知識と経験

- ビジネス手順の理解があること
- Web を読み書きできること

以下の作業

- オーダーの管理
- 決済の処理
- ショッパーの援助
- オンライン・ストアの保守
- オンライン・ストアの変更

マイグレーション・プロセスの期待事項

オーダーやショッパーなどの、オンラインで入手した情報は、マイグレーション後も使用可能です。

カタログ管理者

以下の知識と経験

- 商品のエキスパートであること
- Web とコンピューターの理解があること
- マルチメディア・ツールの理解があること

以下の作業

- ストア・カタログの作成
- 商品とカテゴリーの作成および管理
- 価格設定体系の作成および管理
- レポートの作成および管理

マイグレーション・プロセスの期待事項

以前のバージョンの *WebSphere Commerce Suite* を使用した際の情報は、再作成する必要はありません。ツールは、カタログの拡張に対して適応性があります。

サポートされるマイグレーション・パス

注:

このガイドでは、IBM @server iSeries 上で WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーションを実行するためのステップを説明しています。

すべての言語のバージョンについて、以下のマイグレーション・パスがサポートされています。

- Commerce Suite 5.1 Pro Edition から WebSphere Commerce 5.4 Professional Edition へ
- Commerce Suite 5.1 Pro Edition から WebSphere Commerce 5.4 Business Edition へ

重要: このマイグレーション・ガイドは、サポートされている上記のマイグレーション・パスについてのみテスト済みです。

将来の FixPak、eFix、または他の拡張機能のアプリケーションによって引き起こされるマイグレーション問題の情報については、以下の *WebSphere Commerce Support Web* ページを参照してください。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/support.html

前のバージョンからのマイグレーション

このガイドは、前述のサポートされているマイグレーション・パスのマイグレーション・プロセスを説明しています。前のバージョンの *Net.Commerce™* または *Commerce Suite* はサポートされていません。

前のバージョンの *Net.Commerce* または *Commerce Suite* から *WebSphere Commerce 5.4* にマイグレーションするには、まず既存のシステムを *WebSphere Commerce 5.1* レベルにマイグレーションし、それからこの資料を使用して *WebSphere Commerce 5.4* にマイグレーションします。

オペレーティング・システム別のマイグレーション・パス

WebSphere Commerce 5.4 は、以下の同一のオペレーティング・システム上での *Commerce Suite* のマイグレーションをサポートしています。

- *iSeries™* から *iSeries*

Commerce Suite 5.1 は、たとえば *Windows NT®* 上の *Commerce Suite 5.1.0.1* から *iSeries* 上の *WebSphere Commerce 5.1* などへの、異なるオペレーティング・システム間のマイグレーションはサポートしていません。

その他の考慮事項

- 複数の言語バージョンのデータベースを、複数の言語をサポートする 1 つのデータベースにマージしたい場合があります。これを実行したい場合は、IBM® グローバル・サービスに相談して援助を受けてください。
- WebSphere Commerce 5.4 システムを、WebSphere Commerce Suite 5.1 がインストールされているマシンにインストールする場合、その古いバージョンは WebSphere Commerce 5.4 にアップグレードされません。ただし、異なるソフトウェアのバージョンに基づく 2 つのインスタンスの共存はテストされておらず、サポートされていません。
- WebSphere Commerce 5.1 の Java または Enterprise JavaBeans™ オブジェクトで作成されたコードまたはコマンドをカスタマイズした場合、それらを WebSphere Commerce 5.4 で要求されるレベルに再デプロイする必要があります。WebSphere Commerce Studio マイグレーション・ガイド バージョン 5.4 の『カスタマイズ・コードの変換』のセクションを参照してください。この変換は、IBM WebSphere Application Server 3.5 から WebSphere Application Server 4.0.2 への移動を行うために必要です。

本書の表記規則

本書では以下の強調表示規則を使用します。

- **太文字**は、コマンドまたは、フィールド名、アイコン、メニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロールを示します。
- **モノスペース (Monospace)** は、ファイル名、ディレクトリーのパスや名前などの、示されたとおりに正確に入力する必要のあるテキストの例を示します。
- **イタリック** は、語を強調するために使用します。イタリックは、ご使用のシステムの該当する値に置換しなければならない名前も示します。以下のいずれかの名前が出てきたら、説明するとおりに、ご使用のシステムの値に置換してください。

host_name

WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば、ibm.com は完全修飾名)。



このアイコンは、ヒント (作業を完了するために役立つ追加情報) を表すマークです。

データベース・スクリプトの実行

本書の多くのセクションにおいて、ご使用のデータベースに対してスクリプトを実行する必要があります。その場合は次の説明を参照してください。

Client Access Express V5R1 を使用するデータベースに対してスクリプトを実行するには、以下を実行します。

1. Operations Navigator をオープンします。
2. データベースが置かれている iSeries サーバーに対応するシステムをクリックします。

3. 「**Database (データベース)**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)**」を選択します。
4. 「**Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)**」ウィンドウが表示されます。
5. このウィンドウで、本書で詳述されている SQL ステートメントまたはスクリプトを入力します。オプションで、このウィンドウを使用してスクリプトをオープンおよび編集できます。

注: 「**Connection (接続)**」メニューをクリックし、次に「**JDBC Setup (JDBC セットアップ)**」サブメニューを選択して、デフォルトのスキーマを設定できます。

Oracle への参照

マイグレーション・プロセス時に、いくつかのコードに Oracle への参照がある場合があります。これらは、Windows プラットフォームからの、WebSphere Commerce のポートから iSeries への ART ファイルです。Oracle は iSeries プラットフォームではサポートされていないので、これらの参照は無視すべきです。

第 1 部 必要なマイグレーション・ステップ

マイグレーション・ガイドのこの部の章は、Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーションに必要なタスクを説明しています。これには以下が含まれます。

- 3 ページの『第 1 章 マイグレーションの前に』
- 33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』
- 37 ページの『第 3 章 ソフトウェアのアップグレード』
- 43 ページの『第 4 章 インスタンスのマイグレーション』
- 45 ページの『データベースのマイグレーション』

さらに、77 ページの『第 5 章 データ・マイグレーション後の追加のアクション』では、固有の要件に応じて実行できる、マイグレーション後のオプションのアクションを説明しています。

第 1 章 マイグレーションの前に

以降のいくつかのセクションでは、作動可能な Commerce Suite 5.1 システムがまだある間に実行すべき特定ステップを説明します。さらにこのセクションでは、WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーションを開始する前に、注意すべき考慮事項についても説明します。

重要

WebSphere Commerce 5.1 または WebSphere Commerce Business Edition 5.1 の Java または Enterprise JavaBeans で作成されたコードまたはコマンドをカスタマイズした場合、それらを WebSphere Commerce 5.4 で求められるレベルに再デプロイする必要があります。 *WebSphere Commerce Studio* マイグレーション・ガイド バージョン 5.4 の『カスタマイズ・コードの変換』のセクションを参照してください。この変換は、IBM WebSphere Application Server 3.5 から WebSphere Application Server 4.0.2 への移動を行うために必要です。

いくつかの EJB をカスタマイズした場合、JNDI 名が、マイグレーション後にカスタマイズされたコマンドで呼び出される名前と同じであることを確認してください。

ご使用の JSP またはカスタマイズ済みコードが以前に IBM WebSphere Application Server 3.5.x からの `com.ibm.util` パッケージを使用していた場合、コードまたは JSP を、WebSphere Application Server 4.0.2 に同梱されている IBM SDK for Java からの同等のクラスを使用して再作成する必要があります。 `com.ibm.util` パッケージは、現行バージョンの WebSphere Application Server からは除去されています。

マイグレーション前のアクション

本書の他の部分で記述しているマイグレーション・ステップを進める前に、システムが Commerce Suite 5.1 レベルで作動可能である間に、必ず以下のアクションを実行します。

- Commerce Suite 5.1 ストア・アーカイブを簡単にマイグレーションするために、それを WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする前に、Commerce Suite 5.1 レベルで公開する必要があります。 Commerce Suite 5.1 レベルでストアを公開するための詳細ステップについては、Commerce Suite 5.1 オンライン・ヘルプの『ストア・アーカイブの発行』のセクションを参照してください。
- 新しい ATP 在庫表記を使用できるように、ご使用の在庫表記をマイグレーションする場合、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする前に、Commerce Suite 5.1 内の既存のオークションをすべてクローズする必要があります。オークションのクローズの詳細については、Commerce Suite 5.1 オンライン・ヘルプの『オークション入札のクローズ』のセクションを参照してください。

- Commerce Suite 5.1 に同梱しているプロパティ・ファイルをカスタマイズした場合、マイグレーションを完了した後にアクセスできるディレクトリーにそのコピーを作成します。たとえば、UserRegistration_en_US.properties ファイルを /stores/properties/ ディレクトリーにバックアップします。
- Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 への変更では、次の列の長さが変更されています。マイグレーション・プロセスでこれらの列に含まれるデータが失われないようにするために、Commerce Suite 5.1 内のこれらの列に含まれるデータの長さが、列の新しい長さを超えないようにしてください。たとえば、MBRGRP.DESCRPTION は 512 文字を超えないようにします。

Table.Column	Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
MBRGRP.DESCRPTION	VARGRAPHIC(4000)	VARGRAPHIC(512)
ORGENCY.DESCRPTION	VARGRAPHIC(4000)	VARGRAPHIC(512)
CONTRACT.NAME	VARGRAPHIC(254)	VARGRAPHIC(200)

- マイグレーション前に、Commerce Suite 5.1 テーブルに関するカスタマイズされた制約があれば除去し、WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後に、その制約をリストアします。出荷された Commerce Suite 5.1 テーブルへの外部鍵リンクを含むテーブルをカスタマイズした場合、データ・マイグレーション時に、参照保全制約 (外部鍵、1 次鍵、索引など) を除去しようとする、データ・マイグレーション・スクリプトは失敗する場合があります。これらの制約を除去するときには、50 ページの『カスタム制約の除去』のサンプル SQL ステートメントを使用できます。付属するデータ・マイグレーション・スクリプトを使用して、データをマイグレーションした後に、53 ページの『カスタム制約のリストア』の説明に従って、制約を追加して戻す必要があります。

何らかの Commerce Suite 5.1 参照保全制約を変更した場合、すなわち、すでに存在する索引または外部鍵の関係に別の列を追加した場合、その列はデータ・マイグレーション・プロセスの一部として削除されます。

参照制約についての詳細は、データベースの資料を参照してください。

- Commerce Suite 5.1 でデータベース・テーブルをカスタマイズしており、WebSphere Commerce 5.4 でステージング・サーバーを使用する場合、商品データベースとステージング・データベースの整合性を保つために、データ・マイグレーションに先だって、ステージ・コピー・ユーティリティー・コマンド (CPYWCSSTG) を実行する必要があります。詳細については、Commerce Suite 5.1 オンライン・ヘルプの『ステージ・コピー・ユーティリティー・コマンド』のセクションを参照してください。

インストール前の要件

以降のいくつかのセクションでは、マイグレーション・プロセスを開始する前に考慮する必要がある、WebSphere Commerce 5.4 のいくつかのかぎとなるアイテムに焦点を当てています。

ATP 在庫へのマイグレーション

前のバージョンの Websphere Commerce には、使用可能な在庫レベルを調べて更新するための、タスク・コマンド・インターフェースが備えられていました。デフォ

ルトのタスク・コマンド・インプリメンテーションは、INVENTORY テーブルを使用して、使用可能な在庫レベルを記録していました。この前のレベルの機能のことを、*互換モード在庫* といいます。

表 1. 互換モード在庫

互換モード在庫のタスク・コマンド・インターフェース	説明	呼び出し元
ResolveFulfillmentCenterCmd	OrderItem の FulfillmentCenter を判別します。	OrderItemAdd、OrderItemUpdate、OrderPrepare
CheckInventoryCmd	アイテムに十分使用可能な在庫があるかどうかをチェックします。	ResolveFulfillmentCenterCmd
UpdateInventoryCmd	アイテムに使用可能な在庫を減らします。	OrderProcessCmd、PaySynchronizePM
ReverseUpdateInventory	アイテムに使用可能な在庫を増やします。	オーダーを取り消したときのオーダー管理ユーザー・インターフェース

WebSphere Commerce 5.4 は、新しいタスク・コマンド・インターフェースでこの機能を拡張し、使用可能なまたは予想される在庫アイテムをチェック、割り振り、またはバック・オーダーします。新しいデフォルトのタスク・コマンド・インプリメンテーションでは、RECEIPT、RADETAIL、および他の関連テーブルの情報を使用します。アイテムがチェックされるかバック・オーダーされると、おおよその入手可能時刻が得られます。この拡張機能は、*予定可能 (ATP) 在庫* といいます。割り振りとバック・オーダーは、支払いが時間どおりに開始されないと、失効する可能性があります。

表 2. 予定可能 (ATP) 在庫

ATP 在庫タスク・コマンド・インターフェース	説明	呼び出し元
AllocateInventoryCmd	使用可能または予想される在庫をチェック、割り振り、またはバック・オーダーします。FulfillmentCenters と、おおよその入手可能時刻を判別します。割り振りまたはバック・オーダーを取り消すときにも使用できます。	OrderItemAdd、OrderItemUpdate、OrderPrepare、OrderProcess、ProcessBackOrders
GetEligibleFulfillmentCentersCmd	FulfillmentCenters の優先順位付けリストを判別します。	AllocateInventoryCmd
CheckInventoryAvailabilityCmd	おおよその入手可能時刻を得ます。	AllocateInventoryCmd
AllocateExistingInventoryCmd	使用可能な在庫を割り振ります。	AllocateInventoryCmd
DeallocateExistingInventoryCmd	割り振りを取り消します。	AllocateInventoryCmd、ReleaseExpiredAllocations
AllocateExpectedInventoryCmd	バック・オーダーを作成します。	AllocateInventoryCmd
DeallocateExpectedInventoryCmd	バック・オーダーを取り消します。	AllocateInventoryCmd、ReleaseExpiredAllocations

OrderItemAdd、OrderItemUpdate、および OrderPrepare コマンドには、新しいパラメーターが備えられており、それによって呼び出し側が在庫をチェック、割り振り、バック・オーダーしたり、割り振りやバック・オーダーを取り消すことができ

ます。OrderProcess は、割り振られてもバック・オーダーされてもいない OrderItems の在庫を、必ず割り振るか、割り振れない場合はバック・オーダーします。

表 3. ATP 在庫コマンド

ATP 在庫使用可能コマンド	拡張された ATP 機能	デフォルトのアクション
OrderItemAdd、OrderItemUpdate	チェック、割り振り、バック・オーダー、取り消し。	チェック。
OrderPrepare	チェック、割り振り、バック・オーダー、取り消し。	割り振りまたはバック・オーダー。
OrderProcess	割り振りまたはバック・オーダー。	該当しない。

STORE テーブル内の新しい列 ALLOCATIONGOODFOR は、ストアの ATP 在庫機能を使用可能にするために使用されます。この列の値がゼロであると、互換モード在庫が使用可能になります。値がゼロより大きいと、ATP 在庫が使用可能になります。支払いが開始されない場合、値には、割り振りとバック・オーダーの有効期限が切れた後の秒数が示されます。データベースを Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションするときには、ATP 在庫へマイグレーションを選択できます。そうする場合、INVENTORY テーブルの情報は RECEIPT テーブルへ移動し、STORE.ALLOCATIONGOODFOR はデフォルト値 (43,200 秒または 12 時間) にセットされます。

この時点では ATP 在庫にマイグレーションしないことを選択する場合、migrateATP スクリプトを使用して後でマイグレーションすることが可能です。このスクリプトは、115 ページの『付録 C. 後からの ATP インベントリへの変換』で説明されています。

オーダーおよびオーダー・アイテム

Commerce Suite 5.1 オーダーまたはオーダー・アイテムに関して、注意する必要があるマイグレーション前の考慮事項は 2 つあります。

- オーダーまたはオーダー・アイテムは M 状態です (つまり、ショッパーが支払いを開始し、在庫更新が成功しましたが、オーダーまたはオーダー・アイテムが与信済みでない)。

この場合、マイグレーションの前に、オーダーまたはオーダー・アイテムの完了、削除、取り消しのいずれか適切なアクションを取る必要があります。通常、この状態のオーダーまたはオーダー・アイテムは、与信の進行を待つだけで、M 状態になるのは短期間だけですが、許可が失敗するか拒否されると、この状態が続きます。これらのオーダーまたはオーダー・アイテムが M 状態のままマイグレーションすると、WebSphere Commerce 5.4 は、PMClean コマンドをスケジュール・ジョブとして実行し、このようなオーダーおよびオーダー・アイテムをクリーンアップします。

- オーダーまたはオーダー・アイテムが C 状態です (つまり、支払いが与信済みである)。

アイテムが完全に完了し、出荷されている場合には、オーダーまたはオーダー・アイテムを、最終の S 状態 (つまり、オーダー・アイテムが出荷済み) にする必要があります。これにより、オーダー・アイテムが再び WebSphere Commerce 5.4 で割り振られることを避けられます。

データベース・マイグレーション・プロセスでは、ATP オプションを指定すると、データベース・マイグレーション・スクリプトによって `ctos.sql` スクリプトが生成されます。`ctos.sql` スクリプトは、状況が C であるオーダーまたはオーダー・アイテムがあれば、C から S へ変更します。このスクリプトは、`/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/instance_name/temp` ディレクトリーにあります。`ctos.sql` スクリプトは、次の場合に実行する必要があります。

- ATP オプションを使用してデータベース・マイグレーション・スクリプトを実行する場合。

`ctos.sql` スクリプトは、マイグレーション後に Web サーバーと `instance_name` - WebSphere Commerce Server アプリケーション・サーバーを再始動する前に、実行する必要があります。

- ATP オプションを使用せずにデータベース・マイグレーション・スクリプトを実行し、マイグレーションを完了した場合、後でマイグレーション済みのシステムを実行して、ATP 在庫へマイグレーションするようにします。

WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後に `migrateATP` スクリプトを実行すると、`ctos.sql` スクリプトが生成されます。この場合、Web サーバーと `instance_name` - WebSphere Commerce Server アプリケーション・サーバーを再始動する前に、これを実行する必要があります。

これは、独自のツールおよびコマンドをインプリメントするときのオプションのステップなので、状況を S に変更できないことに注意してください。

C 状態のマイグレーション済みのオーダーおよびオーダー・アイテムを、WebSphere Commerce 5.4 Commerce Accelerator ツールで表示したり編集することは可能ですが、このツールを使用して編集することはお勧めしません。このツールを使用して編集しようとする（すでに完了済みであれば編集すべきでない）、回復不能エラーになる可能性があります。このような場合、オーダーの状態は E 状態（CSR による編集 - 顧客サービス担当者がオーダーを処理している）か T 状態（一時的 - オーダー管理ユーザー・インターフェースによって使用され、オーダーが一時的にバックアップされる）のいずれかに変更されます。CSR は E 状態のオーダーの要約を表示することにより、T 状態のオーダーのオーダー番号を検出できます。T 状態のオーダーは、（ツールでの編集前の）元のオーダーのバックアップ・コピーです。CSR は、この T 状態のオーダーを参照用に印刷し、Commerce Accelerator を使用して、顧客用に手動でオーダーを再作成できます。

マイグレーション・スクリプトは、C 状態のオーダー・アイテムを、指定したアイテム（ITEMSPC）に関連付けないことに注意してください。そのようにすると、完了したオーダー・アイテムが大量に存在する（数百万）可能性があるため、パフォーマンスが低下することがあります。

- オーダーまたはオーダー・アイテムは P 状態（保留 - 顧客はこのオーダーを変更できる）、または I 状態（送信済み - 顧客はオーダーを送信したが、まだ支払いを開始していない）です。

マイグレーション・スクリプトでこれらのオーダーの `ORDERS.LOCKED` を 0（ゼロ）にセットすると、これらのオーダーがアンロックされます。

マスター・カタログ

WebSphere Commerce Suite 5.1 では、カタログ・システムには構造化されたカタログ・データは必要ありませんでした。マスター・カタログを使用し始めるときには、WebSphere Commerce 5.4 では、特定の方法でカタログ・データを構造化する必要があります。

WebSphere Commerce 5.4 では、マスター・カタログは、ストアの商品取引を管理する中心です。ストアに必要なものはすべて、マスター・カタログに含まれます。これは、すべての商品、アイテム、関係、およびストアで販売されるものすべての標準価格を含む 1 つのカタログです。

WebSphere Commerce システムの全ストアに、マスター・カタログがなければなりません。マスター・カタログは複数のストアで共有することができ、また必要な数のストアを定義できます。カタログ管理用のマスター・カタログを作成することに加えて、表示の目的で 1 つ以上のナビゲーション・カタログを作成することもできます。ナビゲーション・カタログにはマスター・カタログと同じエントリーを含めることができますが、カスタマーに表示する目的で、ナビゲーション・カタログはマスター・カタログよりずっと柔軟な構造になっています。必要に応じていくつでもナビゲーション・カタログを作成することができます。しかし、オンラインの商品取引を管理するためにマスター・カタログを使用するので、マスター・カタログをナビゲーション・カタログとして使用して、メンテナンスのオーバーヘッドを最小限に抑えるようお勧めします。

商品管理ツールを使用して、マスター・カタログを表示および管理することができます。

マスター・カタログの作成と管理の詳細については、マイグレーションを完了してから、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

重要な構造上の考慮事項

商品管理ツールのような WebSphere Commerce 5.4 カタログ・ツールを使用するには、使用しているマスター・カタログは、以下の条件を満たしている必要があります。

- マスター・カタログは、適切なツリーであるべきです。つまり、サイクルであるべきではありません。これは、以下のタイプのシナリオを避けなければならないことを暗に示します。親カテゴリー **A** にサブカテゴリー **B** があるとします。 **B** および **B** のサブカテゴリーはどれも、 **A** の親カテゴリーにならないようにすることが重要です。
- 複数のカテゴリーの下で商品进行分类することはできません。複数のカテゴリーに 1 つの商品を置くには、ナビゲーション・カタログを使用します。
- 商品に属するすべてのアイテムは、その商品が分類されているのと同じカテゴリーで分類される必要があります。
- 商品管理ツールは、マスター・カタログでしか機能しません。

カタログ情報のマイグレーション

現在 Commerce Suite 5.1 ストアで 1 つのカタログを使用している場合、データベース・マイグレーション・スクリプトは、そのカタログをそのストアのマスター・カタログとして割り当てます。

現在 Commerce Suite 5.1 ストアで複数のカタログを使用している場合、マイグレーションされたストアのマスター・カタログとして、どのカタログを割り当てる必要があるかを考慮しなければなりません。この割り当ては、55 ページの『マスター・カタログの割り当て』の説明に従って、choosemc.sql スクリプトを使用して行われます。

デフォルト契約

WebSphere Commerce 5.4 では、契約サポートを提供するための条件が導入されました。マイグレーション・プロセスでは、WebSphere Commerce Suite 5.1 ビジネス・フロー (たとえば配送料用) と同様の動作および特性を持つ、ご使用のシステムに対するデフォルトの契約が作成されます。

デフォルト契約は自動的に作成されるので、通常は、マイグレーション・プロセス中にユーザーがアクションを取る必要はありません。ビジネス・プロセスのために追加契約を作成する必要がある場合は、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後に、WebSphere Commerce Accelerator を使用してそれを行います。WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『新規契約の作成』のセクションを参照してください。

アクセス・コントロール

アクセス・コントロールは、商用サイトの全体的なセキュリティーとフロー制御に不可欠な部分です。サイト管理者と参加組織は、参加者がシステム内のどのオブジェクトでどのアクションを実行できるかを制御する必要があります。それで、WebSphere Commerce 5.4 のリソース・レベルでのアクセス・コントロールは、ビジネス・オブジェクトを扱うコードの外部でアクセス・コントロールの決定を行ってカスタマイズの可能性を広げられるようにするため、WebSphere Commerce Suite 5.1 の場合のようにプログラマチックなものではなく、ポリシー・ベースのものになっています。

WebSphere Commerce 5.4 では、アクセス・コントロールは、GUI と、アクセス・コントロール・ポリシーを定義するために使用する XML ファイルを使用して管理されます。これらのポリシーは、WebSphere Commerce 5.4 データベースに保管されています。そして、WebSphere Commerce 5.4 システムの始動時にメモリーにロードされます。

WebSphere Commerce 5.4 でアクセス・コントロールに加えられた主な改善点を次に示します。

- 柔軟性を向上させるために、アクセス・コントロール・ポリシーは、ビジネス・オブジェクトを扱うコードから外部化されました。
- 階層的なアクセス・コントロールが、アクセス・コントロール・モデルに組み込まれました。
- すべてのアクセス・コントロール・ポリシーは、ActionGroups、ResourceGroups、UserGroups というグループに基づくようになりました。

Commerce Suite 5.1 に実装されているコマンド・レベルのアクセス・コントロールで十分であり、コード変更を望まない場合は、以下のようになります。

- Commerce Suite 5.1 アクセス・コントロール・テーブルを適切なポリシーにマイグレーションする必要があります。これを適切に動作させるには、45 ページの

『データベース・プレマイグレーション・アナライザーの実行』で説明されているとおりに、データベース準備スクリプトを実行する必要があります。これが実行されない場合、いくつかのカスタマイズ済みコマンドおよびビューに対するアクセス・コントロール・ポリシーはマイグレーションされません。

- `getResourceOwners()` メソッドを上書きした場合、コマンド・レベルのアクセス・コントロールでは、ここで戻される各リソース所有者が、保護可能なリソース、すなわちコマンドの所有者として使用されます。
- `getResourceOwners()` メソッドを上書きしていない場合は、保護可能なリソース、つまりコマンドのコンテキストに `storeId` が指定されていれば、そのコマンドの所有者がストアの所有者になります。コマンドのコンテキストに `storeId` が指定されていない場合は、ルート組織が使用されます。
- メソッド `checkPermission()` を上書きした場合、このメソッドは、コマンド・レベルのアクセス・コントロールを実行してから呼び出されます。

上記のステップに加えて、WebSphere Commerce 5.4 のリソース・レベルのアクセス・コントロールを最大限に活用する場合、前述のように、`getResources()` メソッドをインプリメントする必要があります。さらに、既存のコマンドをマイグレーションする場合、`getResourceOwners()` を独自にインプリメントしていたならば、そのインプリメンテーションを除去できます。ストア所有者またはサイト組織の使用は、コマンド・レベルのアクセス・コントロールでは適切であるはずですが、よりきめの細かいレベルのアクセス・コントロールは、リソース・レベルのアクセス・コントロールによって実行できます。

アクセス・コントロールの詳細については、95 ページの『第 7 章 アクセス・コントロール・サブシステムの考慮事項』を参照してください。

注:

1. Commerce Suite 5.1 から拡張されたコントローラー・コマンドを追加している場合、WebSphere Commerce 5.4 は、マイグレーション時にそれに対してコマンド・レベルのポリシーを追加するだけです。Commerce Suite 5.1 コマンドの WebSphere Commerce 5.4 バージョンで `getResources()` がインプリメントされている場合は、それによって戻されるリソースを判別してそのコマンドに適したリソース・レベルのポリシーを作成するか、あるいはリソース・レベルのアクセス・コントロールが必要ない場合は、コマンドがヌル値を戻すように `getResources()` でコマンドを指定変更する必要があります。

WebSphere Commerce 5.4 コマンドがその `getResources()` に戻すものを判別するには、トレースを分析して `Action=WCBCommand` を探し、`getResources()` がチェックしているすべての保護可能リソースを見つけてください。たとえば、SERVER トレースを使用可能にした場合のことを考慮してみましょう。ログ内には以下が示されています。

```
===== TimeStamp: 2001-11-16 02:42:30.937
Thread ID: <Worker#3>
Component: SERVER
Class: AccManager
Method: isAllowed
Trace: isAllowed? User=10012; Action=com.fvt.ACCOrderItemAddCmd;
Protectable=com.ibm.commerce.order.objects._Order_Stub;
Owner=70000000000000002000resource is Groupable

=====
TimeStamp: 2001-11-16 02:42:30.984
```

```
Thread ID:    <Worker#3> Component:
SERVER Class: AccManager
Method:       isAllowed
Trace:        PASSED? =false
```

上記のトレースの意味は、リソース・レベルのポリシーが失敗したということです。この場合、ACCOrderItemAddCmd は、getResources() をインプリメントするサーバー OrderItemAdd コマンドから拡張されます。したがって、デフォルトでは、ACCOrderItemAdd も、それに対する getResources() がヌルを戻すように変更されていない限り、リソース・レベルのポリシーを必要とします。このリソース・レベルのポリシーは、マイグレーション時には、どの WebSphere Commerce 5.4 コマンドを拡張するかが分からないので追加されません。

たいていの場合、コマンドはアクセス bean を getResources() メソッドで戻します。たとえば、getResources() で com.ibm.commerce.xyz.objects.XYZAccessBean が戻された場合、トレースにはこれが com.ibm.commerce.xyz.objects._XYZ_Stub と示されます。この違いは、WebSphere Commerce 5.4 がアクセス bean をそのリモート・インターフェースに狭めなければならないからです (これは実際に保護可能インターフェースに拡張する EJB のリモート・インターフェースであるため)。

2. WebSphere Commerce Suite 5.1 では、リソース・レベルのアクセス・コントロールは、コマンド・ロジック内でプログラマチックに施行されていました。WebSphere Commerce 5.4 では、リソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは外部的に指定されます。これはコマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーの指定方法と似ています。マイグレーション時に、コマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションされます。Commerce Suite 5.1 のデフォルトのアクセス・コントロール・ポリシーのカスタマイズによって必要とされるどのリソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシー (ACCCMDGRP テーブルに保管される) も、手動で追加する必要があります。そうしない場合は、予期しないアクセス・コントロール違反例外を受け取ります。詳細については、161 ページの『付録 G. トラブルシューティング』の関連項目を参照してください。

メンバー・サブシステム

WebSphere Commerce 5.4 と WebSphere Commerce Suite 5.1 の主な違いは、WebSphere Commerce 5.4 では、各ユーザーおよび組織エンティティ・メンバーに、別の組織エンティティである親メンバーがなければならないという点です。これによって、ユーザーおよび組織エンティティは、メンバーシップ階層を形成できます。メンバー・グループは、メンバーシップ階層の一部ではないので、親メンバーはありません。

マイグレーション・プロセス時に、データベース・マイグレーション・スクリプトは、次の事柄に基づいて、ユーザーおよび組織エンティティの親と子孫を決定します。

- ユーザーが、BUSPROF テーブルにレコードを持ち、ORG_ID 列および ORGUNIT_ID 列の値を持っているか。
- 組織エンティティの ORGENTITY テーブルにある MEMBER_ID 列の値。

ユーザーと組織エンティティの親および子孫を判別したら、MBRREL テーブルに取り込みが行われ、メンバーシップ階層が取り込まれます。 WebSphere Commerce 5.4 ビジネス論理では、このメンバーシップ階層を使用します。そのため、そのメンバーシップ階層を適切に判別できるようにするため、ご使用のデータベース内の特定の列に適切な値を入れる必要があります。ユーザーおよび組織エンティティの親と子孫は、次のようにして、データベース・マイグレーション・スクリプトによって判別されます。

- BUSPROF テーブルにレコードがあり、プロファイル・タイプが B (B2B ユーザー) に設定されているユーザーの場合:
 - ORGUNIT_ID は、ヌルでなければ、親メンバー ID として使用されます。
 - ORGUNIT_ID がヌルの場合、ORG_ID がヌルでなければ、それが親メンバー ID として使用されます。
 - ORGUNIT_ID と ORG_ID の両方がヌルであれば、親メンバーとして、Default Organization 組織エンティティ (ORGENITY) が使用されます。

B2B ユーザーが、マイグレーション・プロセスで Default Organization が親として割り当てられることを防ぐため、マイグレーションの前に、Commerce Suite 5.1 BUSPROF テーブルをスキャンして ORGUNIT_ID および ORG_ID 列に記入するようにします。Default Organization を、B2B ユーザーの親組織エンティティにすることはお勧めしません。特定の登録ユーザーの BUSPROF テーブルの ORGUNIT_ID および ORG_ID 列に記入できない場合、そのような登録ユーザーのプロファイル・タイプを、B (B2B ユーザー) から C (B2C ユーザー) に変更する必要があります。

USERS テーブルには PROFILETYPE 列があり、有効な値として、ヌル、B、または C を入れることができます。

- B (登録済み B2B ユーザー)
- C (登録済み B2C ユーザー)
- ヌル (プロファイル・データなし)

Commerce Suite 5.1 コードをカスタマイズし、このコードがユーザーのプロファイル・タイプを設定していない場合、USERS テーブルの PROFILETYPE 列をクリーンアップする必要があります。WebSphere Commerce 5.4 の場合、次のようにすることをお勧めします。

- B2C ユーザーを Default Organization の下に置き、プロファイル・タイプを C に設定する。一般に、B2C ユーザーは BUSPROF テーブルにレコードを持っておらず、Default Organization を親にしています。
- B2B ユーザーのプロファイル・タイプを B に設定し、BUSPROF テーブルにレコードを入れ、適切な組織エンティティを親にする。B2B ユーザーを Default Organization の下に置くことはお勧めしません。

さらに、管理者 (つまり、USERS テーブルの登録タイプが A または S で、ACCMBRGRP テーブルにエントリーが入っているユーザー) のプロファイル・タイプを B に設定します。

- BUSPROF テーブルにレコードがないユーザーは、データベース・マイグレーション・スクリプトによって、親組織エンティティを Default Organization に設定します。

- ORGENTITY テーブルの組織エンティティでは、MEMBER_ID 列がヌルでなければ、MEMBER_ID 列が親メンバー ID として使用されます。MEMBER_ID 列がヌルであれば、親メンバーは Root Organization に設定されます。

登録済みユーザーと組織エンティティのレコードを含む新しい MBRREL テーブルでは、データベース・マイグレーション・スクリプトは、MBRREL テーブルの内容を使用するだけで、メンバーシップ階層を判別します。MBRREL テーブルには、汎用ユーザー、ゲスト・ユーザー、およびメンバー・グループのレコードが含まれないことに注意してください。

マイグレーション時には、データベース・マイグレーション・スクリプトによって、次のような整合性検査が実行されます。BUSPROF にレコードを持つユーザーの場合、ORG_ID 列と ORGUNIT_ID 列がヌルでなければ、スクリプトは、ORGENTITY テーブルを使用し、組織階層を ORGUNIT_ID から上方向に調べます。これは、最終的に MEMBER_ID にヌルが見つかるか、ORGENTITY_ID と同じ値が見つかるまで続きます。ORGENTITY テーブルの MEMBER_ID 列の値が、BUSPROF テーブルの ORG_ID 列の値と同じであることを確認します。同じでなければ、スクリプトは、不整合を訂正するようユーザーに通知します。

他のメンバー・サブシステムの考慮事項

- WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション時に、MEMBER テーブルの STATE 列は、以下のように設定されます。
 - ゲスト・ユーザー (登録タイプは G) の場合、マイグレーション・スクリプトは STATE をヌルに設定します。
 - 登録済みユーザー (登録タイプは R) の場合、マイグレーション・スクリプトは STATE を approved に設定します。
 - 組織エンティティの場合、マイグレーション・スクリプトは STATE を approved に設定します。
 - メンバー・グループの場合、マイグレーション・スクリプトは STATE をヌルに設定します。

組織エンティティは、マイグレーションされ、承認グループを所有しなくなります。つまり、デフォルトでは、マイグレーション済みの組織エンティティは、B2B ユーザー自己登録などのビジネス・プロセスの承認を必要としないということです。

- WebSphere Commerce 5.4 にデフォルトで付属している役割には、次の例外を除いて、Commerce Suite 5.1 に付属しているすべての役割が含まれており、さらにいくつかの新しい役割も加えられています。
 - Order Clerk 役割は組み込まれていません。

Commerce Suite 5.1 は、Order Clerk 役割をサポートしていましたが、WebSphere Commerce 5.4 では不要になり使用されなくなりました。Order Clerk 役割で実行に使用されるタスクは、自動化されているか、または WebSphere Commerce 5.4 の顧客サービス・スーパーバイザーで実行できます。ユーザーに Commerce Suite 5.1 で Order Clerk 役割 (-5) があり、ACCCMDGRP テーブルにエントリーがある場合、そのユーザーは、アクセス・コントロール・マイグレーションの一部としてマイグレーションされ、その役割は、ユーザー定義の役割として扱われます。

まだ Order Clerk 役割が必要かどうかを確認してください。必要でなければ、WebSphere Commerce 5.4 ではサポートされなくなったので、除去してください。

- Customer 役割は組み込まれていません。

Commerce Suite 5.1 には、Customer というアクセス・グループが組み込まれていました。Commerce Suite 5.1 内の各アクセス・グループには、役割名の名前があります。通常は、次の 2 つの目的で Commerce Suite 5.1 のアクセス・グループが使用されます。

- コマンドをアクセス・グループに割り当てる (関連が ACCCMDGRP テーブルに保管される)
- ユーザーをアクセス・グループに割り当てる (関連が ACCMBRGRP テーブルに保管される)

アクセス・グループに割り当てられたユーザーが行う役割は、アクセス・グループ名と同じ名前の役割です。したがって、ユーザーを特定のアクセス・グループに割り当てることは、役割をそのユーザーに割り当てることと同じで、ユーザーは、そのアクセス・グループに関連したコマンドを実行できるようになります。Commerce Suite 5.1 の Customer アクセス・グループは、すべてのユーザーが実行できるコマンド群に関連付けられています。つまり、Customer アクセス・グループは、Commerce Suite 5.1 システム内の全ユーザーを表しており、各ユーザーに Customer 役割を割り当てる必要はありません。

WebSphere Commerce 5.4 では、Customer アクセス・グループの代わりに、AllUsers メンバー・グループが同梱されています。すべてのユーザーが実行できるコマンドのセットを AllUsers メンバー・グループに関連付けるために、アクセス・コントロール・ポリシーが作成されています。各ユーザーに Customer 役割を明示的に割り当てることは不必要なので、WebSphere Commerce 5.4 では、デフォルトで Customer 役割は同梱されなくなりました。特定の組織エンティティに対して、その組織エンティティの従業員であるユーザーのグループがおり、従業員以外は顧客 と見なされます。Commerce Suite 5.1 で Customer アクセス・グループに明示的に割り当てられたユーザーは、WebSphere Commerce 5.4 へのデータ・マイグレーション時に、AllUsers メンバー・グループに明示的に割り当てられます。その場合、そのような明示的な割り当ては不要であるため、マイグレーション・スクリプトは警告メッセージを発行します。

- Merchant 役割は、Seller に名前変更されています (Merchant は B2C 用語であり、Seller は B2B 用語であるため)。
- Merchandising Manager 役割は、同じ理由で Product Manager に名前変更されています。
- Commerce Suite 5.1 では、USERS テーブルには、以下の 4 つの有効値を受け入れる、REGISTERTYPE 列が含まれています。
 - R - 登録済みユーザー
 - G - ゲスト・ユーザー
 - S - サイト管理者
 - A - 管理者

登録タイプ S と A は、役割に関連付けられています。WebSphere Commerce 5.4 では、USERS テーブルの REGISTERTYPE 列は、引き続き同じ値のセットをサポートします。しかし、WebSphere Commerce 5.4 からデフォルトで使用可能な役割のセットを指定する場合、登録タイプ A の意味をさらに正確にする必要があります。ここで、タイプ A には、特定の役割を演じる *Seller* 組織の従業員 という、さらに具体的な意味が与えられます。登録タイプ A に対応する役割のセットは、管理コンソールを使用して、Administrators アクセス・グループの定義を変更することによって構成可能です。さらに、ユーザーの登録タイプの値は、役割の割り当てまたは割り当て解除時に、自動的に A または S に設定されるので、登録タイプの値は、ユーザーが演じる役割と整合していることが保証されます。

要約すると、次のようになります。

- Seller 組織のユーザーに Site Administrator 役割が割り当てられる場合、このユーザーの登録タイプ値は S になります。
- Seller 組織のユーザーに、Administrators アクセス・グループで定義された、Site Administrator 以外のいずれかの役割が割り当てられる場合、このユーザーの登録タイプ値は A になります。
- マイグレーション時に、データベース・マイグレーション・スクリプトは以下を実行します。スクリプトは、登録タイプが A であり、どのアクセス・グループにも属さない Commerce Suite 5.1 のユーザーを、WebSphere Commerce 5.4 の Administrators アクセス・グループに明示的に割り当てます。ACCMBRGRP テーブルに何も入力されていない場合、スクリプトはこのステップを実行しないことに注意してください。マイグレーション・スクリプトを実行する前に、以下を実行する必要があります。
 - Administrators アクセス・グループの定義を調べ、必要であれば、役割のリストを変更します。たとえば、Commerce Suite 5.1 のユーザーを、REGISTERTYPE=A を指定した XXX というアクセス・グループに割り当てましたが、WebSphere Commerce 5.4 で、XXX は Administrators アクセス・グループにリストされたどの役割でもない場合、追加の基準として role=XXX を Administrators アクセス・グループに追加する必要があります。
 - S および A 値について USERS テーブルの REGISTERTYPE 列を直接検査する、カスタマイズした論理がある場合、そのコードを以下のように変更する必要があります。
 - ユーザーに付与された権限を判別するために、使用している論理が REGISTERTYPE 列を検査しようとする場合、その論理をアクセス・コントロール・ポリシーに置き換えます。WebSphere Commerce 5.4 では、新しいアクセス・コントロール設計を使用できるので、権限関連の論理をハードコーディングするのではなく、アクセス・コントロール・ポリシーを使用することをお勧めします。9 ページの『アクセス・コントロール』を参照してください。
 - ご使用の論理が REGISTERTYPE 列を検査しますが、アクセス・コントロールのためでなければ、「メンバー・サブシステム」から使用できる次のいずれかのプログラミング・インターフェースを使用する必要があります。
 - isAdministrator()
 - isSiteAdministrator()
 - isMemberInRole()

これらのインターフェースの詳細については、マイグレーションを完了した後で、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。この変更によって、コードに含まれる、登録タイプの実際の値についての従属関係が除去されます。将来のバージョンの WebSphere Commerce では、登録タイプに有効な値のセットを変更できることに注意してください。

- Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション時には、メンバー・グループ内のマイグレーション済みユーザーのための、MBRGRP テーブルの EXCLUDE 列は、0 (ゼロ) に設定されます。値がゼロであるということは、そのユーザーはメンバー・グループに明示的に含まれているということです。

Payment コンポーネントのマイグレーション考慮事項

このセクションでは、Payment コンポーネントのマイグレーション考慮事項およびアクションについて説明しています。

PAYMTHD テーブルから支払ポリシーへのマイグレーション

Commerce Suite 5.1 は、3 つのデータベース・テーブルを使用して、ストアまたはストア・グループによってサポートされる支払メソッドを定義します。それらのテーブルは以下のとおりです。

PAYMTHD

支払メソッド・テーブルは、サイト単位のテーブルで、モール内で使用されるすべてのキャッシャー・プロファイルをリストしています。個々のプロファイルには固有の整数 ID および名前があります。

PAYMTHDDSC

支払メソッド説明テーブルは、サイト単位のテーブルで、サポートされている言語での、各 Commerce Suite 5.1 キャッシャー・プロファイルの簡略説明が含まれています。

PAYMTHDSUP

サポート支払メソッド・テーブルには、ストアまたはストア・グループによってサポートされているすべてのプロファイルがリストされています。

Commerce Suite 5.1 には、PAYMTHD テーブル内に 5 つのエントリーと、5 つのキャッシャー・プロファイルが同梱されています。以下の表は、PAYMTHD テーブル内の 5 つのエントリーの要約です。

PAYMTHD_ID	PROFILENAME	注釈
100	WCS51_CustomOffline	CustomOffline Cassette 用の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。
200	WCS51_OfflineCard	OfflineCard Cassette 用の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。

PAYMTHD_ID	PROFILENAME	注釈
300	WCS51_SET_MIA	MIA (Merchant Initiated Authorization) SET™ 拡張を使用する Cassette for SET (Secure Electronic Transactions) の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。
400 [®]	WCS51_SET_Wallet	ウォレットを使用する Cassette for SET の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。
500	WCS51_CyberCash	Cassette for CyberCash の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。
600	WCS51_VisaNet	VisaNet Cassette 用の標準 Commerce Suite 5.1 プロファイル。

これらの支払メソッドは、WebSphere Payment Manager がサポートする支払メソッドに限定されます。

ビジネス・ポリシーおよびビジネス・ポリシー・コマンド

WebSphere Commerce 5.4 は、ビジネス・ポリシー およびビジネス・ポリシー・コマンド の概念を導入しています。

ビジネス・ポリシーの 1 つのカテゴリは、支払ビジネス・ポリシー (略して支払ポリシー) です。支払ポリシーは、そのビジネス・ポリシーに関連したビジネス機能を実行するために、WebSphere Commerce 5.4 が呼び出すビジネス・ポリシー・コマンド・インターフェースのセットを定義します。それぞれの支払ポリシーは、それぞれのビジネス・ポリシー・コマンド・インプリメンテーションを持つことができます。

WebSphere Commerce 5.4 支払ポリシーは、Payment Manager がサポートする支払メソッドに限定されないため、Commerce Suite に定義される支払メソッドよりも一般的です。

Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションしているとき、新しい WebSphere Commerce 5.4 の機能または支払動作を使用したい場合は、OrderProcess コマンドに payMethodId を指定する代わりに、policyId を指定する必要があります。以下の表を使用して適切な変更を行ってください。

Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		
支払メソッド ID	プロファイル名	ポリシー ID	ポリシー名	プロファイル名
100	WCS51_CustomOffline	xxx ¹	CustomOffline_COD	WC51_CustomOffline_COD
		xxxy ¹	CustomOffline_BillMe	WC51_CustomOffline_BillMe
200	WCS51_OfflineCard	200	OfflineCard	WC51_OfflineCard
300	WCS51_SET_MIA	300	SET_MIA	WC51_SET_MIA
		301	SET_MIA_PCard	WC51_SET_MIA_PCard

400	WCS51_SET_Wallet	400	SET_Wallet	WC51_SET_Wallet
500	WCS51_CyberCash	500	CyberCash	WC51_CyberCash
600	WCS51_VisaNet	600	VisaNet	WC51_VisaNet
		601	VisaNet_PCard	WC51_VisaNet_PCard
		700	BankServACH	WC51_BankServACH

注: ¹ WCS51_CustomOffline プロファイル名のポリシーは提供されていません。ユーザーが独自に作成する必要があります。 WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『新規支払ポリシーの追加』のセクションを参照してください。

注: 事前定義支払ポリシーの policyId は、Commerce Suite 5.1 で使用される PayMethods の payMethodId と同じであるため、同じ値を使用できるということに注意してください。Commerce Suite 5.1 または WebSphere Commerce 5.4 のどちらの支払動作をインプリメントするかは、OrderProcess コマンドを呼び出すときに適切なパラメーターを使用することによって選択できます。

- payMethodId パラメーターを使用すると、PAYMTHD、PAYMTHDDSC、および PAYMTHDSUP テーブルを使用する Commerce Suite 5.1 の動作に合致する DoPaymentMPFCmdImpl クラスが呼び出されます。これは、ユーザーが WebSphere Commerce 5.4 で使用可能な、ATP 在庫、フルフィルメントのためのリリース、Balance[®] Payment などの、新しい機能やコマンドを使用しないことを前提としています。新しい機能またはコマンドを使用するには、payMethodId パラメーターの使用から policyId パラメーターの使用に切り替える必要があります。
- policyId パラメーターを使用すると、POLICY および POLICYCMD テーブルを使用する WebSphere Commerce 5.4 動作に合致する DoPaymentMPFCmdImpl クラスが呼び出されます。

たとえばマイグレーション済みの InFashion ストアで ATP を使用する場合は、OrderDisplayPending.jsp にある次の行を置き換えます。

```
<input type=hidden name="<%= ECConstants.EC_PAYMTHDID %>" value="200">
```

これを、次のものに置き換えます。

```
<input type=hidden name="policyId" value="200">
```

これを行わないと、Commerce Accelerator 内の PickPatches などの一部の機能が動作しません。

また、Commerce Suite 5.1 で ProfileCassetteAccountDataBean データ bean を使用している場合は、WebSphere Commerce 5.4 では UsablePaymentTCListDataBean データ bean を使用するように切り替える必要があります。ProfileCassetteAccountDataBean データ bean は、Commerce Suite 5.1 テーブルの PAYMTHD、PAYMTHDDSC、および PAYMTHDSUP を使用します。UsablePaymentTCListDataBean データ bean は、新規の WebSphere Commerce 5.4 テーブル POLICY および POLICYCMD を使用します。

OrderProcessCmd コントローラー・コマンドを使用してオーダーを処理する場合は、WebSphere Commerce 5.4 の DoPaymentCmd タスク・コマンド用の標準インプリメンテーション・クラスである、DoPaymentMPFCmdImpl クラスが呼び

出されます。 WebSphere Commerce 5.4 での支払いの処理方法の詳細については、オンライン・ヘルプの WebSphere Payment Manager についてのセクションを参照してください。上記のインターフェースの詳細については、オンライン・ヘルプを参照してください。

指定の支払条件がある契約を使用する B2B ストアにマイグレーションする場合、アカウント、契約、および支払条件を作成するには、WebSphere Commerce 5.4 Commerce Accelerator を使用します。その場合は、使用する支払条件を識別するための tcId パラメーターも必要になります。支払条件に関連した tcId を戻すには、UsablePaymentTCListDataBean データ bean を使用します。

支払ポリシーの追加情報については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。 WebSphere Commerce 5.4 には、ここでリストされているものに加えて、いくつかのその他の支払ポリシーがあります。

支払い用の WebSphere Commerce 5.4 ビジネス・ポリシー・コマンドへのマイグレーション

WebSphere Commerce 5.4 は、支払ポリシーに対して、以下の一連のビジネス・ポリシー・コマンド・インターフェースを指定します。

- DoPaymentPolicyCmd
- CheckPaymentAcceptPolicyCmd
- DoDepositPolicyCmd
- DoRefundPolicyCmd
- DoCancelPolicyCmd

それぞれの支払ポリシーは、これらのコマンドごとに異なるインプリメンテーションを持つことができます。

WebSphere Commerce 5.4 は、WebSphere Commerce 5.4 に含まれる支払ポリシー用の 2 セットのインプリメンテーション・クラスを定義しています。一方のセットは、WebSphere Payment Manager に基づく支払ポリシーをサポートし、他のセットは、WebSphere Payment Manager に基づかない信用限度支払ポリシーをサポートします。 WebSphere Payment Manager に基づく支払ポリシー用のビジネス・ポリシー・コマンドのインプリメンテーション・クラスは、以下のとおりです。

- DoPaymentPMCmdImpl
- CheckPaymentAcceptPMCmdImpl
- DoDepositPMCmdImpl
- DoRefundPMCmdImpl
- DoCancelPMCmdImpl

信用限度支払ポリシー用のビジネス・ポリシー・コマンドのインプリメンテーション・クラスは、以下のとおりです。

- DoPaymentCLCmdImpl
- CheckPaymentAcceptCLCmdImpl
- DoDepositCLCmdImpl
- DoRefundCLCmdImpl
- DoCancelCLCmdImpl

使用される支払ポリシーに応じて、適切なビジネス・ポリシー・コマンドのインプリメンテーション・クラスが呼び出されます。

上記のインプリメンテーション・クラスの詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

DoCancelCmd の CMDREG エントリーの変更

Commerce Suite 5.1 で InFashion ストアを使用する場合や、WebSphere Payment Manager を使用する独自のストアを作成した場合、これを WebSphere Commerce 5.4 で機能させるためには、DoCancelCmd の CMDREG エントリーを変更する必要があります。Commerce Suite 5.1 では、DoCancelCmd は、WebSphere Payment Manager が使用されている場合に、クラス

`com.ibm.commerce.payment.commands.DoCancelPMCmdImpl` に割り当てられます。

WebSphere Commerce 5.4 では、DoCancelCmd は、クラス

`com.ibm.commerce.payment.commands.DoCancelCmdImpl` に割り当てられる必要があります。DoCancelCmdImpl インターフェースは、呼び出しを、支払いに使用される支払ポリシーに応じて DoCancelPMCmdImpl または DoCancelCLCmdImpl に経路指定します。

51 ページの『データベース・スキーマのマイグレーション』で説明されているデータ・マイグレーション・スクリプトを実行している場合、この変更は自動的に行われることに注意してください。

サンプル JavaServer ページ・ファイル - PayStatusPM.jsp

/QIBM/ProdData/WebCommerce/samples/web/payment ディレクトリー内のサンプル JavaServer ページ・ファイル PayStatusPM.jsp は、Payment Manager 3.1.2 用にいくらか更新されています。この変更は、JSP がオーダーの支払いの状態に関連した正しい状況メッセージを生成するために必要なものです。

前のリリースでは、PayStatusPM.jsp は、Payment Manager オーダーの状態 Refundable を、そのオーダーの支払いが、承認済み状態の先にまで進んでいることを示すものとして扱います。したがって、これはショッパーに対してオーダーが「承認された.....」ことを保証する状況メッセージを生成します。これは、Commerce Suite 5.1 に同梱されている Payment Manager カセットでも同様でした。

しかし、Payment Manager 3.1 では、一部のカセットは Payment Manager オーダーが作成されるとすぐに、そして支払いが承認される前に、Payment Manager オーダーの状態を Refundable 状態に設定します。このため、正しい状況メッセージを生成するには、PayStatusPM.jsp を変更してこれを使用可能化する必要があります。

この動作を表す Payment Manager カセットは以下のとおりです。

- Cassette for CyberCash
- Cassette for VisaNet
- CustomOffline Cassette
- OfflineCard Cassette

独自のバージョンの PayStatusPM.jsp を持っており、WebSphere Commerce 5.4 で上記のカセットを使用することを計画している場合は、対応する変更を JSP に加えることによって、ショッパーがページを表示するときにショッパーに正しい状況

メッセージが表示されるようにする必要があります。(Payment Manager オーダーの状態 Refundable は、支払いがすでに承認済み という意味ではない場合もあることに留意してください。)

詳細については、WebSphere Commerce 5.4 で提供されている PayStatusPM.jsp ファイルを参照してください。これは、
/QIBM/ProdData/WebCommerce/samples/web/payment ディレクトリーにあります。

マイグレーション時のダウン時間の最小化



このセクションでは、2 つのマシンを使用するマイグレーション時に、システムがオフラインである時間を最小限にするためのハイレベルな方法を記載しています。

Commerce システムをかなりの程度カスタマイズした場合は、この方法を使用するために IBM サポートに連絡することが必要になることがあります。

このマイグレーション・ガイドで説明されているマイグレーション・プロセスは、一般にインプレースでマイグレーションする場合を対象にしています。つまり、同じマシン上で、使用している Commerce Suite 5.1 システムを WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションします。この場合、マイグレーション・プロセス時には、WebSphere Commerce 5.4 をオンラインにするまで、Commerce Suite システムをシャットダウンする必要があります。

以降のいくつかのセクションでは、マイグレーションの進行によってシステムがオフラインである時間を最小限にする 2 つの方法を示しています。どちらの方法も 2 台のマシンを必要とします。

注:

1. これらのアプローチでは、Commerce Suite システムのダウン時間を最小限にできますが、WebSphere Commerce 5.4 システムを設定するための別のハードウェア・リソースが必要です。ただし、マイグレーションを完了した後に、その他の目的で使用する場合は Commerce Suite マシンを再デプロイできます。
2. Commerce Suite 5.1 インスタンスがデータベースを Payment Manager 2.2 インスタンスと共用する場合は、Payment Manager インスタンスをマイグレーションする前に、WebSphere Commerce 5.4 データベースを実動 Commerce Suite 5.1 システムの現行情報でリフレッシュする必要があります。データをリフレッシュする前に Payment Manager インスタンスをマイグレーションすると、Payment Manager 3.1 へのマイグレーション中に行われるテーブル変更が、データベースがリフレッシュされるときにすべて失われます。このようなことになったら、マイグレーションされた Payment Manager インスタンスを削除して、Payment Manager 2.2 インスタンスのマイグレーションをやり直す必要があります。
3. iSeries マシンの Payment Manager 2.2 インスタンスを別のマシンへ移動する方法の説明は、次の Web アドレスで参照してください。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/servers/lit-tech-os400.html

あるシステムの Payment Manager インスタンスを別のシステムへ移動する方法は複雑な作業になり、この場合はファイルとデータベース・テーブルを手動で更新する必要があります。この方法で行う場合は、IBM サポートへの相談が必要になることがあります。

単独のマシンへの WebSphere Commerce 5.4 のインストール

この方法では、WebSphere Commerce 5.4 を新規マシンにインストールして WebSphere Commerce Suite 5.1 資産をその新規マシンにコピーし、それらの資産をマイグレーションします。

1. 33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』の説明に従って、Commerce Suite 5.1 システム、および Commerce Suite 5.1 と WAS のデータベースをバックアップします。
2. *WebSphere Commerce* インストール・ガイド バージョン 5.4 の説明に従って、この製品の要件を満たす新しいマシンに WebSphere Commerce 5.4 をインストールします。
3. CRTUSRPRF コマンドを使用して、インスタンス・プロファイルの複製のインスタンスについてのプロファイルを作成します。プロファイルの HOME ディレクトリーおよびその内容も複製します。
4. Commerce Suite および WAS データベース (ステップ 1 でバックアップしたもの) を、WebSphere Commerce 5.4 システムにリストアします。データベースのリストア方法については、使用しているデータベースに付属の製品資料を参照してください。
5. Commerce Suite インスタンス・ディレクトリーを WebSphere Commerce 5.4 マシンにコピーします。たとえば、Commerce Suite 5.1 でデフォルトのインスタンス位置を使用する場合は、すべての `/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/your_instance` ディレクトリーを Commerce Suite 5.1 マシンから WebSphere Commerce 5.4 マシンにコピーする必要があります。
6. 次のファイルを Commerce Suite 5.1 マシンから WebSphere Commerce 5.4 マシンにコピーします。
 - `/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/` ディレクトリーの `wcs_instances` ファイル。WebSphere Commerce 5.4 をインストールした、対応する `instances` ディレクトリーにコピーします。
7. 本書の説明に従って、インスタンス・マイグレーション手順を実行します。
8. WebSphere Commerce 5.4 マシンでリストアした Commerce Suite および WAS データベース上で、45 ページの『データベースのマイグレーション』の説明に従ってデータ・マイグレーション手順を実行します。
9. 必要に応じて、本書で説明されている他のすべてのマイグレーション手順を実行します。
10. WebSphere Commerce 5.4 ストアで公開およびショッピングが可能であること、およびシステムがおおむね作動可能であることを確認します。
11. 必要に応じて WebSphere Commerce 5.4 システムを拡張し、新しい機能を最大限に活用します。新機能を実装する方法の詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

12. 以下のようにして、WebSphere Commerce データを、オンラインのままである実動 Commerce Suite 5.1 システムからの最新情報でリフレッシュします。
 - a. マイグレーション済みの WebSphere Commerce 5.4 データベースをバックアップします。
 - b. Commerce Suite 5.1 システムをオフラインにします。
 - c. もう一度 Commerce Suite 5.1 データベースをバックアップして WebSphere Commerce 5.4 マシンにリストアし、最初のバックアップおよびリストア以後の Commerce Suite 5.1 データベースに対する変更を取り込みます。
 - d. Commerce Suite 5.1 システムをシャットダウンします。
 - e. 最新の Commerce Suite 5.1 データベースで、45 ページの『データベースのマイグレーション』の説明に従ってデータ・マイグレーション手順を実行します。
 - f. パスワードおよびクレジット・カードの情報を再マイグレーションします。これを実行するには、以下のようになります。
 - 1) オリジナルのマーチャント・キーを、Commerce Suite 5.1 の instance.xml ファイルから、マイグレーション済みの WebSphere Commerce 5.4 の instance.xml ファイルにコピーします。
 - 2) パスワードおよびクレジット・カードの情報を、64 ページの『セキュリティー構成のマイグレーション』で説明しているとおりに再マイグレーションします。

注: 上記のステップでデータベースをリフレッシュしている間に、新規ユーザーがシステム上で作成された場合、Commerce インスタンスおよびマーチャント・キーを 43 ページの『第 4 章 インスタンスのマイグレーション』で説明しているとおりに再マイグレーションする必要があります。そうしないと、WebSphere Commerce データをリフレッシュした後にこれらのステップを再度実行することが必要になります。

13. WebSphere Commerce 5.4 システムが作動可能であることを確認したら、オンラインにすることができます。

単独のマシンへの WebSphere Commerce Suite 5.1 環境の複製

この方法では、WebSphere Commerce Suite 5.1 環境を新規マシンに複製してこれらの資産を WebSphere Commerce 5.4 レベルにその新規マシン上でマイグレーションします。これは以下のようになります。

1. 33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』の説明に従って、実動 Commerce Suite 5.1 システム、および Commerce Suite 5.1 と WAS のデータベースをバックアップします。以下のアイテムにアクセス可能であることを確認します。
 - WebSphere Commerce Suite 5.1 データベース・イメージ。
 - WebSphere Commerce Suite 5.1 Web 資産ファイル (たとえば JSP および *.html ファイル)。
 - カスタマイズ済みのプロパティ・ファイル。
2. 最終的に WebSphere Commerce 5.4 マシンになる新規マシンに WebSphere Commerce Suite 5.1 をインストールします。この説明の目的に応じて、これは **ステージング・マシン** と呼びます。

3. CRTUSRPRF コマンドを使用して、インスタンス・プロファイルの複製のインスタンスについてのプロファイルを作成します。プロファイルの HOME ディレクトリーおよびその内容も複製します。
4. 1 (23 ページ) でバックアップしたデータベース・イメージと Web 資産ファイルをこのステージング・マシンにリストアします。
5. ステージング・マシンの環境と構成をセットアップして、可能な限り実動マシンに近いものにします。 WebSphere Commerce Suite 5.1 システムおよびストアが、ステージング・マシン上で作動可能であることを確認します。
6. 33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』の説明に従って、ステージング・サーバー・マシンをバックアップします。
7. このガイドの説明に従って、ステージング・マシン上でインプレース・マイグレーションを続行します。特に以下を実行します。
 - 64 ページの『セキュリティー構成のマイグレーション』の説明に従って、マーチャント・キーのマイグレーション手順を実行します。
 - 66 ページの『ストア・ファイル資産のマイグレーション』で説明されているように、ストア・データをマイグレーションします。
 - 必要に応じて、本書で説明されている他のすべてのマイグレーション手順を実行します。
 - 45 ページの『データベースのマイグレーション』の説明に従って、データ・マイグレーション手順を実行します。
8. マイグレーションしたストアで公開およびショッピングが可能であること、およびシステムがおおむね作動可能であることを確認します。
9. これが WebSphere Commerce 5.4 レベルで作動可能であれば、必要に応じてステージング・システムを拡張し、新しい WebSphere Commerce 5.4 機能を最大限に活用します。新機能を実装する方法の詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。
10. 以下のようにして、ステージング・マシン上の WebSphere Commerce データを、オンラインのままである実動 Commerce Suite 5.1 システムからの最新情報でリフレッシュします。
 - a. マイグレーション済みの WebSphere Commerce 5.4 データベースをステージング・マシンにバックアップします。
 - b. Commerce Suite 5.1 システムをオフラインにします。
 - c. もう一度 Commerce Suite 5.1 データベースをバックアップして WebSphere Commerce 5.4 ステージング・マシンにリストアし、最初のバックアップおよびリストア以後の Commerce Suite 5.1 データベースに対する変更を取り込みます。
 - d. Commerce Suite 5.1 システムをシャットダウンします。
 - e. 最新の Commerce Suite 5.1 データベースで、45 ページの『データベースのマイグレーション』の説明に従ってデータ・マイグレーション手順を実行します。
 - f. パスワードおよびクレジット・カードの情報を再マイグレーションします。これを実行するには、以下のようにします。

- 1) オリジナルのマーチャント・キーを、Commerce Suite 5.1 の instance.xml ファイルから、マイグレーション済みの WebSphere Commerce 5.4 の instance.xml ファイルにコピーします。
- 2) パスワードおよびクレジット・カードの情報を、64 ページの『セキュリティー構成のマイグレーション』で説明しているとおりに再マイグレーションします。

注: 上記のステップでデータベースをリフレッシュしている間に、新規ユーザーがシステム上で作成された場合、Commerce インスタンスおよびマーチャント・キーを 43 ページの『第 4 章 インスタンスのマイグレーション』で説明しているとおりに再マイグレーションする必要があります。そうしないと、WebSphere Commerce データをリフレッシュした後にこれらのステップを再度実行することが必要になります。

11. WebSphere Commerce 5.4 システムが作動可能であることを確認したら、オンラインにすることができます。

WebSphere Application Server 4.0 への遷移

WebSphere Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 で変わった大きな点の 1 つは、WebSphere Application Server 4.0 のサポートです。このセクションでは、WebSphere Application Server 4.0 へ移行する前に考慮しておく必要のある主要な点のいくつかを大まかに説明します。

バージョン 4.0 の WebSphere Application Server は Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) の仕様に完全に準拠しているため、IBM WebSphere Application Server 3.5 バージョンのときに比べて WebSphere Application Server 製品の編成が大きく変更されています。

このレベルの WebSphere Application Server にアップグレードするための詳しい手順については、38 ページの『WebSphere Application Server 4.0.2 へのアップグレード』で説明されています。

遷移の概要

このセクションでは、旧バージョンから WebSphere Application Server 4.0.1 で大きく変わった点を取り上げます。

- J2EE では、開発 (アプリケーションの作成) と管理 (アプリケーションのインストールと運用) の間に明確な区別があります。

この区別は、デプロイ環境に依存しないアプリケーションの開発を可能にします。加えて、J2EE がタスクを区別することによって、初期開発から実動までアプリケーションをプロモートしていくプロセスや、あるサーバーから別のサーバーへアプリケーションを移動するプロセスは単純化されます。これらのそれぞれのケースでは、アプリケーション・コードの変更は必要ありません。変更される可能性があるのはデプロイメントのパラメーターだけです。

バージョン 4.0 は、再編成されたインターフェースによって J2EE でのタスクの区別をサポートします。バージョン 3.x のときは、開発者はアプリケーションの作成、編集、および表示に管理コンソールを使用しましたが、バージョン 4.0 では Application Assembly Tool (AAT) が使用されます。

バージョン 4.0 では、各アプリケーションがサーバー・ドメインにインストールされ、インストールのときに環境にバインドされます。これによって、アプリケーション・レベルでの管理とモジュール・レベルでの管理が可能になり、管理者が個々のサーブレットや JSP や bean を扱う必要はなくなります。

- J2EE では、アプリケーションとアプリケーション・サーバーの関係が変わりません。

エンタープライズ・アプリケーションには、たくさんの Web モジュールや EJB モジュールが含まれていることがあります。それぞれのモジュールは、異なるアプリケーション・サーバーやそのグループにインストールできます。これは、そのサーバーやサーバー・グループが複数のノードに分かれている場合でもそうです。結果として、1 つのアプリケーションの中に多くのアプリケーション・サーバーやそのグループに広がるたくさんのモジュールを含めること、そして同様に、数多くの異なるアプリケーションのモジュールを 1 つのアプリケーション・サーバーやそのグループにインストールすることが可能になります。

J2EE アプリケーションを作成したら、管理コンソールを使用してそれをアプリケーション・サーバーにインストールできます。インストールしたモジュールは、管理コンソールで、属しているアプリケーション別に表示させたりインストール先のアプリケーション・サーバー別に表示させたりすることができます。モジュールの開始と停止は、個々のモジュール別にも、集合的にも実行できます。集合的なモジュールの開始は、それらのモジュールが属しているアプリケーションを開始することによっても行えますし、インストール先のアプリケーション・サーバーを開始することによっても行えます。モジュールの停止に関してもこれと同様です。

新しい J2EE アプリケーションのデプロイメント

J2EE アプリケーションの作成には、2 つのステップが関係します。1 つは該当するファイルをアーカイブ (クラス、JSP、HTML、イメージ・ファイルなど) にコピーすること、そしてもう 1 つはモジュールやアプリケーションごとにデプロイメント記述子ファイルを作成することです。バージョン 4.0 では、AAT が、ユーザーが該当する相対パスのファイルをアーカイブにコピーできるようにし、デプロイメント記述子を定義するための GUI 方式を提供することによって、この両方のステップをサポートしています。

開発者は、AAT を使用して、環境固有のバインディング情報も設定できます。これらのバインディングは、アプリケーションが管理コンソールでインストールされるときにデフォルトとして使用されます。加えてユーザーは、J2EE の仕様に対し、クラス名でサーブレットを呼び出せるようにするなどの IBM 拡張を定義することもできます。他のアプリケーション・サーバーへの移植性を確保するため、これらの拡張は通常の J2EE デプロイメント記述子とは別の XML ファイルに保管されます。

役割ベースのセキュリティー

バージョン 4.0 のセキュリティーは、J2EE の役割ベースのセキュリティーの仕様に従っています。役割は、アプリケーションのデプロイメント記述子で指定され、アプリケーションがインストールされるときにユーザーかグループにバインドされます。管理コンソールでは、セキュリティー・センターを使用して、1 つのロケーションからすべてのセキュリティー・タスクを実行することができます。これには、アプリケーション内の役割に関するバインディング情報の変更から、セキュリ

ティーを有効にする SSL プロパティの設定に及ぶすべてが含まれます。また、アプリケーション固有のセキュリティー・タスクも、各アプリケーションのプロパティ・シートから実行できます。

以前インストールしたアプリケーションの再デプロイメント

バージョン 3.x では、すべてのタスクが管理コンソールから実行されました。しかしバージョン 4.0 では、アプリケーションの設定が AAT を通して J2EE デプロイメント記述子で定義されるようになります。

インストールされているアプリケーションのバインディングに影響を与える情報を変更する必要がない場合は、その場でデプロイメント記述子を編集して保管することができます。このようなアプリケーションを再デプロイするには、そのアプリケーションが保持されている `installedApps` フォルダで直接 AAT をオープンします。

アプリケーションを手動で作成したり編集したりすることも可能です。たとえば、JSP を追加する必要がある場合やサーブレット・クラスを変更する必要がある場合は、単純に新しい (または変更した) ファイルを `installedApps` フォルダ内の該当するロケーションに置くことができます。

バインディングに変更が必要なインストール済みのアプリケーションを再デプロイする場合は、管理コンソールを使用してアプリケーションをエクスポートし、それを AAT で編集した後、再び管理コンソールを使用してそれを再インストールします。既存のバインディング情報はエクスポートの段階で保管されるため、編集の際に追加されたコンポーネントやモジュールに必要な追加のバインディング情報だけが必要です。

注: セキュリティーと整合性を得るため、Web アプリケーションの URL については、すべてのオペレーティング・システムで大文字と小文字が区別されるようになります。

J2EE リソース・タイプのサポート

バージョン 4.0 では、JDBC プロバイダーやデータ・ソースに加えて、URL や JMS、JavaMail といったいくつかのリソース・タイプが追加されました。どのタイプについても、リソース・プロバイダー (JDBC プロバイダー、URL プロバイダー、および JMS プロバイダー) を作成し、その各プロバイダーにリソース・ファクトリー (データ・ソース、URL、JavaMail セッション、JMS 宛先および JMS 接続) を作成することができます。ただし JavaMail については、構成不可能であり、追加の JavaMail を作成できないため、デフォルトの JavaMail プロバイダーは管理コンソールに表示されません。

J2EE がモデル作成や複製に与える影響

バージョン 3.x では、様々なタイプのオブジェクトをモデルとして用いたり複製したりすることができます。しかし、バージョン 4.0 では、J2EE に準拠するようになったため、複製できるのはアプリケーション・サーバーだけです。これらのモデルはサーバー・グループと呼ばれます。各サーバー・グループには、複数のアプリケーション・サーバーや複製を含めることができます。

詳細情報の入手方法

J2EE の詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://java.sun.com>

構成サポートの変更に関する詳細は、WebSphere Application Server 4.0.1 のマイグレーション情報に含まれている関連情報をご覧ください。WebSphere Application Server 4.0.1 の情報は、次の Web サイトにある WebSphere Application Server Info Center で入手できます。詳細なマイグレーションの手順については、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver/40Migration/40Migration3xToAE.html>

バージョン 4.0 へのハイレベルのアップグレード方法については、以下のセクションを参照してください。

製品の前提条件のマイグレーション

前提条件や要件に関する最新の情報は、次の場所にある WebSphere Application Server 4.0.2 の前提条件の Web サイトで確認できます。

http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/doc/v40/prereqs/ae_v402.htm

使用している JDBC プロバイダーが新しいインストールにふさわしいレベルのものであるかどうかを確認してください。このドライバーは、管理データベースに接続するために製品管理サーバーで必要とされます。

他の無料の前提条件のマイグレーション

WebSphere Application Server 4.0.1 では、製品の前提条件のマイグレーションを簡単にするため、サポートされているオペレーティング・システムに無料の JDK をインストールするオプションが用意されています。この JDK は、WebSphere Application Server 4.0.1 で必要とされるレベルとタイプにぴったり適合するものです。詳細については、WebSphere Application Server 4.0.1 のインストール・ガイドを参照してください。

CD 版の製品には、無料の前提条件が組み込まれています。Web ダウンロード版は様々で、データベース付きのものとデータベース無しのものなどがあり、ダウンロード・ファイルのサイズを選択できるようになっています。CD から製品をインストールするのでない場合は、製品の Web サイトで詳細を確認してください。使用したいフィーチャーが含まれているインストール・パッケージをダウンロードするようにしてください。

製品をインストールするときには、バックレベルの前提条件をアンインストールし、新しいバージョンをインストールできます。

非 IBM 前提条件のマイグレーション

それですで最初に、先に言及した前提条件のページを調べて、どのソフトウェアにマイグレーションやアップグレードが必要かを確認してください。次いで、特定の製品に関する資料から、この製品でサポートされているバージョンへのマイグレーションの方法を確認してください。WebSphere Application Server 4.0.1 のインストール

ール時に提供されない前提条件については、 WebSphere Application Server 4.0.1 をインストールする前に 前提条件をマイグレーションないしアップグレードするのが、最も安全な方法です。

バージョン 4.0 への構成のマッピング

このセクションでは、前のバージョンの製品の構成をリストアする際に、オブジェクトや属性をバージョン 4.0 環境にマップする方法について詳しく説明します。

- ディレクトリー stdin、stdout、stderr; パッシベーション・ディレクトリーおよび作業ディレクトリー

これらのディレクトリーの一般的なロケーションには、バージョン 3.x のインストール・ディレクトリーが含まれている場合がありますが、新しいバージョン 4.0 のインストールではこのロケーションが異なることがあるため、これらのエントリーが指定された場合は追加のチェックが行われます。バージョン 3.x と異なり、バージョン 4.0 のインストールでは、stdin、stdout、および stderr のデフォルト・ロケーションが logs ディレクトリーになっています。ディレクトリーのマッピングの前には、パッシベーション・ディレクトリーと作業ディレクトリーの有無がチェックされます。これらのディレクトリーが存在する場合は、それが使用され、存在しない場合は、代わりに適当なデフォルトが使用されます。

- エンタープライズ Bean

バージョン 3.x でサポートされていた仕様レベルは EJB 1.0 だけでしたが、バージョン 4.0 では、EJB 1.1 だけがサポートされています。とはいえ、多くの EJB 1.0 の bean は、EJB 1.1 の bean として正常にデプロイできます。エンタープライズ Bean は、アプリケーション・マイグレーションのフェーズの一部として自動的に再デプロイされます。必ず WASPostUpgrade.log を調べてこれらの bean のデプロイメントの詳細を確認し、必要な変更を加え、再デプロイしてください。

- JDBC プロバイダーとデータ・ソース

バージョン 4.0 では、JDBC オブジェクトと DataSource オブジェクトがかなりの程度再定義されています。これらのオブジェクトは、バージョン 3.x の設定を入力変数として用い、新しい構成にマップされます。

バージョン 3.x からマップされたデータ・ソースと、サンプルで定義されているデータ・ソースの違いにお気付きになったかもしれません。この違いは、データ・ソースのユーザー ID とパスワードのフィールドにあります。サンプルではデフォルトのユーザー ID とパスワードが入っていますが、マイグレーションされたデータ・ソースはそうになっていません。これは、ユーザー ID とパスワードのデータが、データ・ソースではなく、エンタープライズ Bean のバインディングで定義されるからです。バージョン 3.x では、情報がコンテナ・レベルと EJB レベルで定義されているため、これを エンタープライズ Bean にマップする必要があります。

- JSP レベル

バージョン 4.0 は、JSP 0.91 をサポートしていません。それで、JSP 0.91 として実行するように構成された JSP オブジェクトはマイグレーションされませんが、これらは出力の中に入れられ、ログに記録されます。バージョン 4.0 では JSP 1.1 しかサポートされていないため、JSP 1.0 オブジェクトと 1.1 オブジェクトは JSP 1.1 として実行されます。

- モデルと複製

バージョン 4.0 では、モデルと複製の定義が大きく変わっています。バージョン 4.0 でモデルおよび複製としてサポートされるのは、アプリケーション・サーバーだけです。この点は、多くのオブジェクトがモデルや複製として使用できたバージョン 3.x とは大きく異なっています。バージョン 4.0 では、アプリケーション・サーバーに関係するすべてのモデルと複製がサーバー・グループにマップされます。

以前複製可能だった他のすべてのオブジェクトのマイグレーションでは、特別なマッピングが行われます。すべての複製は単なるオブジェクトとして扱われ、複製ではないかのようにマップされます。また、アプリケーション・サーバー・モデル以外のモデルは無視され、マップされません。

- 複数のアプリケーション・サーバー

バージョン 4.0 の Advanced Single Server エディションと Advanced Developer エディションでは、一度に 1 つのアプリケーション・サーバーしか構成できません。バージョン 3.x では、一度にたくさんのアプリケーション・サーバーを定義することができました。これらのオブジェクトをバージョン 4.0 のどちらかのエディションにマイグレーションする際は、アプリケーション・サーバーの名前によって、行われるマイグレーションが判別されます。アプリケーション・サーバーの名前が適合する場合（たとえば、Default Server など）は、以前の構成に合わせてバージョン 4.0 オブジェクトの属性が更新され、子はすべてそのアプリケーション・サーバーにマイグレーションされます。一方名前が適合しなかった場合は、そのバージョン 3.x アプリケーション・サーバーの子だけが、バージョン 4.0 環境内の 1 つのアプリケーション・サーバーにマイグレーションされます。

- ノード名

バージョン 3.x のリポジトリには、複数のノード名とそれに関連付けられた子を入れることができます。しかし WASPostUpgrade ツールでは、マイグレーションされるノードに一致するオブジェクトとその子だけしか処理されません。この判断は、構成ファイル内のノードの名前と、マイグレーションされるマシンの完全修飾および非修飾ネットワーク名を調べることによって下されます。

- サーブレット・リダイレクター

バージョン 4.0 では、サーブレット・リダイレクターはサポートされていません。これらのオブジェクトは無視されます。

- トランスポート

バージョン 3.x のサーブレット・エンジンのデフォルト・トランスポート・タイプは、Open Servlet Engine (OSE) でした。しかし、バージョン 4.0 では OSE トランスポートがサポートされなくなったため、これらのトランスポートは同じポート割り当てで HTTP トランスポートにマップされます。

- datasources.xml

バージョン 3.x では、datasources.xml ファイルを使用してデータ・ソース構成の設定を補足できました。このファイルは properties ディレクトリに保管されました。このファイルが存在している場合は、ファイル内のプロパティーがデータ・ソースの構成と JDBC プロバイダーの構成にマージされます。

新しいインストール単位に以前の構成をリストアする

バージョン 3.x 以降のインストールでは、システム構成のマイグレーションを助ける一連のマイグレーション・ツールが製品に装備されています。これらのツール

は、自動マイグレーション・サポートの一環として、製品インストール・プログラムによって呼び出されますが、コマンド行から自分で呼び出すことも可能です。

バージョン 3.x の構成をリストアするツールは WASPostUpgrade といいます。このツールは、WASPreUpgrade ツールによって作成された情報を使用して、バージョン 4.0 のインストール単位に以前のバージョン 3.x の構成をリストアします。

バージョン 4.0 の製品は J2EE のプログラミング・モデルに従っていますが、それより前のバージョンはこれに従っていないため、バージョン 3.x の構成をバージョン 4.0 のインストールに適用するには、かなりの変更が必要になります。

J2EE アプリケーションの作成とデプロイメント

J2EE のプログラミング・モデルでは、アプリケーションを作成しデプロイする方法に関して、アーキテクチャーが指定されています。バージョン 3.x のアプリケーションにはこの同じアーキテクチャーが使用されていないため、マイグレーションのプロセスでは、これらのアプリケーションを再作成します。マイグレーションされた Web リソースとエンタープライズ bean は、J2EE アプリケーションで作成されます。バージョン 3.x で定義されたエンタープライズ・アプリケーションは、すべて、同じ名前を J2EE アプリケーションにマップされ、デフォルトのサーバーにデプロイされます。マップされたもののエンタープライズ・アプリケーションに組み込まれていない、他のすべての Web リソースとエンタープライズ bean は、*DefaultApplication* というデフォルトの J2EE アプリケーションにマップされます。

Web アプリケーションは J2EE WAR ファイルにマップされます。エンタープライズ Bean は EJB 1.1 bean として J2EE JAR ファイルにデプロイされます。これらのリソースは J2EE EAR ファイルに結合されて、バージョン 4.0 の構成にデプロイされます。EJB 1.0 の仕様と EJB 1.1 の仕様との間にはいくつかの違いがありますが、ほとんどのケースで、EJB 1.0 bean は EJB 1.1 bean として正常に実行することが可能です。なお、WASPostUpgrade.log (このトピックの最後を参照) には、デプロイされた各 bean に固有の詳細情報が保管されていますので、このログを注意深く分析してください。

セキュリティ

バージョン 3.x 環境に適用できたセキュリティ設定は、マイグレーション・プロセスの一環として J2EE のセキュリティ属性に適用されます。

サンプル

サンプルはマイグレーションされません。これは、バージョン 4.0 の J2EE に合わせて特別に変更されています。ですから、バージョン 3.x 製品で以前提供されたサンプルは使用せずに、新しいサンプルを使用してください。

マッピングに関する詳細

オブジェクトや属性をバージョン 4.0 の構成にマップする方法についての詳細は、関連情報を参照してください。

ロギング

WASPostUpgrade ツールは、稼働中、その状況を画面に表示します。さらに WASPostUpgrade は、より詳しい一連のロギング情報を logs ディレクトリーに保管します。ログは WASPostUpgrade.log というファイルに記録されます。このファイルはテキスト・エディターで表示できます。

第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ

本書で説明しているマイグレーション・プロセスを進める前に、実動 Commerce Suite 5.1 システムの完全なシステム・バックアップを実行する必要があります。これにより、WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション中に問題が生じても、以前のシステムにリカバリーすることができます。

同じ場所へ マイグレーションをする場合には、WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーションが完了したら、以前のバージョンの Commerce Suite 5.1 に復帰することはできません。同じマシンでの WebSphere Commerce 5.4 と Commerce Suite 5.1 の共存はサポートされていません。

Commerce Suite 5.1 システムのバックアップ

使用している Commerce Suite 5.1 システムをバックアップするには、以下のようになります。

- 使用するオペレーティング・システムに付属する資料か、バックアップおよびリストア専用ソフトウェアに付属する資料に従って、Commerce Suite システムの完全なシステム・バックアップを実行します。通常は、磁気テープ装置、ZIP ドライブ、または他のファイル・システムにシステムをバックアップできます。
- バックアップには、Commerce Suite 5.1 で使用したカスタマイズ・ファイルおよびディレクトリー、さらにデータベース、Web サーバー、WebSphere Payment Manager、WebSphere Application Server、および IBM Developer Kit, Java 2 Technology Edition などの関連コンポーネントを含める必要があります。
- 特に、基礎となるすべてのサブディレクトリーとファイルを含む、主な Commerce Suite 5.1 インストール・ディレクトリーについては、マイグレーション・プロセス中にそれらのディレクトリーとファイルの参照が必要になることがあるので、マイグレーション・プロセス時に容易にアクセスできる場所にバックアップします。

ディレクトリーおよびファイルのバックアップ

以下のディレクトリーまたはファイルを手動でバックアップするには、次のようになります。

1. コマンド・プロンプトで、一次バックアップ・ディレクトリーを作成します。
2. Commerce Suite 5.1 インスタンス・ディレクトリー (/QIBM/UserData/CommerceSuite5) に切り替えます。
3. 適切なディレクトリーまたはファイルを選択し、一時バックアップ・ディレクトリーにコピーします。あるいは、次のようにオブジェクトの保管 (SAV) コマンドとオブジェクトのリストア (RST) コマンドを使用して、ファイルとディレクトリーを保管してリストアします。

```
SAV DEV('save_file') OBJ(('IFS_folder'))  
RST DEV('save_file') OBJ(('IFS_folder'))
```

たとえば次のコマンドを (1 行で) 使用すると、
/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/myinstance フォルダが MYLIB ライブラリー内の保管ファイル (myinstsav) にバックアップされます。

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYINSTSAV.FILE')  
OBJ('/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/myinstance')
```

フォルダーとその内容は、次のコマンドを (1 行で) 使用してリストアできます。

```
RST DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYINSTSAV.FILE')  
OBJ('/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/myinstance')
```

特に、次のディレクトリーおよびファイルをバックアップする必要があります。

- Commerce Suite 5.1 インスタンス・ディレクトリー
/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances
- 次のような主な Commerce Suite 5.1 インストール・ディレクトリーのサブディレクトリー
 - インスタンスのルート・ディレクトリーと、そのすべてのサブディレクトリー
/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/*instance_name*/*
- 次のような重要な Commerce Suite 5.1 構成ファイル
 - /QIBM/ProdData/CommerceSuite5/bin ディレクトリーの *cfg.passwd* ファイル。
 - /QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/ ディレクトリーの *wcs_instances* ファイル。
 - /QSYS.LIB/QUSRSYS.LIB/QATMHTTPC.FILE ディレクトリーの HTTP Config ファイル。
 - /QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/*your_instance*/xml/rules ディレクトリーの *wcs.server* ファイル。
 - 静的 HTML ページや GIF ファイルなどのファイル・ベースのコンテンツ。
 - データベース *.sql* スクリプト。
 - JavaServer Pages (JSP ファイル)。
 - カスタマイズしたコマンドおよびファイル (たとえば、*.java*、*.class*、*.jar*、*.zip*、または *.properties* ファイル)。
 - カスタマイズした文書ファイル (たとえば、*.pdf* またはテキスト・ファイル)。
- キャンペーンのルール・プロジェクト。これらのファイルは、キャンペーンを公開すると生成されます。これらはキャンペーン後に名前が付けられますが、以下のようにさまざまな拡張子が付きます。
 - *campaign_name.adv*
 - *campaign_name.cdd*
 - *campaign_name.dbcp*
 - *campaign_name.flow0*
 - *campaign_name.flow1*
 - *campaign_name.jcp*
 - *campaign_name.rb*

WebSphere Commerce 5.4 でキャンペーン・コードの実行を開始すると、WebSphere Commerce はこれらのファイルを探し、新しい WebSphere Commerce スキーマ・テーブルへ永続的に保管します。データがこれらのファイルからスキーマへ転送されると、キャンペーン・コードは、ファイルではなくデータベースの探索を開始します。最終的に WebSphere Commerce 5.4 でキャンペーンが実行されて完成した時点で、これらのファイルは古くなります。

データベースのバックアップ

続くいくつかのセクションでは、データベースをバックアップする方法を説明します。

データベースをバックアップするには、2 層環境 (データベースが Commerce Suite からリモートにあるマシンにインストールされている環境) のデータベース・マシンか、単一層環境 (データベースが Commerce Suite と同じマシンにインストールされている環境) の Commerce Suite マシンから、以下のアクションを実行します。

1. *SECOFR アクセス権があるユーザー・プロファイルを使用してログオンします。
2. CRTSAVF コマンドを使用して保管ファイルを作成します。
3. すべてのデータベース操作を停止させます。
4. SAVLIB コマンドを使用して、作成した保管ファイルにスキーマ・ライブラリーを保管します。

データベースのバックアップの詳細については、*DB2® 管理の手引き* を参照してください。バックアップ・コマンドの構文の詳細については、*DB2 コマンド解説書* を参照してください。

第 3 章 ソフトウェアのアップグレード

この章では、WebSphere Commerce 5.4 で必要なレベルにソフトウェアをアップグレードする方法について説明します。ソフトウェアをアップグレードする前に、データベースなどの、ご使用の Commerce Suite 5.1 システムのバックアップを行ってください。システムのバックアップを実行する方法については、33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』を参照してください。

WebSphere Commerce Suite 5.1 および WebSphere Commerce 5.4 IBM ソフトウェアのマッピング

以下の表は、Commerce Suite 5.1 または WebSphere Commerce 5.4 のどちらかがパッケージされているほとんどのソフトウェアについて、Commerce Suite 5.1 と WebSphere Commerce 5.4 との間のバージョン・レベルとデフォルト・インストール・パスの対応関係を示しています。

ハードウェアのアップグレード

現在のマシンが以下のハードウェア要件を 1 つでも満たしていないなら、ハードウェアに必要なアップグレードをすべて行い、要件を満たすようにする必要があります。

詳細については、*WebSphere Commerce インストール・ガイド* バージョン 5.4 でのインストール前についてのセクションを参照してください。

オペレーティング・システムのアップグレード

システムが OS/400 バージョン 5 リリース 1 を実行していることを確認します。

IBM 以外のソフトウェアのアップグレード

このセクションでは、Commerce Suite がサポートしている IBM 以外のソフトウェア・コンポーネントをアップグレードする方法について説明します。ここでは以下を扱います。

- Web ブラウザー

Internet Explorer 5.5 以降

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上において Windows® オペレーティング・システムが実行されているマシンにおいて、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール)、に対して Microsoft による最新の重要なセキュリティー更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

Internet Explorer は、以下の Microsoft のダウンロード・ページからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/>

ショッピングは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Communicator 4.6 でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン (Netscape Navigator 4.04 および 4.5 を含む)
- Netscape Navigator for Macintosh 3.0 および 4.0 以上
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5
- AOL 5 および 6

WebSphere Application Server 4.0.2 へのアップグレード

注: IBM WebSphere Application Server 3.5 サーバー名および bootstrapPort は、WebSphere Application Server 4.0.2 用の WebSphere Commerce インスタンス・マイグレーション・プログラム (MIGWCSINST) によって使用されます。つまり、WebSphere Commerce Suite 5.1 インスタンスが、デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスと、IBM WebSphere Application Server 3.5 のデフォルトのポート (900) を使用する場合は、マイグレーションされた WebSphere Commerce 5.4 インスタンスも、デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスおよび WebSphere Application Server 4.0.2 のデフォルトのポートを使用します。WebSphere Commerce Suite 5.1 インスタンスが、カスタマイズされた WebSphere Application Server インスタンスと、デフォルト以外のポート番号で実行する場合は、WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール後に、同じ名前および同じ bootstrapPort 値を持つ新規の WebSphere Application Server インスタンスを必ず作成してください。

始める前に、バージョン 3.x に対するバージョン 4.0 の再編成について説明している 25 ページの『遷移の概要』を必ず読んでください。製品のマイグレーション・プロセスの要約が続いて説明されています。このほとんどは、WebSphere Application Server 4.0.1 インストールおよびマイグレーション・プログラムがユーザーの代わりに行います。

1. 空のバージョン 4.0 管理インスタンスを作成して、バージョン 3.x 構成を受け取ります。
2. マイグレーションするバージョン 3.x 管理サーバー・インスタンスを開始します。
3. WebSphere Application Server 4.0.2 にアップグレードする前に、**WebSphere Commerce Suite** アプリケーション・サーバーを WebSphere Application Server 管理コンソールから除去します。WebSphere Commerce 5.4 のインストールの後、新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーが作成されず。
4. WasPreUpgrade マイグレーション・ツールを使用してバージョン 3.x 構成を保管します。
5. バージョン 3.x 構成を受け取るバージョン 4.0 管理インスタンスを開始します。

6. WasPostUpgrade マイグレーション・ツールを使用して、バージョン 3.x の構成をバージョン 4.0 管理インスタンスにリストアします。

詳細なマイグレーションの手順については、以下の URL から参照することができます。

www.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/websphere/wsappserver/40Migration/40Migration3xToAE.html

WebSphere Payment Manager 3.1.2 へのアップグレード

Payment Manager のインストールの準備

最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。これは、次の Web アドレスの Payment Manager Web サイトにあります。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/paymentmanager/support/readme31.html

Payment Manager のインストール

Payment Manager をインストールするには、次のようにします。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに差し込みます。
2. ライセンス・プログラムのリストア (RSTLICPGM) コマンドを使用して、Payment Manager for iSeries 製品をインストールします。
3. Payment Manager 製品番号と、製品のインストール元のデバイスを指定します。たとえば、以下のようになります。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01)
```

Payment Manager カセットのインストール

Payment Manager をインストールする場合は、付随のカセットもインストールする必要があります。カセットをインストールするには、以下のステップを実行します。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに差し込みます。
2. ライセンス・プログラムのリストア (RSTLICPGM) コマンドを使用して、iSeries 製品用の Payment Manager SET、CyberCash、VisaNet、または BankServACH カセットをインストールします。
3. Payment Manager 製品番号、製品のインストール元のデバイス、およびインストールするカセットの該当オプション番号を指定します。SET カセットをインストールするには、次を入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3)DEV(OPT01)OPTION(1)
```

CyberCash カセットをインストールするには、次を入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3)DEV(OPT01)OPTION(2)
```

VisaNet カセットをインストールするには、次を入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3)DEV(OPT01)OPTION(3)
```

BankServACH カセットを入力するには、次を入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3)DEV(OPT01)OPTION(4)
```

WebSphere Commerce Suite の WebSphere Commerce 5.4 へのアップグレード

このセクションでは、WebSphere Commerce のインストール方法について説明します。この章のステップを実行するには、WebSphere Commerce Disk 1 CD および WebSphere Commerce Disk 2 CD が必要です。


WebSphere Commerce をインストールする前に、Web サーバー、データベース、IBM Developer Kit、Java 2 Technology Edition 1.3.1、および WebSphere Application Server がインストールされていることを確認してください。

重要

以前の WebSphere Commerce Suite インストール・ディレクトリーは削除しないでください。以前のインストール・ディレクトリーから新しいインストール・ディレクトリーにコピーする必要があるファイルがあるためです。

WebSphere Commerce システムのすべてのコンポーネントをインストールするには、以下のようにします。

1. *WebSphere Commerce 5.4* インストール・ガイド の『前提条件となるソフトウェア』セクションに示されている最低限のソフトウェア要件を満たしていることを確認します。これらのソフトウェアがまだインストールされていない場合は、それらに付随する資料をもとにインストールします。
2. ユーザー・プロファイルとしてログオンします。
3. コマンド行で次のコマンドを入力します。
`CHGMSGQ QSYSOPR *BREAK SEV(70)`
4. WebSphere Commerce CD を iSeries CD-ROM ドライブに差し込みます。
5. コマンド行で `RSTLICPGM` を入力します。
6. プロンプトで `PF4` を押します。
7. 該当するエントリー・フィールドに `LICPGM (5733WC5)` および `DEV` 名を入力します。
8. インストールする言語フィーチャーのフィーチャー・コードを `LNG` フィールドに入力して、`Enter` を押します。
9. 基本言語が英語ではないシステムに WebSphere Commerce をインストールする場合は、「Load another volume into device OPTxx (デバイス OPTxx に別のボリュームをロードします)」というメッセージへの応答が求められます。言語 `MRI` を含む CD を CD ドライブに差し込み、そのメッセージに応答します。英語のみのシステムの場合は、次のステップに進んでください。
10. 肯定応答メッセージが表示され、`*BASE` がリストアされたことが示されます。
11. 上記の英語以外の言語 `MRI` を含む CD を差し込むように求められた場合は、すぐにこの CD を取り出して WebSphere Commerce CD を差し込みます。
12. コマンド行で `RSTLICPGM` を入力します。
13. プロンプトで `PF4` を押します。

14. 該当するエントリー・フィールドに LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
15. 追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールする場合は OPTION (1) と RSTOBJ (*PGM) を入力して、Enter を押します。肯定応答メッセージが表示され、Option 1 がリストアされたことが示されます。
16. コマンド行で RSTLICPGM を入力します。
17. プロンプトで PF4 を押します。
18. 該当するエントリー・フィールドに LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
19. 追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールする場合は OPTION (2) と RSTOBJ (*PGM) を入力して、Enter を押します。肯定応答メッセージが表示され、Option 2 がリストアされたことが示されます。これで WebSphere Commerce Professional Edition のインストールは完了です。
20.  WebSphere Commerce Business Edition をインストールする場合は、ここで残りのステップを完了する必要があります。コマンド行で RSTLICPGM と入力します。
21. プロンプトで PF4 を押します。
22. 該当するエントリー・フィールドに LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
23. 追加の WebSphere Commerce Business Edition コンポーネントをインストールする場合は OPTION (3) と RSTOBJ (*PGM) を入力して、Enter を押します。肯定応答メッセージが表示され、Option 3 がリストアされたことが示されます。これで WebSphere Commerce Business Edition のインストールは完了です。

注: Option 3 の除去はサポートされていません。

リモート DB2 Universal Database のインストールを完了する

WebSphere Commerce 5.4 がインストールされているマシンに対してリモートではないマシンにデータベースが置かれている場合、どちらのマシンも OS/400 バージョン 5 リリース 1 を実行していることを確認する必要があります。

第 4 章 インスタンスのマイグレーション

以下のセクションでは、インスタンスを WebSphere Commerce 5.4 レベルにマイグレーションするために行う必要のあるマイグレーション・アクションについて説明します。これには以下が含まれます。

- 『Commerce Suite 5.1 インスタンス構成のマイグレーション』
- 45 ページの『データベースのマイグレーション』
- 62 ページの『データ・マイグレーション後』
- 72 ページの『Payment Manager インスタンスの 2.2 から 3.1.2 へのマイグレーション』

Commerce Suite 5.1 インスタンス構成のマイグレーション

このセクションでは、Commerce Suite 5.1 インスタンス構成を WebSphere Commerce 5.4 インスタンス構成にマイグレーションする方法について説明します。新規の WebSphere Commerce 5.4 インスタンスを作成する方法の詳細については、*WebSphere Commerce* インストール・ガイド バージョン 5.4 で構成マネージャーを使用する方法を説明しているセクションを参照してください。

インスタンス構成をマイグレーションする前のステップ

WebSphere Commerce 5.4 では、WebSphere Commerce 管理ツールはサーバーとは異なるポート上で実行します。これらのツールが実行するデフォルトのポートは 8000 です。この設定値を指定変更して異なるポートを管理ツール用に使用したい場合、マイグレーション前のインスタンス構成ファイル *instance_name.xml*、*demo.xml* などを編集します。このファイル内で WebSphere ノードを見つけて、その属性リストに `ToolsPort="port_number"` 属性を追加します。

重要: WebSphere Application Server セキュリティーがオンになっている場合、インスタンスを作成する前に以下の方法でそれを使用不可にしなければなりません。

1. WebSphere Application Server 管理者コンソールをオープンします。
2. 「コンソール > **Tasks (タスク) > Configure Global Security Setting (グローバル・セキュリティ検査の構成)**」とクリックして、「一般」タブの「**Enable Security (セキュリティを使用可能にする)**」チェック・ボックスからチェックを外します。
3. 「終了」をクリックします。
4. WebSphere Application Server 管理サーバーを再始動します。

注: 以下の HTTP 構成ファイルがシステム上にないことを確認します。それらが存在している場合は、以下のように名前変更します。

- *Commerce_Suite_5.1_instance_name*
- *Commerce_Suite_5.1_instance_nameT*

1 つのマシンにマイグレーションする場合は、ご使用の Commerce Suite 5.1 インスタンスと同じ名前の HTTP 構成ファイルを持ちます。これを名前変更し

て、マイグレーション・プログラムが、ストア・ページにアクセスするために、マイグレーションされた WebSphere Commerce 5.4 インスタンスに対して新規のファイルを作成できるようにする必要があります。システム上には `Commerce_Suite_5.1_instance_nameT` という名前の HTTP 構成ファイルがあつてはなりません。マイグレーション・プログラムは、ツール・ページにアクセスするために、マイグレーションされた WebSphere Commerce 5.4 インスタンスに対してその名前のファイルを作成するからです。

インスタンス構成のマイグレーション

以下のステップを実行して、実行中の各 Commerce Suite インスタンスをマイグレーションする必要があることに注意してください。

Commerce Suite 5.1 インスタンスをマイグレーションするには、以下のようになります。

注: この手順を完了するために、iSeries システムに WebSphere Application Server 4.0.2 がインストールされていること、および `WRKACTJOB` コマンドを使用してアクティブなジョブを調べて管理サーバーが実行中であることを確認してください。サブシステム `QEJBADV4` の下のジョブ `QEJBADMIN` を確認してください。なお、カスタム WebSphere Application Server インスタンスを使用している場合は、このジョブの名前は別の名前になっていることがあるので注意してください。このサブシステムがない場合は、次のコマンドを実行して始動します。

```
STRSBS SBS(SQJEBADV4/QJEBADV4)
```

サブシステムはあるがジョブ `QEJBADMIN` が存在していない場合は、サブシステムを終了し (`ENDSBS` コマンドを使用)、サブシステムを再始動します。

— 1. *SECOFR 権限を持つ iSeries プロファイルを使用して、`QWEBCOMM` ライブラリーの `MIGWCSINST` コマンドを実行します。このコマンドは、1 つの入力としてマイグレーションしたいインスタンス名を取ります。指定したインスタンスは、Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションされます。`MIGWCSINST` コマンドはインスタンス構成ファイルをマイグレーションし、Web サーバー構成ファイル 2 つ作成し、ご使用のインスタンスの WebSphere Application Server インスタンスを作成します。

— 2. インスタンス・マイグレーションが正常に完了したことを検証するには、`/QIBM/UserData/WebCommerce/instances` ディレクトリー内の `instance_name_instMigrate.log` ファイルを調べます。

ログの末尾にマイグレーションが正常に完了したことを示す文があり、インスタンスが正常にマイグレーションされたことを示しているはずですが。

さらに、Enterprise JavaBeans (EJB) のデプロイメントが正常に終了したかどうかを調べるには、

`/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/instance_name` ディレクトリー内の `WASConfig.log` ファイル (EJB のインポートに関するログ・ファイル) を調べます。インスタンス構成のマイグレーションが正常に完了したことを検証するには、例外が発生していないことを確認します。

Commerce Suite 5.1 で Web サーバー構成をカスタマイズした場合、それが現行の Web サーバー・ファイルにもあることを確認してください。存在しない場合、構成ファイルにカスタマイズ内容を再適用する必要があります。

Commerce Suite 5.1 の支払プロファイルに対してカスタマイズを行っている場合は、そのカスタマイズを WebSphere Commerce 5.4 の新規の支払プロファイルに対して再適用する必要があります。5.1 の支払プロファイルは、
/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/xml/payment フォルダに *.bak ファイルとして置かれています。

Commerce Suite 5.1 のディレクトリーで、カスタマイズした鍵ファイルを keyfile.kdb と命名した場合、このファイルは WebSphere Commerce 5.4 インストール・プログラムによって上書きされてしまうことに注意してください。この場合、このファイルのバックアップ・バージョンをディレクトリーにコピーする必要があります。

データベースのマイグレーション

この章では、Commerce Suite 5.1 データベース・スキーマを WebSphere Commerce 5.4 スキーマ・レベルにマイグレーションするためのステップを説明します。

注意:

データベース・スキーマをマイグレーションする前に、インスタンスを **WebSphere Commerce 5.4** にマイグレーションしなければなりません。

スキーマをマイグレーションするためのステップを実行する前に、33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』および 37 ページの『第 3 章 ソフトウェアのアップグレード』のステップを完了することもお勧めします。

重要

- (テーブルに列を追加するなどして) WebSphere Commerce Suite スキーマを拡張した場合、105 ページの『付録 A. データベース・スキーマの拡張』で説明されているステップを実行する必要があります。
- WebSphere Commerce 要約テーブルのロードは、WebSphere Commerce 5.4 のインストールまたはマイグレーション・プロセスでは行われません。マイグレーションの後に要約テーブルをロードする場合、マイグレーションを完了した後で、WebSphere Commerce 構成マネージャーの「Search Configuration (構成の検索)」パネルを使ってロードできます。WebSphere Commerce インストール・ガイド バージョン 5.4 にある構成のセクションを参照してください。

データベース・プレマイグレーション・アナライザーの実行

プレマイグレーション・アナライザー・プログラムは、既存の Commerce Suite データベースを分析して、以下の特性を持つデータについてのレポートを生成します。

- 親商品がないすべてのアイテム
- 組織エンティティー内に親がないすべてのメンバー

アナライザーはレポートを生成して、47 ページの『必須のデータベース・プレマイグレーション』および 48 ページの『オプションのデータベース・プレマイグレーション』

ション項目』に説明されているアイテムをリストします。必須項目については、データベースのマイグレーションに進む前に、要求されているアクションを実行する必要があります。オプション項目については、データベースのマイグレーションに進む前の推奨アクションの実行は、必須ではありません。

ただし、マイグレーション・スクリプトによるデフォルトの割り当てを受けたくない場合、フラグが立てられたデータを訂正しておくことをお勧めします。データを訂正した後、プレマイグレーション・アナライザーを再実行して、すべての項目が修正されたことを確認する必要があります。

必要なすべての項目を修正した後、33 ページの『第 2 章 Commerce Suite 5.1 のバックアップ』に説明されているように、再度 Commerce Suite データベースをバックアップして、データベースの最新のコピーを所有するようにします。

以下の手順で、WebSphere Commerce 5.4 プレマイグレーション・アナライザーを実行します。

注: データベース・マイグレーションの手順を実行する前に、*SECOFR 権限があるインスタンス・プロファイルを使用して iSeries マシンにサインオンする必要があります。以下のコマンドを使用します。

```
CHGUSRPRF USRPRF() USRCLS(*SECOFR) SPCAUT(*USRCLS)
```

次に、このプロファイルでのサインオンから戻ります。マイグレーションの完了後は、次のようにしてユーザー・プロファイルを元の状態に戻します。

```
CHGUSRPRF USRPRF() USRCLS(*USER) SPCAUT(*NONE)
```

1. 以下の手順で、プレマイグレーション・アナライザー・スクリプト (**PREWCSTMIG**) を実行します。

```
PREWCSTMIG DATABASE(db_name) SCHEMA(instance_name) PASSWD(logon_password)  
HOSTNAME(host_name) INSTRROOT(instance_root) SAVLIB(empty_library)
```

ここで

db_name

リレーショナル・データベース・ディレクトリーに表示されるデータベースの名前です。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

logon_password

インスタンス・ユーザー・プロファイルのログオン・パスワードです。

host_name

データベースが置かれているマシンの完全修飾ホスト名です。

instance_root

インスタンス・ディレクトリーの絶対パス名です。たとえば /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name* など。

empty_library

スキーマの保管ファイルが作成される空のネイティブ・ライブラリーの名前です。

このコマンドは 2 つの Java プログラムを呼び出します。それぞれの java プログラム終了メッセージに続いて Enter キーを押してください。最初の Java 呼び出しは iSeries 固有の premigratechecker に対するもので、これは ログ・ファイル /logs/premigratecheck.log を生成します。これが正常に実行されると、ログ・ファイル /logs/premigrate.log を生成するプレマイグレーション・ステップに進みます。これらの両方のファイルから、追加のメッセージまたはエラーについてチェックしてください。先に進む前に、フラグが立てられたエラーを解決する必要があります。プレマイグレーション・アナライザーによってフラグが立てられたエラーまたは警告を修正したり、データベースに変更を加えた場合は、**PREWCSMIG** コマンドを再度実行して、すべての問題が修正されたことを検査する必要があります。データベースの別の保管ファイルを作成して入れる、新規の空のライブラリーを指定することをお勧めします。

必須のデータベース・プレマイグレーション

プレマイグレーション・アナライザーが以下のリターン・コードを生成する場合、データベースのマイグレーションを続行する前に以下のアクションを実行しなければなりません。

リターン・コード

説明 / アクション

122 アナライザーは、Commerce Suite 5.1 データベースが以下のメンバー ID (0 ~ -8) を、対応するメンバー・グループに使用しているかどうか (たとえば、サイト管理者メンバー・グループのメンバー ID が 1 であるかどうか) をチェックします。

- 0** Site Owner (サイト所有者)
- 1** Site Administrator (サイト管理者)
- 2** Customer (顧客)
- 3** Customer Service Representative (顧客サービス担当者)
- 4** Merchant (マーチャント)
- 5** Order Clerk (オーダー・クラーク)
- 6** Store Administrator (ストア管理者)
- 7** Store Developer (ストア・デベロッパー)
- 8** Merchandising Manager (取引管理マネージャー)

注: WebSphere Commerce 5.4 では、Merchant 役割は Seller に名前変更され、Merchandising Manager は Product Manager (プロダクト・マネージャー) に名前変更されています。

すべてのブートストラップ値を保存することが必要です。そうしないと、データベースのマイグレーションは失敗します。

200 アナライザーは Commerce Suite 5.1 内の AUCTION テーブルの REFCODE フィールドをチェックします。固有であるはずの REFCODE フィールドがありますが、Commerce Suite 5.1 スキーマはこのこ

とを強制していません。 WebSphere Commerce 5.4 スキーマは、それが固有索引であることを指定しています。

AUCTION テーブル内の REFCODE フィールドが固有であることを確認する必要があります。

318 アナライザーは、契約名の長さが 200 文字を超えていないことをチェックします。

AUCTION テーブル内の NAME フィールドのデータが 200 文字を超えていないことを確認する必要があります。

319 アナライザーは、ORGENITY テーブル記述の長さが 512 文字を超えていないことをチェックします。

ORGGRP テーブル内の DESCRIPTION フィールドのデータが 200 文字を超えていないことを確認する必要があります。

340 アナライザーは、MBRGRP テーブル記述の長さが 512 文字を超えていないことをチェックします。

MBRGRP テーブル内の DESCRIPTION フィールドのデータが 200 文字を超えていないことを確認する必要があります。

400 アナライザーは、カスケード削除トリガーと置き換えられた WebSphere Commerce 5.1 制約に違反するデータがないかをチェックします。このような場合、WebSphere Commerce 5.1 参照制約は追加されません。この制約が追加されない場合、マイグレーションは失敗します。制約に違反するデータを削除するべきか、または子テーブルのエントリーと一致する親テーブルのエントリーを作成するべきかを判断する必要があります。追加できなかった制約は、ログ・ファイルにリストされます。問題を修正して、**PREWCSMIG** を再度実行する必要があります。

オプションのデータベース・プレマイグレーション項目

プレマイグレーション・アナライザーが以下のリターン・コードを生成する場合、データベースのマイグレーションを続行する前に以下のアクションを実行することが推奨されています。これらのアクションは必須ではありませんが、マイグレーション後のシステムに対する効果を注意深く考慮する必要があります。

リターン・コード

説明 / アクション

103 アナライザーは、Commerce Suite 5.1 割引データをチェックします。手動で作成したカスタム割引データ、つまり Commerce Suite Accelerator の「マーチャンダイズ」メニューで作成したものではない割引データがある場合、アナライザーは警告を出します。データベース・マイグレーション・スクリプトは、割引データを WebSphere Commerce 5.4 要件にマイグレーションしません。しかし、このデータは現状のままでデータベースに残ります。このデータを WebSphere Commerce 5.4 割引ツールによって表示することはできません。

この割引データ (Commerce Suite 5.1 ツールの外側で作成されたと想定される) を表示したい場合、 Commerce Suite 5.1 での割引データの処理で以前使っていたものと同じ手順に従う必要があります。

- 305** アナライザーは BUSPROF テーブル内にレコードがあるかどうかをチェックしますが、 ORG_ID および ORGUNIT_ID エントリーはヌルです。これらの行の ORG_ID および ORGUNIT_ID データに値を入れる必要があります。値を入れない場合、マイグレーション・スクリプトはデフォルト組織をビジネス・ユーザーの親として割り当てます。さらに、ユーザーの profileType を B (B2B ユーザー) から C (B2C ユーザー) に変更することも検討してください。
- 307** REGISTERTYPE の値が S であり、それがユーザーに対してより特定の役割を持つものとして ACCMBRGRP テーブルに表示されない場合、データベース・マイグレーション・スクリプトは、マイグレーション時にそのユーザーに Site Administrator 役割を自動的に割り当てます。特に、マイグレーション・スクリプトはこれらのユーザーのエントリーを MBRROLE テーブル内に作成して、 Site Administrator 役割をそれらの先祖の組織エントリーに割り当てます。 Site Administrator 役割は非常に強力な役割なので、アナライザーは警告を出してユーザーにこのことを通知します。十分に考慮せずに Site Administrator 役割を組織エンティティやユーザーに割り当てることはしないでください。
- 309** Commerce Suite 5.1 での Customer は、すべてのユーザーのグループを表していました。 WebSphere Commerce 5.4 に同梱されている AllUsers メンバー・グループによって、Customer アクセス・グループが置き換えられます。ユーザーが Commerce Suite 5.1 で Customer アクセス・グループ (-2) に割り当てられていた場合、 WebSphere Commerce 5.4 ではマイグレーション・スクリプトは、そのユーザーを AllUsers メンバー・グループに明示的に割り当てます。そのような明示的な割り当ては WebSphere Commerce 5.4 の設計上必須ではないので、プレマイグレーション・アナライザーは警告メッセージを出します。
- そのような明示的な割り当てが必要かどうかを検討してください。
- 310** Commerce Suite 5.1 は、 Order Clerk 役割をサポートしていましたが、 WebSphere Commerce 5.4 では不要になり使用されなくなりました。 Order Clerk 役割で実行に使用されるタスクは、自動化されているか、または WebSphere Commerce 5.4 の顧客サービス・スーパーバイザーで実行できます。ユーザーに Commerce Suite 5.1 で Order Clerk 役割 (-5) があり、 ACCCMDGRP テーブルにエントリーがある場合、そのユーザーは、アクセス・コントロール・マイグレーションの一部としてマイグレーションされ、その役割は、ユーザー定義の役割として扱われます。 Order Clerk 役割を持つユーザーが存在しない場合、その役割はマイグレーションされません。
- まだ Order Clerk 役割が必要かどうかを確認してください。必要でなければ、 WebSphere Commerce 5.4 ではサポートされなくなったので、除去してください。

- 316** アナライザーは、ORGENTITY テーブル内に組織エンティティの親メンバー ID があるかどうかをチェックします。
- ORGENTITY テーブル内にある、フラグが立てられたアイテムの親 MEMBER_ID に、値を入れることができます。値を入れない場合、データベース・マイグレーション・スクリプトが Default Organization を表す値 -2001 を割り当てます。
- 401** アナライザーは、親商品を持たないすべてのアイテムをチェックします。WebSphere Commerce 5.4 では、各アイテムに 1 つの親商品が存在する必要があります。
- 親を持たないアイテムについては、そのアイテムを CATGPENREL テーブルに追加して、CATALOG_ID および CATGROUP_ID を割り当ててください。
- フラグの立てられたアイテムについて、親商品を作成することができます。フラグの立てられたアイテムについて親商品を作成しない場合、データベース・マイグレーション・スクリプトによってそれが作成されます。
- 404** アナライザーは、複数の親商品を持つすべてのアイテムをチェックします。WebSphere Commerce 5.4 では、各アイテムが持つことのできる親商品は 1 つだけです。
- WebSphere Commerce 5.4 カタログ・ツールを使用してカタログ・データを表示したい場合、1 つの親商品を残して他のすべての親商品を除去する必要があります。
- 416** アナライザーは、オーダー・アイテムの状況コードが M (支払いが開始されました - 顧客は支払いを開始しました。与信は処理中です)であることをチェックします。
- ORDERITEMS テーブルで、すべてのオーダー・アイテムの STATUS 列が M に設定されていることを確認してください。
- 417** アナライザーは、オーダーの状況コードが M (支払いが開始されました - 顧客は支払いを開始しました。与信は処理中です)であることをチェックします。
- ORDERS テーブルで、すべてのオーダー・アイテムの STATUS 列が M に設定されていることを確認してください。

Commerce Suite 5.1 キャッシュ・トリガーの除去

Commerce Suite 5.1 のキャッシュ・トリガーがインストールされている場合、それらはプレマイグレーション・プロセスによって除去されます。それらは正常なマイグレーションの後に、構成マネージャーの「キャッシング・サブシステム」パネルでトリガーを使用可能にすることによって再適用できます。

カスタム制約の除去

出荷された Commerce Suite 5.1 テーブルへの外部鍵リンクを含むテーブルをカスタマイズした場合、データ・マイグレーション時に、参照保全制約 (外部鍵、1 次鍵、索引など) を除去しようとする、データ・マイグレーション・スクリプトは失敗する場合があります。以下のセクションに示す SQL ステートメントを使用し

て、これらの制約を除去する必要があります。 53 ページの『カスタム制約のリストア』で説明しているように、データを WebSphere Commerce 5.4 スキーマにマイグレーションした後で、これらの制約をリストアします。

1. 新しく追加したすべてのテーブル、およびすべての Commerce Suite 5.1 テーブルを確認します。
2. 新規テーブルから Commerce Suite 5.1 テーブルへ、またはその逆に向けられるすべての制約 (ビュー、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、参照に関する制約) を確認します。
3. これらすべての制約を除去します。データベース・マイグレーション・スクリプトを実行した後で、制約による SQL エラーが `migratedb.log` に記録される場合は、データベースをマイグレーションする前に制約を除去する必要があります。

除去したいそれぞれの制約に対して、以下の SQL ステートメントを実行します。

```
ALTER TABLE instance_name.table_name DROP constraint constraint_name
```

ここで

instance_name

データベース・スキーマまたは Websphere Commerce インスタンスの名前です。

table_name

制約を含むカスタマイズされたテーブルの名前です。

constraint_name

除去したい参照保全除去の名前です。

データベース・スキーマのマイグレーション

プレマイグレーション・アナライザーによってフラグが立てられたすべてのアイテムを除去した後、以下のデータベース・マイグレーション・スクリプトを実行して、スキーマを WebSphere Commerce 5.4 レベルに更新することができます。マイグレーション・スクリプトの働きの概要については、107 ページの『付録 B. マイグレーション・スクリプトの概要』を参照してください。Commerce Suite 5.1 と WebSphere Commerce 5.4 間のデータベース・スキーマの変更の要約については、117 ページの『付録 D. データベース・スキーマの変更点』を参照してください。

注: データベース上でマイグレーション・コマンドを実行できるのは 1 回だけです。

以下の構文を例として (実際には 1 行で)、**MIGWCSSCH** コマンドをバッチ・モードで実行することをお勧めします。

```
SBMJOB CMD(MIGWCSSCH DATABASE(db_name) SCHEMA(instance_name) PASSWD(logon_password)  
STAGE(is_stage) DFTLANG(default_language) REMOTE(is_remote)  
HOSTNAME(host_name) INSTRoot(instance_root) SAVLIB(empty_library)  
USEATP(use_atp))
```

ここで

db_name

リレーショナル・データベース・ディレクトリーに表示されるデータベースの名前です。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

logon_password

インスタンス・ユーザー・プロファイルのログオン・パスワードです。

is_stage

ターゲット・データベースがステージング・サーバー上にあるかどうかを示すブール値です。マイグレーションするスキーマがステージング・サーバー上にある場合は、*YES と入力します。そうでない場合は、*NO と入力します。

default_language

is_remote

ターゲット・データベースがリモート・サーバー上にあるかどうかを示すブール値です。マイグレーションするスキーマがステージング・サーバー上にある場合は、*YES と入力します。そうでない場合は、*NO と入力します。

host_name

データベースが置かれているマシンの完全修飾ホスト名です。

instance_root

インスタンス・ディレクトリーの絶対パス名です。たとえば /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name* など。

empty_library

スキーマの保管ファイルが作成される空のネイティブ・ライブラリーの名前です。

use_atp

既存の在庫データを WebSphere Commerce 5.4 Availability to Promise (ATP) 表記にマイグレーションしたいかどうかを示すブール値。ATP をサポートするデータにマイグレーションする場合は、*YES と入力します。そうでない場合は、*NO と入力します。

バッチ実行では、デバッグ目的に役立つスプール・ファイルが生成され、すべての Java プログラム終了メッセージの後に Enter キーを押すことによって処理を継続的にモニターする必要がないので、処理速度が上がります。処理が完了すると、空の fail.flag ファイルが

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs ディレクトリーに作成されるか、または空の Finish.flag ファイルが作成されます。fail.flag がある場合は、リカバリー用のステップに従い、エラーが原因の問題を修正し、スキーマ・マイグレーション・コマンドを再実行する必要があります。finish.flag がある場合は、コマンドは正常に完了しています。見落とされた可能性があるエラーを見つけるために、作成されたすべてのログを参照してください。

バッチ・モードを使用しない場合は、各 Java プログラム終了メッセージ後に Enter を押す前に、F6 を使用して Java 出力をスプール・ファイルに出力する必要があります。この出力には、マイグレーション・プロセス中やマイグレーション・プロセス後に問題があった場合に役立つ有用な情報が含まれています。

migrate.err ファイルが

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs ディレクトリーに作

成されているかどうかをチェックします。このファイルが存在しない場合は、`migrate.log` で見つかったエラーが正しく処理されて正常になっている可能性があります。

データベース・マイグレーション・ログおよびトレース・ファイル

データベース・マイグレーション・スクリプトは、`/QIBM/ProdData/WebCommerce/instance/instance_name/logs` ディレクトリーに、さまざまなログ・ファイルおよびトレース・ファイルを生成します。

生成されるログ・ファイルを以下に示します。

migrate.log

データ・マイグレーションおよびスキーマ変更用のログ・ファイル。

OrigSchema.log

データベース内にある、元となるリリースの WebSphere Commerce Suite 5.1 テーブルの詳細リスト。たとえば、WebSphere Commerce Suite データベース・レベル 5.1.0.1 からのマイグレーションの場合、このログには、5.1.0.1 WebSphere Commerce Suite スキーマ・テーブルのすべてのリストが含まれます。

TargetSchema.log

マイグレーション・スクリプトが正常に実行された後、データベース内にある WebSphere Commerce 5.4 スキーマ・テーブルの詳細リスト。これには、固有索引、列定義、および制約が含まれます。TargetSchema.log ファイルと OrigSchema.log ファイルを比べることにより、出荷時のオリジナルの Commerce Suite テーブルに対してどのようなカスタマイズがなされたかが分かります（たとえば列を追加した、あるいはテーブルを追加したなど）。

RESWCSID.txt

ID Resolver のメッセージが入っています。

トレース情報 (`ecmsg_XXXX` ファイル) を使用可能にするには、166 ページの『トレース情報の使用可能化』を参照してください。

カスタム制約のリストア

Commerce Suite 5.1 データベースをマイグレーションした後、50 ページの『カスタム制約の除去』で除去した、参照制約をリストアする必要があります。

SQL ステートメントを以下のように実行します。

```
ALTER TABLE instance_name.table_name
  ADD CONSTRAINT constraint_name FOREIGN KEY (column_name)
  REFERENCES foreign_table_name ON DELETE CASCADE
```

instance_name

データベース・スキーマまたは WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

table_name

制約をリストアする必要のある、カスタマイズされたテーブルの名前です。

constraint_name

リストアしたい参照保全制約の名前です。

column_name

参照制約が適用されている列の名前です。

foreign_table_name

参照制約が適用されている外部テーブルの名前です。

参照制約を追加する SQL ステートメントの例については、
/QIBM/ProdData/WebCommerce/schema/os400 ディレクトリー内のファイル
wcs.referential.sql をご覧ください。

識別名の更新

WebSphere Commerce 5.4 では、ORGENITY および USERS テーブルの識別名 (DN) 列に値を取り込む必要があります。migrateDN スクリプトを使用して、ゲスト・ユーザー (タイプ G) を除き、これらのテーブルに推奨値を入れることができます。このスクリプトは、ORGENITY テーブル内の DN 列に値を取り込む fillorgDN.sql スクリプトを呼び出して、USERS テーブル内のユーザーの DN 列に値を取り込みます。fillorgDN.sql スクリプトは、データベース・マイグレーション・スクリプトの実行時に生成されます。

migrateDN スクリプトを実行する前に、以下を行います。

- fillorgDN.sql スクリプトを見つけてその内容を表示し、DN 列の値と、それが更新される値を参照してください。fillorgDN.sql スクリプトは、
instance_root/temp/ サブディレクトリー
(/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/*instance_name*/temp など) にあります。
- 推奨されている更新を行いたくない場合、スクリプトを適切にカスタマイズする必要があります。

注: LDAP サーバーを使用している場合、生成された fillorgDN.sql を編集して、組織エンティティの識別名 (DN) が希望どおりのものになるようにします。後で WebSphere Commerce によって組織エンティティが LDAP サーバー上に作成されるとき、ORGENITY テーブル内の DN 値が使用されます。たとえば、Root Organization という名前の組織エンティティを、DN 値が c=US である LDAP エントリーの下で作成したい場合、fillorgDN.sql 内で Root Organization の DN を、o=Root Organization から o=Root Organization,c=US に変更します。他の組織エンティティの識別名も、これに応じて変更する必要があります。たとえば、DN エントリーの o=YourOrganization,o=Root Organization を、o=YourOrganization,o=Root Organization,c=US に変更します。

fillorgDN.sql スクリプトの内容に満足できれば、次のセクションで説明している手順で、migrateDN を実行します。

migrateDN スクリプトを実行するには、以下のようになります。

- ___ 1. Operations Navigator を立ち上げます。ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。
- ___ 2. fillorgDN.sql スクリプトを実行します。
- ___ 3. 以下のコマンドを入力します。

```

RUNJAVA CLASS(com.ibm.commerce.migration.tool.migrateDN)
  PARM(database_name
        instance_name
        logon_password)
  CLASSPATH('/QIBM/ProdData/WebCommerce/properties:
            /qibm/proddata/webcommerce/lib/wcsmigration.jar')

```

出力からエラーがないかを調べます。F6 を押して Java 出力をスプール・ファイルに出力すると、後で見ることができます。

- 4. /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs ディレクトリーに生成された migrateDN.log ファイルをチェックします。続行する前に、スクリプトの使用に際してエラーが起きていないことを確認してください。

マスター・カタログの割り当て

WebSphere Commerce 5.4 では、それぞれのストアごとに指定されたマスター・カタログを持つことが必要です。ストアにマスター・カタログを割り当てるには、データベース・マイグレーション・スクリプトの実行時に生成された choosemc.sql スクリプトを実行できます。このマイグレーション・スクリプトは、データベース内に複数のカタログがあるかどうかを検出します。データベース内にカタログが 1 つしか存在しない場合、マイグレーション・スクリプトは、そのカタログをマスター・カタログとして割り当て、choosemc.sql スクリプトは生成されません。この場合は、以下のステップを実行する必要はありません。

choosemc.sql スクリプトを実行する前に、それを編集する必要があります。ストリング MASTERCATALOG_ID を見つけ、それをマスター・カタログとして指定したいカタログに対応する、参照番号 (1 次鍵) に置き換えます。たとえば、スクリプト内で以下のステートメントを見つけてみます。

```

--please replace MASTERCATALOG_ID with one of the catalog of the store you want to
designate as MasterCatalog
update storecat set mastercatalog='1' where catalog_id=MASTERCATALOG_ID
  and storeent_id=10001;
insert into catgrptpc (catgroup_id,catalog_id,tradeposcn_id)
  values (0,MASTERCATALOG_ID,10006);

```

カタログ ID 6000 をマスター・カタログとして選択するには、以下のようにしてステートメントを更新します。

```

update storecat set mastercatalog='1' where catalog_id=6000
  and storeent_id=10001;
insert into catgrptpc (catgroup_id,catalog_id,tradeposcn_id)
  values (0,6000,10006);

```

スクリプトを実行した後の出力例を以下に示します。

```

--store :10001 has 20 catalogs.
--catalog:311000
--catalog:321000
--catalog:341000
--catalog:6000
--catalog:361000
--catalog:371000
--catalog:322000
--catalog:391000
--catalog:411000
--catalog:501000
--catalog:501000
--catalog:501000
--catalog:501000

```

```

--catalog:501000
--catalog:501000
--catalog:501000
--catalog:501000
--catalog:611000
--catalog:612000
--catalog:10001
--please replace MASTERCATALOG_ID with one of the catalog of the store you want to
designate as MasterCatalog
update storecat set mastercatalog='1' where catalog_id=6000
    and storeent_id=10001;
insert into catgrptpc (catgroup_id,catalog_id,tradeposcn_id)
    values (0,6000,10006);

```

choosemc.sql スクリプトを実行するには、以下のようにします。

1. Operations Navigator を立ち上げます。 ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。
2. choosemc.sql スクリプトを実行します。
3. プロンプトが出されたら、ストア用のマスター・カタログとして指定するカタログのカタログ番号を入力します。

オーダーおよびオーダー・アイテムの状況の変更

Commerce Accelerator ツールを使用してオーダーおよびオーダー・アイテムを処理するには、状況が C のすべてのオーダーおよびオーダー・アイテムの状況を S に変更することをお勧めします。ただし、これは必須ではありません。必要な考慮事項は、6 ページの『オーダーおよびオーダー・アイテム』で説明しています。状況を変更するには、データベース・マイグレーション・スクリプトの実行時に生成された ctos.sql スクリプトを使用できます。状況が C のオーダーがない場合は、このスクリプトは生成されません。

ctos.sql スクリプトを実行するには、以下のようにします。

1. Operations Navigator を立ち上げます。 ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。
2. ctos.sql スクリプトを実行します。これは /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name/temp ディレクトリーにあります。

デフォルト・ストアのブートストラップ・データ

マイグレーションの前に、デフォルト・ストア (0 に設定された STOREENT_ID によって識別される) のブートストラップ・データに対して変更を加えた場合、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後も、デフォルト・ストアのブートストラップ・データに対して同様の変更を加える必要があります。デフォルト・ストアの場合、データ・マイグレーション・プロセスは、デフォルトのブートストラップ・データをロードしますが、これによって、ブートストラップ・データに対して行ったカスタマイズは上書きされます。非デフォルト・ストアの場合、データ・マイグレーション・プロセスは、ストアのブートストラップ・データに対して変更を加えません。

たとえば、マイグレーションの前に、CMDREG テーブルで、OrderProcessCmd コマンドのインプリメンテーションを、OrderProcessBonusImpl に変更したとします。データベース・マイグレーション・スクリプトを変更した後、エントリーはデフォ

ルト値の OrderProcessImpl にリセットされます。この場合、これを手動で OrderProcessBonusImpl に変更し直す必要があります。そうしないと、OrderProcessCmd コマンドにアクセスした際、ブランク・ページが戻されてしまいます。この変更を行えば、問題なくページにアクセスすることができます。

注: 通常は、ブートストラップ・ファイルは変更しないようお勧めします。変更すると、インスタンスは正常に作成されない場合があります。

Payment Manager に関する考慮事項

WebSphere Commerce Suite 5.1 におけるデフォルト・ストアのブートストラップ・データでは、DoPaymentCmd コマンドのデフォルト・インプリメンテーション・クラスは DoPaymentCmdImpl になります。このインプリメンテーションは、Payment Manager を使用しません。

一方、WebSphere Commerce Business Edition 5.1 または WebSphere Commerce 5.4 における DoPaymentCmd のデフォルト・インプリメンテーション・クラスは、DoPaymentMPFCmdImpl になります。このインプリメンテーションは、Payment Manager を使用します。

WebSphere Commerce Suite 5.1 がデフォルト・インプリメンテーション・クラス DoPaymentCmdImpl を使用しており、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後も DoPaymentCmdImpl を使用する場合、以下のうちのいずれかを行うことができます。

1. このストアで引き続き DoPaymentCmdImpl を使用する場合、CMDREG テーブルで STOREENT_ID を指定します。WebSphere Commerce 5.4 のブートストラップ・データは変更されず、新しいバージョンにマイグレーションするにはより適しているため、この方法を優先的に採用してください。たとえば、CMDREG に新規エントリを挿入し、ストアで、STOREENT_ID=0、interfacename=DoPaymentCmd、classname=DoPaymentCmdImpl を指定します。
2. CMDREG テーブルにあるブートストラップ・データを変更します。STOREENT_ID=0 となっているデフォルト・ストアに関しては、DoPaymentCmd のデフォルト・インプリメンテーション・クラスを DoPaymentCmdImpl に変更してください。デフォルト・ストアのブートストラップ・データを変更することになるため、これは推奨されていません。

Payment Manager に関するその他の考慮事項については、16 ページの『Payment コンポーネントのマイグレーション考慮事項』を参照してください。

データベース・マイグレーションの検証

このセクションでは、データベースが正常にマイグレーションされていることを検証するためのいくつかのガイダンスを記載しています。

スプール・ファイルの表示

マイグレーション・スクリプトの実行後に、スプール・ファイルの内容と、インスタンスの /logs ディレクトリーのログを、再検討する必要があります。ストリング Migrating を検索して、Total errors=0 が存在するかどうかを調べます。また、Exception を検索して、モニターされていない例外がないことも確認します。警告は無視することができます。マイグレーションが正常に実行された場合は、スプール・ファイルの内容は以下のようにになっているはずです。

Migration starts... Date:2001-10-02

Migrating Member table...

...
...
...

Summary

Total changed =

Total inserted =

Total queries =

Total warnings = 0

Total errors = 0

Migrating Catalog Entries..

...
...
...

Summary

Total changed =

Total inserted =

Total queries =

Total warnings =

Total errors = 0

Migrating Inventory..

...
...

Summary

Total changed =

Total inserted =

Total queries =

Total warnings = 0

Total errors = 0

Migrating Discount Data...

...
...

Summary

Total changed =

Total inserted =

Total queries =

Total warnings = 0

Total errors = 0

Migrating Contract Component..

...
...

Summary

Total changed =

Total inserted =

Total queries =

Total warnings =0

Total errors = 0

Migrating Calculation Framework..

...
...

Summary

Total changed =

```
Total inserted =  
Total queries =  
Total warnings =0  
Total errors = 0.
```

追加のチェック

データベース・マイグレーション・ログ・ファイルをチェックした後、以下の SQL ステートメントをデータベースに対して実行してください。

- 次の Select ステートメントを実行して、FLOW テーブルをチェックします。

```
SELECT * FROM FLOW
```

FLOW テーブルが空である場合は、Mass Loader のビジネス・フロー・データのロードに問題があることを意味します。詳細については、messages.txt ファイルを参照してください。

- 以下の Select ステートメントを実行して、ORGENITY および USERS テーブル内の識別名列 DN をチェックします。

```
SELECT DN FROM ORGENITY
```

```
SELECT DN FROM USERS
```

いずれかの DN エントリーが空の場合は、マイグレーション後のデータベースで migrateDN ツールが実行されなかった可能性があります。これについては、54 ページの『識別名の更新』で説明しています。

データベースの整合性チェッカーの実行

生成されたマイグレーション・スクリプトをデータベースに対して正常に実行した後、整合性チェッカーを実行して、マイグレーションされたデータベースの状態をチェックします。

チェッカーはレポートを生成して、60 ページの『データベース整合性チェッカーの出力』で説明している項目をリストします。

整合性チェッカーを、マイグレーションされたデータベース上で実行するには、以下のようにします。

1. 以下のコマンドを入力します。

```
RUNJAVA CLASS(com.ibm.commerce.migration.tool.dbchecker)  
  PARM(database_name  
        instance_name  
        logon_password)  
  CLASSPATH('QIBM/ProdData/WebCommerce/properties:  
            /QIBM/ProdData/WebCommerce/lib/wcsmigration.jar')
```

ここで

- *db_name* は、 WebSphere Commerce 5.4 データベース・スキーマ・レベルにマイグレーションされた Commerce Suite 5.1 データベースです (たとえば mall)。
- *db_userID* は、マイグレーションされたデータベースに接続するためのユーザー ID です (たとえば mydbuser)。
- *db_userID_password* は、マイグレーションされたデータベースに接続するためのユーザー ID のパスワードです (たとえば mypasswd)。

出力からエラーがないかを調べます。 F6 を押して、Java 出力をスプール・ファイルに出力します。

__2. 先に進む前に、スプール・ファイルを調べてエラーがないことを確認します。

データベース整合性チェッカーの出力

整合性チェッカーが以下のリターン・コードを生成する場合、システムのマイグレーション・プロセスを続行する前に、リストされている必須のアクションを実行しなければなりません。そうしないと、WebSphere Commerce 5.4 ランタイムは、マイグレーションされたデータに対して機能しなくなります。

リターン・コード

説明 / アクション

- | | |
|------------|---|
| 401 | マイグレーションされたデータに、親商品のないアイテムが含まれています。これらの各アイテムに親商品を割り当てなければなりません。アイテムの親商品を作成するには、エントリーを CATENTREL テーブルに追加します。 |
| 402 | マイグレーションされたデータに、複数の親商品を持つアイテムが含まれています。各アイテムに 1 つだけの親商品が割り当てられるようにしなければなりません。複数の親商品を持つとしてフラグが立てられたアイテムから余分の親商品を削除するには、エントリーを CATENTREL テーブルから除去します。 |
| 405 | マイグレーションされた USER テーブルに、組織上の不整合があります。フラグが立てられたアイテムを訂正する必要があります。BUSPROF テーブルにレコードを持つユーザーの場合、ORG_ID 列と ORGUNIT_ID 列がヌルでなければ、ORGENTITY テーブルを使用し、組織階層を ORGUNIT_ID から上方向に調べます。これは、最終的に MEMBER_ID にヌルが見つかるか、ORGENTITY_ID と同じ値が見つかるまで続きます。ORGENTITY 内の MEMBER_ID 列の値が、BUSPROF 内の ORG_ID 列の値と異なっています。ORGENTITY 内の MEMBER_ID 列の値が、BUSPROF 内の ORG_ID 列の値と同じになるようにしてください。 |
| 500 | マスター・カタログとして指定されているカタログがありません。ストアごとに複数のカタログがある場合、カタログの 1 つがマスター・カタログとして指定されている必要があります。

55 ページの『マスター・カタログの割り当て』で説明しているように、マスター・カタログを設計して、choosemc.sql スクリプトを実行することによってマスター・カタログを選択します。 |
| 503 | マイグレーションされたデータには、最上位のカタログ・グループが含まれていません。データには、それぞれのマスター・カタログに対して、少なくとも 1 つの最上位のカタログ・グループが含まれていなければなりません。エントリーを CATTOGRP テーブルに追加することによって、最上位のカタログ・グループの関係を追加してください。 |

整合性チェッカーが以下のリターン・コードを生成する場合、システムのマイグレーション・プロセスを続行する前に、リストされているオプションのアクションを実行することが推奨されていますが、これは必須ではありません。このアクション

を実行しない場合、マイグレーションされたデータに対して Product Management ツールなどの WebSphere Commerce 5.4 ツールを使用できなくなります。

リターン・コード

説明 / アクション

- 408** マイグレーションされたデータには、複数の取引位置コンテナの下にあるカタログ・グループが含まれています。カタログ・グループが、必ず複数の取引位置コンテナの下にないようにする必要があります。CATGRPTPC テーブルからエントリーを除去することによって、追加の取引位置コンテナの関係を削除してください。
- 501** マイグレーションされたデータには、複数の親カタログ・グループを持つカタログ・グループが含まれています。各カタログ・グループは、親として 1 つのカタログ・グループだけを指定する必要がある必要があります。CATGRPRL テーブルからエントリーを除去することによって、追加の親カタログ・グループを削除してください。
- 502** マイグレーションされたデータには、複数のカタログ・グループに属するカタログ・エントリーが含まれています。すべてのカタログ・エントリーが、1 つのカタログ・グループだけに属する必要がある必要があります。CATGPENREL テーブルからエントリーを除去することによって、追加のカタログ・グループを削除してください。
- 614** ATTRVALUE テーブルで、CatEntryId = 0 によって定義された属性値ごとに、1 つの行が必要です。たとえば、色が赤のアイテムが 2 つある場合、ATTRVALUE テーブルは以下のようになります。

CATENTRY_ID	ATTRIBUTE_ID	STRINGVALUE
0	color_id	red
item1_id	color_id	red
item2_id	color_id	red

これは完全なテーブルではないことに注意してください。この方法によって、定義されたアイテムが存在しない場合でも、属性に定義された有効な属性値を表示することができます。複数の言語が存在する場合、言語ごとに各行を再定義する必要があります。

このステップが必要なのは、Product Management ツールなどの WebSphere Commerce 5.4 ツールを使用してカタログを管理したい場合だけです。

複数のアイテムに同じ ATTRIBUTE_ID があるケースごとに、ATTRVALUE テーブルに CATENTRY_ID を 0 (ゼロ) に設定した 1 行を追加します。

Commerce Suite 5.1 のサンプル・ストアのカタログである InFashion や WebFashion には、WebSphere Commerce 5.4 マスター・カタログに適した構造のカタログ・ツリーがありません。8 ページの『重要な構造上の考慮事項』で説明しているマスター・カタログの要件に基づいて、カタログを再設計する必要があります。そのようにしないと、WebSphere Commerce 5.4 のカタログ・エディター・ツールである Product Management で、カタログのナビゲート時に問題が生じる可能性があります。

す。適切な構造のカatalog・ツリーの例については、ディレクトリーにある、WebSphere Commerce 5.4 に同梱されているサンプル・ストアを参照してください。

データ・マイグレーション後

次のセクションで説明しているように、セキュリティー構成をマイグレーションした後で、Web サーバーと WebSphere Commerce Server — *instance_name* アプリケーション・サーバーを再始動します。

ルール・サービスのオフへの切り替え

Commerce Suite 5.1 でルール・サーバー・コンポーネントを使用不可にしているも、インスタンスのマイグレーション・プロセスは、デフォルトで Commerce ルール・サーバーを使用可能にします。インスタンス・マイグレーションの後に WebSphere Commerce 5.4 内のルール・サーバーを使用不可にするには、*instance>name.xml* ファイル内の enable ディレクティブ・ファイルを true から false に変更します。このファイルは、*your_instance* ディレクトリーにあります。

以下の行を見つけて、enable ディレクティブを更新します。以下の行から、

```
<component enable="true"
  name="Rule Services"
  compClassName="com.ibm.commerce.rules.RuleSystemComponentConfiguration">
```

これを以下のように変更します。

```
<component enable="false"
  name="Rule Services"
  compClassName="com.ibm.commerce.rules.RuleSystemComponentConfiguration">
```

新規ロケーションへのストア資産のコピー

WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする際、以下のテーブルにあるリストに従っていくつかの WebSphere Commerce Suite ディレクトリーにあるストア資産を WebSphere Application Server ディレクトリーにコピーする必要があります。ストア用の Web アプリケーションを構成する資産は、WebSphere Application Server 4.0.2 で必要となる新しい Web アプリケーションの構造の理由から、コピーする必要があります。

以下の表に示されているソース・ディレクトリーの内容を、対応するターゲット・ディレクトリーに手動でコピーする必要があります。

注: ソース・ディレクトリーおよびターゲット・ディレクトリーは、以下の表の *instance_name.xml* 内にある <devtools> エレメントの下のエントリーの値を使って構成されます。

表 4. WebSphere Commerce 5.4 の新規ロケーションにストア資産をコピーする

<i>instance_name.xml</i> ファイル内のエンタリー	(WebSphere Commerce Suite 5.1 の) ソース・ディレクトリー (これらのディレクトリーは、デフォルトのインストール・パスにあると想定します。)	(WebSphere Commerce 5.4 の) ターゲット・ディレクトリー (これらのディレクトリーは、デフォルトのインストール・パスにあると想定します。)
StoresDocRoot + StoreWebPath	/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/ <i>instance_name</i> /stores/web	/QIBM/UserData/WebASAdv4/(<i>WAS_instance_name</i>)/installedApps/WC_Enterprise_App_ <i>instance_name</i> .ear/wcstores.war
StoresDocRoot + StoresPropertiesPath	/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/ <i>instance_name</i> /stores/properties	/QIBM/UserData/WebASAdv4/(<i>WAS_instance_name</i>)/installedApps/WC_Enterprise_App_ <i>instance_name</i> .ear/wcstores.war/WEB-INF/classes

ストア・アーカイブ・ファイルがストアの URL から無許可で検索され、ストアをロードするために使用されたすべてのアイテムが表示されることがないようにするために、*store_name.sar* ファイルのディレクトリーがすべて /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/sar ディレクトリーに移動されたことを確認してください。

WebSphere Commerce インスタンスの更新

Infashion または WebFashion などのマイグレーション済みストアを公開する場合は、/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/xml ディレクトリーにある WebSphere Commerce インスタンス・ファイル *instance_name.xml* の中の DevTools ノード内の TempPath 属性を変更します。

次の行を変更します。

```
TempPath="/QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/instance_name/temp"
```

以下のようにします。

```
TempPath="/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name/temp/tools/devtools"
```

WebSphere Application Server EJB セキュリティーの使用可能化

WebSphere Commerce 5.1 で WebSphere Application Server EJB セキュリティーを使用可能にした場合、それを WebSphere Commerce 5.4 で再度使用可能にする必要があります。EJB セキュリティーを再デプロイするためのステップについては、*WebSphere Commerce インストール・ガイド バージョン 5.4* のセクション『WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にする』を参照してください。

ご使用のマシンが以下の要件を満たしていることが強く推奨されていることに注意してください。

- 最低でも 1 GB のマシン・メモリー。
- WebSphere Commerce アプリケーションの場合、最低でも 384 MB のヒープ・サイズ。

セキュリティ構成のマイグレーション

Commerce Suite 5.1 のインスタンス構成を WebSphere Commerce 5.4 レベルにマイグレーションした後、以下のマーチャント・キー・マイグレーション・ユーティリティを実行する必要があります。

- MigrateEncryptedInfo

このユーティリティは、以下を実行します。

1. Commerce Suite 5.1 のデフォルトのマーチャント・キーを使用している場合、指定したインスタンスのデフォルトのマーチャント・キーを新規の鍵に変更して、関連付けられた構成ファイルに応じてストアのデータベース内の暗号化データを更新します。 WebSphere Commerce 5.4 では、デフォルト以外のマーチャント・キーを使用する必要があります。
2. Commerce Suite 5.1 のデフォルトのマーチャント・キーを使用していない場合、オプションで、指定したインスタンスのマーチャント・キーを変更して、関連付けられた構成ファイルに応じてストアのデータベース内の暗号化データを更新します。
3. ログオン・パスワードがデータベースに保管される方法を変更して、 WebSphere Commerce 5.4 の要件に適合するようにします。

更新される暗号化データには、暗号化されたパスワードおよびクレジット・カード・データが含まれます。ユーティリティは以下の表にある暗号化データを更新します。

- USERREG
- PATTRVALUE
- ORDPAYINFO
- ORDPAYMTHD

構成ファイル (DBUpdate.txt) は、ディレクトリー /QIBM/ProdData/WebCommerce/schema/db2/migration にあります。

構成ファイルには、データベース・アクセス、データベース・テーブル、およびデータ更新に使用される更新クラスについての情報が含まれています。更新済みの列を、やはり列データ・タイプを制限する同じ更新クラスで更新する必要がある限り、1つのジョブに複数のテーブルを指定することも可能です。

マーチャント・キー・マイグレーション・ユーティリティを実行する前に、ご使用の WebSphere Commerce インスタンス用の *instance_name.xml* ファイル内の PDI 暗号化設定が正しく設定されていることを確認してください。

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/xml ディレクトリー内で *instance_name.xml* を見つけます。 *instance_name.xml* ファイル (たとえば demo.xml) を編集し、ストリング PDIEncrypt を検索して、その値を on または off に設定します。 PDIEncrypt="on" と設定すると、クレジット・カード・データなどの機密情報は、マーチャント・キーを使用して暗号化された形式で保管されます。 PDIEncrypt="off" と設定すると、機密情報はプレーン・テキスト形式 (暗号化されていない) で保管されます。

MigrateEncryptedInfo ユーティリティを以下のように実行します。

- __ 1. *instance_name* - WebSphere Commerce Server アプリケーション・サーバーを、WebSphere Application Server コンソールで停止します。
- __ 2. iSeries コマンド行から QSH と入力して、QShell ウィンドウをオープンします。
- __ 3. WebSphere Commerce 5.4 インストール・ディレクトリーの下の bin サブディレクトリーに移動します。
/QIBM/ProdData/WebCommerce/bin
- __ 4. MigrateEncryptedInfo ユーティリティーを以下のように実行します。
 - a. strqsh と入力して QShell を立ち上げます。
 - b. MigrateEncryptedInfo [*instance_name*] [*old_key*] [*new_key*]

ここで

- *instance_name* は、更新されるインスタンスの名前です。インストールされているインスタンスが 1 つしかない場合は、このパラメーターをそのままにしておくことができます。
- *old_key* は、制御文字がないテキスト (ASCII) 形式による、現在のマーチャント・キーです。このパラメーターを指定する必要があるのは、現在デフォルト以外の Commerce Suite 5.1 マーチャント・キーを使用している場合だけです。デフォルトの Commerce Suite 5.1 マーチャント・キーを使用している場合、デフォルト鍵を使用していることをユーティリティーが検出するので、このパラメーターは指定しないでください。
- *new_key* は、制御文字がないテキスト (ASCII) 形式による、新規のマーチャント・キーです。これは、以下の規則に準拠していなければなりません。
 - 長さが 16 進文字で 16 文字であること。使用可能な文字は、0、1、 2、3、4、5、6、7、8、9、a、b、c、d、e、または f です。
 - 最低 1 つの英字を含むこと。
 - 最低 1 つの数字を含むこと。
 - 小文字であること。
 - 同一の文字を連続して 5 回以上使用しないこと。

たとえば、aaaa1aaaa1aaaa12 や abcdeaaaa3aaaa12 は使用できますが、aaaaabaaaa1aaaa1 は使用できません。

異なるシナリオでのコマンドの指定方法については、以下のセクションを参照してください。

- __ 5. Web サーバーおよび WebSphere Application Server を再始動します。
 - a. WebSphere Application Server を停止します。
 - b. Web サーバーを停止します。
 - c. Web サーバーを再始動します。
 - d. WebSphere Application Server を再始動します。
- __ 6. *instance_name* - WebSphere Commerce Server アプリケーション・サーバーを、WebSphere Application Server コンソールで始動します。

ツールはログ・ファイルを生成せず、画面上にエラーを表示します。

このユーティリティを使用してマーチャント・キーを更新できるのは、マイグレーション時だけであることに注意してください。後にマイグレーションが終了してからマーチャント・キーを変更したい場合、構成マネージャーを使用して鍵を更新します。構成マネージャーの使用の詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプ・セクションを参照してください。

例

- デフォルト以外の Commerce Suite 5.1 マーチャント・キーを使用している場合、つまりすでにマーチャント・キーを固有のものに変更した場合に、鍵を WebSphere Commerce 5.4 用に更新するためには、古い鍵と新規の鍵の両方を指定します。

```
MigrateEncryptedInfo myinstance 0123456789abcdef abcdef0123456789
```

- デフォルト以外の Commerce Suite 5.1 マーチャント・キーを使用している場合、つまりすでにマーチャント・キーを固有のものに変更した場合に、鍵を WebSphere Commerce 5.4 用に更新しないためには、どちらの鍵も指定しません。

```
MigrateEncryptedInfo myinstance
```

(古い鍵と新しい鍵に同じ値を指定した場合、そのことを示すエラー・メッセージを受け取るので注意してください。)

ストア・ファイル資産のマイグレーション

このセクションでは、公開済みの Commerce Suite 5.1 ストアを WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする方法について説明します。

JavaServer Pages を変更する前に、以下が実行済みであることを確認してください。

- Commerce Suite 5.1 ストア・アーカイブを公開したこと。ストア・アーカイブを公開するための詳細ステップについては、Commerce Suite 5.1 オンライン・ヘルプのセクション『ストア・アーカイブの発行』を参照してください。
- 45 ページの『データベースのマイグレーション』に従って、データベース・スキーマをマイグレーションします。
- 43 ページの『Commerce Suite 5.1 インスタンス構成のマイグレーション』に従って、インスタンスを WebSphere Commerce 5.4 レベルにマイグレーションします。

これによって、データベース内のストア・データが WebSphere Commerce 5.4 に自動的にマイグレーションします。

上記の操作を完了した後、示されたサンプル・ストアに基づいて新規の WebSphere Commerce 5.4 ストア・アーカイブを作成する必要があります。WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプのセクション『ストアの作成』および『ストア・アーカイブの作成』を参照してください。古い Commerce Suite 5.1 ストア・アーカイブは、WebSphere Commerce 5.4 内のストア・アーカイブ・ツールでは処理されません。

重要

- `index.jsp` は、WebSphere Commerce 5.4 で新しく使用されるようになったファイルなので、マイグレーションされたストアにはこれがありません。結果として、マイグレーションされたストアは「WebSphere Commerce Store Services View (WebSphere Commerce ストア・サービス・ビュー)」ページからは立ち上げられません。ストア・サービスの「launch store (ストアの立ち上げ)」ボタンを使用してストアを立ち上げるには、独自の `index.jsp` を作成する必要があります。 `index.jsp` ファイルの例については、WebSphere Commerce 5.4 で提供されているサンプル・ストアを参照するとともに、付属のサンプル・ストアについて説明している WebSphere Commerce オンライン・ヘルプを参照してください。
- マイグレーションの前に Commerce Suite 5.1 で使用した Web アドレスによって、ストアを立ち上げることができます。たとえば、以下のようにします。

```
http://hostname/webapp/wcs/stores/servlet/StoreCatalogDisplay?  
storeId=storeId&langID=-1&catalogId=catalogId
```

`storeId` はストアのストア ID 番号、`catalogId` はカタログ番号です。詳細については、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの『コマンド行を使用したストア・アーカイブの公開』を参照してください。

- WebSphere Commerce 5.1 または WebSphere Commerce Business Edition 5.1 の、Java、Enterprise JavaBeans オブジェクト、または JavaServer Pages オブジェクトで作成されたコードまたはコマンドをカスタマイズした場合、それらを WebSphere Commerce 5.4 で求められるレベルに再デプロイする必要があります。 *WebSphere Commerce Studio* マイグレーション・ガイド バージョン 5.4 の『カスタマイズ・コードの変換』のセクションを参照してください。この変換は、IBM WebSphere Application Server 3.5 から WebSphere Application Server 4.0.2 への移動を行うために必要です。
- 古いストア・アーカイブは、更新されたストア・サービス・ツールでは動作しません。したがって、WebSphere Commerce Studio を使用したストア・アーカイブでの、ストア・アーカイブの再公開、配送または税の更新、ストア Web 資産の更新などの機能は使用できません。

Commerce Suite 5.1 JavaServer Page の更新

Commerce Suite 5.1 JavaServer Page (JSP) が WebSphere Commerce 5.4 で機能するようになるには、いくつかの変更を加える必要があります。これを自動的に実行するツールが備えられています。このツールを実行するには、以下のようにします。

1. インスタンスが置かれている iSeries マシン上でコマンド・ウィンドウをオープンします。
2. コマンド `qsh` を入力します。
3. `/QIBM/ProdData/WebCommerce/bin` ディレクトリに切り替えます。
4. `migrateJSP` スクリプトを以下のように実行します。

```
migrateJSP inputDir outputDir
```

ここで

- `inputDir` は、Commerce Suite 5.1 JSP が存在するディレクトリーの完全修飾名です。
- `outputDir` は、変換後の WebSphere Commerce 5.4 JSP が置かれるディレクトリーの完全修飾名です。

たとえば、以下のようにします。

```
migrateJSP /QIBM/UserData/CommerceSuite5/instances/my_instance/stores/web/  
my_store /QIBM/UserData/WebASAdv4/my_WAS_instance/installedApps/  
WC_Enterprise_App_(my_instance).ear/wcstores.war/my_store
```

注: JavaServer Pages 上でこのツールの実行は一度だけにしてください。2 度以上実行すると、JSP で構文エラーが生じる場合があります。たとえば、初回にスクリプトを実行する際は、JSP は `<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>` から `<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true" flush="true"/>` へ正しく更新されますが、もう一度このスクリプトを実行すると、`<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true" flush="true"/>` のように更新されてしまいます。

MigrateJSP ツールが JSP に対して自動的に加える、必須の変更点を以下に示します。このリストは、InFashion ストアの Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション時のものです。

- WebSphere Commerce 5.1 は JSP 1.1 レベルを使用するので、以下のすべての出現を変更する必要があります。

```
<jsp:include page="<%=incfile%>" />
```

これを以下のように変更します。

```
<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true" />
```

- 以下のリンク (存在する場合) のすべての出現を変更します。

```
<Form NAME="BillAddressForm" METHOD="POST" action="<%= "OrderCopy"%>">
```

または

```
<Form NAME=BillAddressForm METHOD="POST" action="<%= "OrderCopy"%>">
```

これを以下のように変更します。

```
<Form NAME="BillAddressForm" METHOD="POST" action="OrderCopy">
```

Commerce Suite 5.1 JSP に対して加えることができる、追加の変更点のリストを以下に示します。これらの変更はオプションです。

- いくつかの Commerce Suite 5.1 コマンドは、そのコマンドの現在の WebSphere Commerce 5.4 パージョンに置き換えることができます。これらの変更は必須ではありませんが、適当な時期に実行することをお勧めします。

– `getCalculatedPrice()` メソッドのすべての出現を、
`getCalculatedContractPrice()` メソッドに置き換えることができます。これらのメソッドは、`ItemDataBean` および `ProductDataBean` クラスで生じます。これらのメソッドおよびクラスの詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

- CatalogEntryMPE bean の使用法を EMarketingSpot bean に更新できます。たとえば、InFashion ストアの Commerce Suite 5.1 newarrivals.jsp で、CatalogEntryMPE bean が以下のように使用されていたとします。

```
<%
// create the e-Marketing Spot
CatalogEntryMPE productSpot = new CatalogEntryMPE();

//LOOK: Set the right spot name.
productSpot.setName("NewArrivalsPage");
productSpot.setMaximumNumberOfItems(new Integer(20));

//Set the default list of promoted products to the
//contents of the HOMEPAGE_PROMO category.
List defaultCatalogEntryIdList = new ArrayList();
if (newArrivalCategoryId != null )
{
    CategoryDataBean subCategories[];
}
%>
```

WebFashion ストアの WebSphere Commerce 5.4 newarrivals.jsp では、この同じ機能が以下のようになります。

```
<!-- START PROMO -->
<%
// create the e-Marketing Spot
EMarketingSpot eMarketingSpot = new EMarketingSpot();

// IMPORTANT - set the correct name here
eMarketingSpot.setName("StoreHomePage");

// instantiate the bean
DataBeanManager.activate(eMarketingSpot, request);

EMarketingSpot.CatalogEntry[] productResults = eMarketingSpot.getCatalogEntries();
if (productResults != null && productResults.length > 0)
{
    for (int i = 0; i < productResults.length; i++) {
        EMarketingSpot.CatalogEntry catalogBean = productResults[i];
        CatalogEntryDescriptionAccessBean catalogDescriptionBean =
            catalogBean.getDescription();
    }
}
%>
```

- UsablePaymentTCListDataBean を ProfileCassetteAccountDataBean の代わりに使用し、 UserRegistrationDataBean.findUser() を UserRegistrationDataBean.getRegisterType() の代わりに使用して、ユーザー・タイプをチェックすることができます。

新規の WebSphere Commerce 5.4 ストアの作成方法を知るためには、 WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『ストアの作成』を参照してください。

shipaddress.jsp に対する変更

マイグレーション済みストアを WebSphere Commerce 5.4 ストア・サービスを使用して立ち上げたい場合、そしてショッパーがストア内でショッピング・フローを完了するようにしたい場合は、 Commerce Suite 5.1 に同梱されている shipaddress.jsp に対して以下の変更を加える必要があります。

Commerce Suite 5.1 shipaddress.jsp から以下の行を見つけて変更します。

```
if ( !addr.getAddress1().equals("-"))
```

これを以下のように変更します。

```
if (addr.getAddress1()!=null && !addr.getAddress1().equals("-"))
store_dir
```

ディレクトリーにある `shipaddress.jsp` を更新します。 `store_dir` は、ストアのディレクトリーです (たとえば、`webfashion1`)。

ユーザー独自のアプリケーションで Commerce Suite 5.1 `shipaddress.jsp` からのコードを使用している場合、それに対応した変更を加える必要があります。

ストア・サービスなどのツールを実行するために使用したすべてのブラウザをシャットダウンした後、ショッピングは、クリーンな (つまり新規に立ち上げた) ブラウザーからストアを立ち上げる必要があります。

register.jsp および account.jsp に対する変更

サンプルの InFashion ストア用として Commerce Suite 5.1 に同梱されていた `register.jsp` および `account.jsp` JSP は、ストアへのログインが失敗した場合でもエラーを戻しませんでした。

顧客がログオンに失敗したときにストアがエラー・コードを戻すようにするには、`register.jsp` および `account.jsp` を更新する必要があります。さらに、`infashiontext_en_US.properties` ファイルも更新する必要があります。

更新済みの JSP およびプロパティー・ファイルのリストについては、以下を参照してください。

- 150 ページの『`register.jsp`』
- 155 ページの『`account.jsp`』
- 159 ページの『`infashiontext_en_US.properties`』

Commerce Suite 5.1 に同梱されていた元のファイルと比較して、WebSphere Commerce 5.4 用のこれらの JSP に必要な変更は、太字フォントで示しています。

ユーザー独自のアプリケーションで Commerce Suite 5.1 の `register.jsp` および `account.jsp` からのコードを使用している場合、それに対応したコードの変更を加える必要があります。

サンプルの WebFashion ストアのユーザー登録: Commerce Suite 5.1 Web サイトからダウンロードして使用可能なサンプルの Commerce Suite 5.1 WebFashion ストアでは、提供される `register.jsp` に次の変更を加える必要があります。コマンド `RegisterNAddToMemberGroup` をコマンド `UserRegistrationAdd` に置き換えてください。 `UserRegistrationAdd` コマンドの使用法および構文についての情報は、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプを参照してください。

この変更が必要なのは、`RegisterNAddToMemberGroup` コマンドが `owner_id` を 0 (ゼロ) の値にハードコーディングするためです。WebSphere Commerce 5.4 では、`owner_id` は実際には `-2001` の値になります。この変更を行わないと、新規のユーザーを WebSphere Commerce 5.4 に登録することができません。

上記の変更を `register.jsp` ファイルに加えた後、登録ユーザーに割引が適用されるようにするには、顧客プロファイルを変更する必要があります。Commerce Accelerator を使用して、以下のようにしてマイグレーションされた WebFashion ストアの `register10` 顧客プロファイルを変更します。

1. WebSphere Commerce Accelerator にログインし、WebFashion ストアを選択します。

2. 「マーケティング」>「顧客プロフィール」の順に選択します。
3. **register10** を選択して、右のナビゲーション・バーで「変更」をクリックします。
4. 「顧客プロフィールの変更」ページが表示されます。左のナビゲーション・バーで、「登録」>「登録状況」の順に選択します。
5. 登録状況を「登録済み」に設定します。
6. 画面の右下の角にある「OK」をクリックして、register10 顧客プロフィールを変更します。

Commerce Suite 5.1 では、新規のユーザーが Commerce Suite 5.1 WebFashion ストアに登録されると、RegisterNAddToMemberGroup コマンドがそのユーザーを、メンバー・グループ register10 の下に自動的に割り当てます。そのため、Commerce Suite 5.1 WebFashion ストアのすべての登録済みユーザーは、MBRGRPMBR テーブルの register10 メンバー・グループに属します。register.jsp ファイルを変更した後は、マイグレーションされた WebFashion ストアに新規に登録されたユーザーは、register10 メンバー・グループに属さなくなります。

ユーザー独自のアプリケーションで Commerce Suite 5.1 WebFashion register.jsp 内のコードを使用している場合、それに対応したコードの変更を加える必要があります。

ストア・プロパティ・ファイルの更新

マイグレーションされた Commerce Suite 5.1 ストアでは、ストア固有のバージョンの以下のプロパティ・ファイルが使用されていることがあります。

- さまざまな各国語の Address.properties または Address_locale.properties (英語用の Address_en_US.properties など)
- さまざまな各国語の UserRegistration.properties または UserRegistration_locale.properties (英語用の UserRegistration_en_US.properties など)

これらのストアでは、これらのファイルを除去して WebSphere Commerce 5.4 システムのデフォルトのプロパティが使用されるようにする必要があります。Address および UserRegistration プロパティの形式は WebSphere Commerce 5.4 で変更されており、WebSphere Commerce Accelerator ツールは新しいプロパティ・ファイルに対してのみ動作します。

以下のようにして、ストアのための 2 セットのプロパティ・ファイル、UserRegistration および Address を更新できます。

1. store_dir ディレクトリーにあるすべての Address_*.properties ファイル (つまり、Address_ で始まるプロパティ・ファイル) をバックアップします。
2. すべての Address_*.properties ファイルを ディレクトリーから store_dir ディレクトリーにコピーします。

UserRegistration または Address プロパティ・ファイルをカスタマイズした場合、それらを新しい形式に変換する必要があります。これらの新規バージョンのプロパティを作成する方法については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプで、クラス PropertyResourceBundleReader の説明を参照してください。

すべてのキャッシングをオフに切り替える

キャッシングを使用可能にした場合、ストアを公開する前にそれを使用不可にしてください。キャッシングをオフに切り替えるには、構成マネージャーを使用して、`instance.xml` 内の構成を更新します。

キャッシングを使用不可にしないと、`message.txt` ログで「Transaction log for the database is full」メッセージを受け取ることがあります。この場合、161ページの『付録 G. トラブルシューティング』にある、この問題に対する推奨の解決策を参照してください。

マイグレーションの検証

WebSphere Commerce 5.4 インスタンスを構成した後、*WebSphere Commerce* インストール・ガイド バージョン 5.4 の『インストールの検証とトラブルシューティング』セクションで説明されている検証ステップを実行して、すべての WebSphere Commerce 5.4 コンポーネントが正常に作動していることを確認してください。

Payment Manager インスタンスの 2.2 から 3.1.2 へのマイグレーション

Payment Manager 3.1.2 にアップグレードする前に、以下で入手できる最新の Payment Manager 製品情報を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/websphere/paymgr/support/index.html>

注:

1. Payment Manager インスタンスが WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス・ライブラリーを共用する場合、データベースのリストア後に以下のコマンドを実行して、Payment Manager にそのインスタンス・ライブラリーとその中のすべてのオブジェクトへのアクセス権を付与する必要があります。

```
GRTOBJAUT OBJ(instance_name/*ALL) OBJTYPE(*ALL) USER(QPYMSVR) AUT(*ALL)
GRTOBJAUT OBJ(instance_name) OBJTYPE(*LIB) USER(QPYMSVR) AUT(*ALL)
```

2. Payment Manager インスタンスが WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス・ライブラリーまたはインスタンス・ホスト名を共用する場合は、WebSphere Commerce インスタンスのマイグレーション後に Payment Manager をマイグレーションする必要があります (インスタンス構成マイグレーションとデータベース・マイグレーションの両方)。Payment Manager インスタンスをマイグレーションする前に、WebSphere Commerce インスタンスのマイグレーションが正常に終了していることを検査します。Payment Manager インスタンスが WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス・ライブラリーまたは同じインスタンス・ホスト名を共用しない場合は、Payment Manager インスタンスのマイグレーションはいつでも行えます。

Payment Manager 3.1.2 にマイグレーションする前に、まだ実行していなければ、既存の Payment Manager データベースをバックアップしてください。データベースをバックアップする方法については、35 ページの『データベースのバックアップ』を参照してください。データベースをバックアップした後、次のようにします。

- 最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。これには、以下の Payment Manager の Web サイト上の文書ライブラリー・リンクからアクセスします。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/paymentmanager>

iSeries の場合、Payment Manager の「Tasks (タスク)」ページ上の文書リンクから README を入手することもできます。これには、`http://system-name:2001` の iSeries Tasks ページからアクセスできます (`system-name` は、iSeries システムの TCP/IP ホスト名です)。

- この Payment Manager の新バージョンをインストールする前に、マイグレーションしないカセットをすべて除去します。

Payment Manager 3.1.2 のマイグレーション・プログラム (**CVTPYMMGR**) では、Payment Manager バージョン 2.1.4.0 以降からのデータがマイグレーションされます。既存のデータベースが引き続き使用され、インストール中に必要なすべてのデータ・マイグレーションが行われます。

マイグレーションを行えるのは、Payment Manager バージョン 2.1.4.0 以降の作業バージョンからだけです。つまり、Payment Manager バージョン 2.1.3 またはそれより前の修正レベルからのマイグレーションはサポートされていません。Payment Manager バージョン 2.1.3 またはそれより前のものを使用している場合、バージョン 2.1.4.0 にアップグレードしてからでなければ、Payment Manager バージョン 3.1 にアップグレードすることはできません。

決済カセット

Payment Manager 3.1.2 がインストールされた後、Payment Manager バージョン 2.1 以降ですでにインストールされている (IBM またはサード・パーティーによって提供される) すべてのカセットが適切に機能するという保証はありません。

Payment Manager をインストールする前に、以下の点に注意してください。

- 現在サード・パーティーの決済カセットを使用している場合、ご使用のシステム上に Payment Manager をインストールする前に、既存のカセットを Payment Manager 3.1.2 にマイグレーション済みできるか、カセット・プロバイダーにまず確認する必要があります。
- サード・パーティーと IBM 提供のどちらの決済カセットも、カセットが正常に機能するように Payment Manager 3.1.2 へマイグレーションしなければなりません。IBM 提供のカセット (Cassette for VisaNet や Cassette for SET など) を使用している場合、マイグレーションを行うためにバージョン 3.1.2 のカセット・ソフトウェアをインストールする必要があります。インストールの説明については、ご使用の決済カセット固有の補足資料を参照してください。
- 現在 Payment Manager バージョン 2.1.4 を Cassette for SET バージョン 2.1.4 と一緒に使用している場合、まず、バージョン 2.1.5 PTF (Payment Manager フレームワークと Cassette for SET の両方) をインストールしなければなりません。そして、少なくとも一度 Payment Engine を始動して停止してから、マイグレーションを実行します。そうしなければ、データ・マイグレーション中に Payment Manager 3.1.2 のインストールが失敗します。

データベース

以前のインストールからマイグレーションする場合、ご使用のデータベース製品、オペレーティング・システム、およびキャンペーン製品のレベルが、Payment Manager によってサポートされていることを確認してください。プラットフォーム

固有の情報については、*IBM WebSphere Payment Manager 3.1 for Multiplatforms* インストール・ガイド 内の、ご使用のプラットフォームに対応したインストールに関する章を参照してください。

インストール前の考慮事項

マイグレーションの前に、以下に挙げる追加の考慮事項に注意してください。

Test Cassette

Payment Manager バージョン 2.1.x で提供されていた Test Cassette は、バージョン 2.2 からは提供されなくなりました。インストール・プログラムで Test Cassette が検出されると、削除されます。現在 Test Cassette をご使用の場合は、OfflineCard Cassette の使用に切り替えるようお勧めします。

Payment Manager バージョン 3.1 をインストールする前に、各 Payment Manager インスタンスから Test Cassette を除去するようお勧めします。

OfflineCard Cassette の詳細については、*Payment Manager 管理者ガイド* を参照してください。

EventListener SocksHost の長さ制限

現在 SocksHost フィールドの長さは 254 文字に制限されています。254 文字よりも長い SocksHost フィールドを使用しているアプリケーションによって EventListener が作成されている場合、マイグレーション・プログラムによって 254 文字に切り捨てられます。イベント通知の詳細については、*Payment Manager プログラマーのガイド* とリファレンス を参照してください。

インストールおよびマイグレーション

Payment Manager 3.1.2 のインストールおよびマイグレーション・プログラムでは、Payment Manager バージョン 2.1.4.0 以降からのデータがマイグレーションされます。既存のデータベースが引き続き使用され、インストール中に必要なすべてのデータ・マイグレーションが行われます。

Payment Manager 2.1.4.0 またはそれ以降からマイグレーションする前に、Payment Manager 3.1.2 for iSeries ライセンス・プログラムを、必要なカセット・オプションとともにインストールしておく必要があります。Payment Manager 3.1.2 をインストールした後に、**CVTPYMMGR** (Payment Manager の変換) コマンドを使用して、Payment Manager 2.1.4.0 またはそれ以降からのデータをマイグレーションします。Payment Manager 3.1.2 にマイグレーションするには、以下のようになります。

1. 以前の構成に存在する各カセットごとに、対応する Payment Manager 3.1.2 カセット・オプションを必ずインストールします。
2. iSeries のコマンド入力画面から、以下のコマンドを入力します。

```
CVTPYMMGR PYMMGR(instance) PWD(password)
```

ここで 2 つのパラメーターは、マイグレーションするインスタンスの名前と、そのインスタンスに関連付けられているパスワードです (パスワードを Payment Manager 妥当性検査リストから取得する必要がある場合は、*VLDL)。Payment Manager 3.1.1 から、**CVTPYMMGR** コマンドはオプションの WASINST パラ

メーターをサポートするようになりました。これによって以前から存在していたデフォルトではない WebSphere インスタンスを指定できます。

ご使用のプラットフォームで Payment Manager 3.1.2 をインストールする場合は、*IBM WebSphere Payment Manager 3.1 for Multiplatforms インストール・ガイド* の、該当するインストールのセクションを参照してください。

注: *IBM WebSphere Payment Manager 3.1 for Multiplatforms インストール・ガイド* では、`wpm.RealmClass` パラメーターを `com.ibm.etill.framework.payserverapi.PSOS400Realm` から `com.ibm.commerce.payment.realm.WCSRealm` に切り替えるように指示が出されます。これによって Payment Manager は、WebSphere Commerce を使用してログオン時にユーザーを認証するようになります。つまり、WebSphere Commerce は実行していなければならない、Payment Manager へのログインに使用されるユーザー ID は有効な WebSphere Commerce 管理者 ID でなければならないということです。

Payment Manager を使用する前に、少なくとも一度は WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、以下にアクセスします。

```
https://host_name:8000/adminconsole
```

デフォルトの管理コンソールのユーザー ID (`wcsadmin`) と、デフォルトのパスワード (`wcsadmin`) を入力します。最初のログイン時にパスワードを変更するように求められます。

インストール後の考慮事項

カセット

Payment Manager フレームワークのインストールとマイグレーションが正常に行われた後、ご使用の IBM カセットとバージョン 2.x の非 IBM カセットを、バージョン 3.1.2 に更新し、正しく機能するようにしなければなりません。

除去されたファイル

Payment Manager および IBM Payment Manager カセットに関して、以下のよう
な、名前に言語クォリファイア (** で表される) が含まれているすべての PSPL
ファイルは削除されます。

```
pspl/admin.**.PSPL  
pspl/payment.**.PSPL  
pspl/reports.**.PSPL
```

サード・パーティーの、言語クォリファイアが付いている PSPL ファイルは除去されません。

Payment Manager の Tivoli® Ready サポートは提供されなくなったため、`PMInstallDir>/tivsupport` ディレクトリは除去されます。

バックアップされるファイル

マイグレーション中に、これらの鍵ファイルおよびサブディレクトリーが、新しいバックアップ・ディレクトリー `/QIBM/UserData/PymSvc/instance_name/pm31Backup` に保管されます。

```
IBMPaymentServerUI.properties  
PaymentServlet.properties  
log/(all files within this directory)
```

第 5 章 データ・マイグレーション後の追加のアクション

以降のいくつかのセクションで説明するマイグレーション・アクションは、データを WebSphere Commerce 5.4 レベルにマイグレーションした後に行うもので、要件に応じて行うかどうか決定できます。これには以下が含まれます。

- 『ルール・サーバー構成のマイグレーション』
- 81 ページの『オークション』
- 81 ページの『ビジネス・アカウント』
- 82 ページの『カスタマイズしたデータベース・テーブル用のステージング・サーバーの再構成』
- 82 ページの『使用されなくなった Commerce Suite 5.1 テーブルの除去』
- 83 ページの『新しいキャッシュ・トリガーのロード』
- 83 ページの『カスタマイズしたプロパティの改良』
- 83 ページの『配送計算コード』
- 84 ページの『商品および在庫の検索』
- 84 ページの『カスタマイズ・コマンド』
- 85 ページの『商品アドバイザーのマイグレーション考慮事項』

ルール・サーバー構成のマイグレーション

以下の場合、このセクションをとばすことができます。

- Commerce Suite 5.1 でルール・サービスを構成していない。
- すべてのルール・サービスが「キャンペーン」ツールによって作成された。キャンペーンのマイグレーションは、本書の前のマイグレーション・ステップを完了した結果として、すでに完了しています。

現在 ディレクトリーにあるファイル `wcs.server` は、Advisor ルール・サーバーを構成するために Commerce Suite 5.1 で使用されていました。WebSphere Commerce 5.4 では、この構成情報はデータベースに保管されています。

Commerce Suite 5.1 で構成されたのと同じようにルール・サービスを構成するには、以下を実行してください。

1. 43 ページの『Commerce Suite 5.1 インスタンス構成のマイグレーション』で説明されているとおりにインスタンスをマイグレーションしたかを確認します。
2. `wcs.server` ファイルを表示するために、テキスト・エディターでそのファイルをオープンします。これは XML 形式のファイルで、以下のようなものです。

```
<?xml version="1.0" ?>
<DeployRulesServerConfig>
  <Name>Stateless Event Poster server</Name>
  <ServerFactory>
    <JavaName>com.blazesoft.server.deploy.NdStatelessServer</JavaName>
  </ServerFactory>
  <ServiceManagerFactory>
    <JavaName>com.blazesoft.server.local.NdLocalServiceManager</JavaName>
  </ServiceManagerFactory>
</DeployRulesServerConfig>
```

```

<Name>Loan Event Poster Argument Service</Name>
<RulesServiceAgentFactoryFactory>
  <JavaName>com.blazesoft.server.rules.NdScriptRulesServiceAgentFactory</JavaName>
  <RulesProjectLoaderFactory>
    <JavaName>com.blazesoft.server.rules.NdRulesProjectFileLoader</JavaName>
    <Project>c:/wsc/instances/demo/rules/ConsumerCredit_POSTER.adv</Project>
  </RulesProjectLoaderFactory>
</RulesServiceAgentFactoryFactory>
<DeploymentType>Java</DeploymentType>
<DeployRulesServiceClientContextFactory>
  <JavaName>com.blazesoft.server.deploy.rules.NdDeployPosterRulesServiceClientContext</JavaName>
  <Sr1MappingClass>ScoredLoanApplication</Sr1MappingClass>
</DeployRulesServiceClientContextFactory>
<NumAgents>2</NumAgents>
<RecyclePolicy>0</RecyclePolicy>
</DeployRulesServiceConfig>

<DeployRulesServiceConfig>
  <Name>Loan Event Poster Argument Wrapping-Results Extractor Service</Name>
  <RulesServiceAgentFactoryFactory>
    <JavaName>com.blazesoft.server.rules.NdScriptRulesServiceAgentFactory</JavaName>
    <RulesProjectLoaderFactory>
      <JavaName>com.blazesoft.server.rules.NdRulesProjectFileLoader</JavaName>
      <Project>../..../data/rules/ConsumerCredit_POSTER.adv</Project>
    </RulesProjectLoaderFactory>
  </RulesServiceAgentFactoryFactory>
  <DeploymentType>Java</DeploymentType>
  <DeployRulesServiceClientContextFactory>
    <JavaName>com.blazesoft.server.deploy.rules.NdDeployPosterRulesServiceClientContext</JavaName>
    <Sr1ArgumentsObjectFactory>
      <Sr1Class>ScoredLoanApplication</Sr1Class>
      <Sr1ObjectInitializerFunctional>
        <Sr1Name>initServiceData</Sr1Name>
        <Sr1ArgumentType>string</Sr1ArgumentType>
      </Sr1ObjectInitializerFunctional>
    </Sr1ArgumentsObjectFactory>
    <Sr1ResultExtractorFunctional>
      <Sr1Name>extractServiceResult</Sr1Name>
    </Sr1ResultExtractorFunctional>
  </DeployRulesServiceClientContextFactory>
  <NumAgents>2</NumAgents>
  <RecyclePolicy>0</RecyclePolicy>
</DeployRulesServiceConfig>
</DeployRulesServerConfig>

```

最上位のタグは DeployRulesServerConfig です。このタグ全体がルール・サーバーを表します。これには、DeployRulesServiceConfig というタグがいくつか含まれています。これらのタグのそれぞれが、ルール・サービスを表します。ルール・サーバー・タグ (DeployRulesServerConfig) は無視しても構いません。各ルール・サービス・タグ (DeployRulesServiceConfig) から、4つの部分の情報を取り出す必要があります。

3. WebSphere Commerce 5.4 管理コンソールを立ち上げます。
4. 「Rule Service Administration (ルール・サービス管理)」 ツールに進みます。(「ルール・サービス」 > 「管理」)。
5. それぞれの DeployRulesServiceConfig タグで以下を行います。
 - a. 「Rule Service Administration (ルール・サービス管理)」 ツールから、「ルール・サービスの追加」を選択します。
 - b. システムは、以下の4つの入力フィールドを表示します。

名前 <Name>...</Name> タグの値を入力します。この例では、最初のルール・サービスの名前は Loan Event Poster Argument Service です。

Project path (プロジェクト・パス)

<Project>...</Project> タグの値を入力します。この例では、最初のルール・サービスのプロジェクトのパスは C:/wsc/instances/demo/rules/ConsumerCredit_POSTER.adv です。別々のフォルダー名を区切るには、スラッシュ (/) を使用し、ルール・プロジェクトの .adv ファイルの完全修飾パス名を入力してください。

33 ページの『ディレクトリーおよびファイルのバックアップ』で説明されているように、Commerce Suite 5.1.adv ファイルがバックアップされている必要があります。

Agents (エージェント)

<NumAgents>...</NumAgents> タグの値を入力します。この例では、最初のルール・サービスのエージェント値は 2 です。

セッション・タイムアウト

<ServiceSessionTimeout>...</ServiceSessionTimeout> タグがあれば、その値を入力します。この例では、最初のルール・サービスのセッション・タイムアウト値は指定されていません。この場合、デフォルト値である 30000 (30000 ミリ秒、つまり 30 秒) を使用できます。

c. 「OK」 をクリックします。

システムによって、ルール・サービスの新しいリストが表示されます。これには、追加したばかりのルール・サービスも含まれています。ファイル wcs.server 内で、ルール・サービスごとに上記のステップを繰り返してください。

6. 上記のステップを完了したら、WebSphere Commerce 5.4 サーバーを再始動して「Rule Service Administration (ルール・サービス管理)」ツールに戻り、ルール・サービスが正常にマイグレーションされたかを検査します。

ルール・サーバー管理コマンド

WebSphere Commerce 5.4 では、ルール・サービス管理コマンドの振る舞いとインターフェースの両方が変更されています。パッケージ com.ibm.commerce.rules.commands および com.ibm.commerce.ruleservice.admin.commands にある Commerce Suite 5.1 バージョンのコマンドは、ルール・サービスを追加、変更、除去、または最新表示するために、スケジューラーを使用して、すべてのアプリケーション・クローンに要求をブロードキャストします。WebSphere Commerce 5.4 では、コマンドが同じパッケージ内でより適切な名前が付いたものに置き換えられています。また、コマンドはジャストインタイム方法で操作されるようになっています。たとえば、ルール・サービスを最新表示する場合、各アプリケーション・クローンがルール・サービスを再度実行する必要が生じるとすぐに、そのルール・サービスの独自のインスタンスを最新表示します。この方法により、信頼性が向上し、不必要な更新が避けられます。ルール・サービス管理コマンドを拡張した場合、振る舞いに関するこの変更が、カスタマイズした拡張機能にどのように影響するかを知るため、新しいコマンドを実行する必要があります。

以下の表では、ルール・サーバー管理のための Commerce Suite 5.1 コントローラー・コマンドおよびアプリケーション・プログラミング・インターフェースへの変更についてリストしています。

コントローラー・コマンド

ルール・サーバー管理コントローラー・コマンドの振る舞いに変更されています。WebSphere Commerce 5.4 では一般に、すべてのアプリケーション・クローンへの

ブロードキャスト情報ではなく、データベース内のルール・サービス構成情報を更新します。唯一の例外は、ブロードキャストを必要とする以下のコマンド・セットの場合です。

`com.ibm.commerce.ruleservice.admin.commands.BroadcastUpdateRuleServiceStatusCommand`

これらのコマンドは対応する URL を介して使用されるもので、カスタマイズしたり拡張したりすることは意図されていません。

これらのコマンドのいずれかに関する詳細については、WebSphere Commerce 5.4 のオンライン・ヘルプを参照してください。

以下の表では、簡潔に表記するために、コマンドのベース名だけをリストしています。完全なコマンド名の `com.ibm.commerce.ruleservice.admin.commands.` 部分は含まれていません。たとえば、`AddRuleServiceCommand` コマンドの完全な名前は、`com.ibm.commerce.ruleservice.admin.commands.AddRuleServiceCommand` です。

表 5. ルール・サーバー・コントローラー・コマンド

WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
AddRuleServiceCommand	AddRuleServiceCommand
なし	BroadcastUpdateRuleServiceStatusCommand
StopRuleServiceCommand	DisableRuleServiceCommand
EditRuleServiceCommand	EditRuleServiceCommand
StartRuleServiceCommand	EnableRuleServiceCommand
RefreshRuleServiceCommand	RefreshRuleServiceCommand
RemoveRuleServiceCommand	RemoveRuleServiceCommand
CheckRuleServiceStatusCommand	UpdateRuleServiceStatusCommand

アプリケーション・プログラミング・インターフェース呼び出し (タスク・コマンド)

Commerce Suite 5.1 で直接的なメソッド呼び出しだったものは、WebSphere Commerce 5.4 ではタスク・コマンドになっています。Commerce Suite 5.1 で最も一般的に使用されるアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 呼び出しは、ルール・サービスを呼び出すためのものです。WebSphere Commerce 5.4 では、これは

`com.ibm.commerce.rules.commands.InvokePersonalizationRuleServiceCommand` コマンドを使用することによって行われます。

これらのタスク・コマンドのいずれかに関する詳細については、WebSphere Commerce 5.4 のオンライン・ヘルプを参照してください。

以下の表では、簡潔に表記するために、API およびコマンドのベース名だけをリストしています。Commerce Suite 5.1 コマンドで、完全な API 名の `com.ibm.commerce.rules.RulesSystem.` 部分はリストされていません。たとえば、`changeServiceConfiguration()` の完全な名前は、`com.ibm.commerce.rules.RulesSystem.changeServiceConfiguration()` です。同様に、WebSphere Commerce 5.4 コマンドについても、コマンド名の `com.ibm.commerce.rules.commands.` 部分はリストされていません。たとえば、`ChangePersonalizationRuleServiceCommand` の完全な名前は、

com.ibm.commerce.rules.commands.ChangePersonalizationRuleServiceCommand です。

表6. ルール・サーバー API 呼び出し (タスク・コマンド)

WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
changeServiceConfiguration()	ChangePersonalizationRuleServiceCommand
addService()	CreatePersonalizationRuleServiceCommand
stopService()	DisablePersonalizationRuleServiceCommand
startService()	EnablePersonalizationRuleServiceCommand
invokeService()	InvokePersonalizationRuleServiceCommand
なし	MarkPersonalizationRuleServiceChangedCommand
removeService()	RemovePersonalizationRuleServiceCommand
getService().getStatus()	UpdatePersonalizationRuleServiceStatusCommand

オークション

Commerce Suite 5.1 でオークションを使用可能にしていた場合、以下を考慮する必要があります。

Commerce Suite 5.1 のすべてのオークション・オーダー・アイテムでは、デフォルト契約 (CONTRACT テーブルの CONTRACT_ID) が使用されます。WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後、オークション・オーダー・アイテムには WebSphere Commerce 5.4 の新しいデフォルト契約が入れられます。WebSphere Commerce 5.4 のデフォルト契約には、オークション・アイテムでは適切でない条件やリファンド・ポリシーなどが含まれている可能性があります。

デフォルト契約の条件が、オークション・オーダー・アイテムで自分が必要とするものかどうかを確認する必要があります。そうでない場合、TRADING テーブルの TRADING_ID を変更して適切な契約を指すことによって、オークションで適切なものに契約を変更する必要があります。デフォルトでは、データベース・マイグレーション・スクリプトによって、データ・マイグレーション中に作成されるデフォルト契約を指すように、TRADING_ID が設定されます。

ビジネス・アカウント

このマイグレーション・スクリプトでは、ビジネス・アカウントは作成されません。スクリプトは、マイグレーションされたすべてのオーダー・アイテムをデフォルト契約に関連付けます。WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後にアカウントを作成する場合、デフォルト契約を使用するように指定するか、またはオーダー・アイテムを変更する必要があります。アカウントの作成に関する詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『新規ビジネス・アカウントの作成』を参照してください。

カスタマイズしたデータベース・テーブル用のステージング・サーバーの再構成

Commerce Suite 5.1 でデータベース・テーブルをカスタマイズしており、WebSphere Commerce 5.4 でステージング・サーバーを使用する場合、商品データベースとステージング・データベースの整合性を保つために、データ・マイグレーションに先だって、ステージ・コピー・ユーティリティー・コマンド (stagingcopy) を実行する必要があります。データ・マイグレーションが完了した後で、ステージング・サーバーを再構成する必要があります。マイグレーション・プロセスでは、以前の Commerce Suite 5.1 構成はマイグレーションされません。

マイグレーション・プロセスでは、Commerce Suite 5.1 ステージング・サーバー・テーブルは、元の名前に `_WCS51` が付加されて名前変更されることに注意してください。したがって、Commerce Suite 5.1 ステージング・サーバー・テーブルは以下のように保存されます。

- STGSITETAB_WCS51
- STGMERTAB_WCS51
- STGMRSTTAB_WCS51
- STAGLOG_WCS51

参照用にこれらの名前変更されたテーブルの内容を表示できます。

さらに、Commerce Suite 5.1 データベース・クリーンアップ・ユーティリティー・テーブルは、元の名前に `_WCS51` が付加されて名前変更されます。そのため、Commerce Suite 5.1 データベース・クリーンアップ・ユーティリティー・テーブルは、`CLEANCONF_WCS51` として保存されます。参照用にこの名前変更されたテーブルの内容を表示できます。

カスタマイズしたデータベース・テーブル用にステージング・サーバーを再構成する場合は、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『カスタマイズ・テーブルのステージング・サーバーの構成』を参照してください。

カスタマイズしたデータベース・テーブル用にデータベース・クリーンアップ・ユーティリティーを再構成する場合は、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『データベース・クリーンアップ・ユーティリティーに新規構成を追加する』を参照してください。

使用されなくなった Commerce Suite 5.1 テーブルの除去

Commerce Suite 5.1 からの以下のテーブルは、WebSphere Commerce 5.4 では使用されなくなっています。

- CMPGNINTV
- CMPGNRV
- INTVMPE
- INTVSGMT
- MAFAMILY
- MATYPE

- MPE
- MPETYPE
- ONQUEUE
- ONLOG
- ONSLOG
- ORDERMSG
- SEGMENT
- ZIPCODE
- ACCCMDGRP
- ACCMBRGRP
- ACCCUSTEXC

上記テーブルを現在使用していないことを確認してください。どのテーブルも必要なくなった場合、以下のようにしてテーブルを除去することができます。

1. Operations Navigator を立ち上げます。ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。
2. 以下の SQL ステートメントを入力します。

```
drop table table_name
```

table_name は、除去するテーブルの名前です。

注: 除去するそれぞれのテーブルに対してコマンドを実行します。

新しいキャッシュ・トリガーのロード

マイグレーション・プロセスでは、Commerce Suite 5.1 によって作成されたすべてのキャッシュ・トリガーが除去されます。トリガーはテーブルの行が更新、追加、または削除される際に発生するデータベースのイベントです。キャッシュ・コンポーネント (デフォルトで使用可能になっている) は、オブジェクトが無効になった際に示す通知メカニズムとして、トリガーを使用します。キャッシング・トリガーを 5.4 インスタンスに追加したい場合は、マイグレーション・プロセスの完了後に構成マネージャーの「Caching Subsystem (キャッシング・サブシステム)」パネルに進み、「トリガー使用可能化」をチェックします。

カスタマイズしたプロパティの改良

3 ページの『マイグレーション前のアクション』でバックアップした、カスタマイズ済みプロパティおよびコードに関して、カスタマイズ内容を改良して、対応する WebSphere Commerce 5.4 プロパティ・ファイルに入れてください。

配送計算コード

Commerce Suite 5.1 では、配送計算コードは、異なる配送先住所を持つオーダー・アイテムのグループごとに別個に計算されていました。つまり、配送計算コードでは、配送先住所別にオーダー・アイテムがグループ化されていました。現在では、配送先住所別のグループ化は、オプションの動作になっています。下位互換性動作

を保証するため、マイグレーション・スクリプトは、マイグレーション時に、すべての配送計算コード (CALCODE.CALUSAGE_ID = -2) 用の CALCODE.GROUPBY 列に perAddress フラグを設定します。

商品および在庫の検索

データをマイグレーションした後で、WebSphere Commerce Accelerator を使用し、以下のステップを実行して商品および在庫を検索します。

商品を検索するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce Accelerator にログオンして、すでに公開されているストアを選択します。
2. 「商品」をクリックし、「商品の検索」を選択します。
3. 商品コードを入力します。
たとえば、sku-105 が商品 sku-102 に属するアイテムの場合、商品 ID sku-102 を入力する必要があります。
4. 102 を入力します。これにより、この商品を検索できます。
5. 右のパネルで「SKU」を選択し、sku-105 を検索します。

在庫を検索するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce Accelerator にログオンして、公開されているストアを選択します。
2. 「ロジスティック」をクリックし、「在庫の検索」を選択します。
3. そのフィールドでアイテムの SKU を入力します。

注:

- a. 商品の SKU ではなく、アイテムの SKU を入力します。「商品の検索」フィールドからアイテムの SKU を検索できます。
- b. 105 などの番号を入力してから、「検索」をクリックし、必要なアイテムを検索します。

マイグレーションされたアイテムのすべての名前および説明は、「default migrated baseitem description (デフォルトのマイグレーション済みベース・アイテムの説明)」に設定されます。これらのアイテムの名前および説明は、BASEITMDSCTEABLEに入れます。これは、WebSphere Commerce 5.4 での新しいテーブルです。Commerce Suite 5.1 では、アイテムに関する名前および説明がありませんでした。

カスタマイズ・コマンド

Commerce Suite 5.1 で任意のカスタマイズ・コマンドをデプロイした場合について考慮します (たとえば、EJB を使用してコントローラー・コマンドを作成した、など)。この場合、システムを WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後、マイグレーション済みシステムにおいて実行する前に、*WebSphere Commerce Studio* マイグレーション・ガイド バージョン 5.4 の説明に従ってすべてのカスタマイズ・コマンドを再デプロイする必要があります。

edit_registration ページにおけるログオン ID の形式

LDAP を使用している場合、edit_registration ページのログオン ID は、RDN 形式ではなく DN 形式で表示されます。これを RDN 形式で表示するには、UserRegistrationDataBean で提供されているメソッドを使用して、ログオン ID を適切に取り出します。このメソッドを使用するには、各ストアの JSP で次のような少しの変更を加える必要があります。古いメソッドもまだサポートされているため、LDAP が使用されない場合でもマイグレーション済みのストアは正常に機能することに注意してください。

edit_registration.jsp から以下のようなコードを見つけ出します。

```
<%
    strLogonID = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getLogonId());
    strPassword = bnRegister.getLogonPassword();
    strFirstName = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getFirstName());
    strLastName = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getLastName());
}
%>
```

以下のように、太字で示されているようにコードを更新します。

```
<%
    // use getAttribute("RDN") here because getLogonId() will
    // return the DN value when LDAP is used
    strLogonID = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getAttribute("RDN"));
    strPassword = bnRegister.getLogonPassword();
    strFirstName = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getFirstName());
    strLastName = jhelper.htmlTextEncoder(bnRegister.getLastName());}
%>
```

商品アドバイザーのマイグレーション考慮事項

商品アドバイザー構成を前のリリースからマイグレーションする場合、以下の各項を考慮してください。これは WebSphere Commerce Suite 5.1 商品アドバイザー検索スペースが作成済みであることと、前のリリースの WebSphere Commerce で商品アドバイザーが操作可能であることを想定しています。

1. WebSphere Commerce 5.4 のサンプル JavaServer Pages (JSP)
(/QIBM/ProdData/WebCommerce/samples/web/pa ディレクトリーにある pe51.jsp、pc51.jsp、および sa51.jsp) は、Commerce Suite 5.1 において同じ名前を持つ、マイグレーション済みバージョンのファイルです。WebSphere Commerce 5.4 の場合、データ・タイプ・パッケージ名は、以下の表に要約しているとおりに変更されています。これらのパッケージ名を参照するすべての JSP で、com.ibm.commerce.datatype のオカレンスを com.ibm.commerce.pa.datatype に、以下の表で要約しているとおりに変更する必要があります。

WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
com.ibm.commerce.datatype.DsString	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsString
com.ibm.commerce.datatype.DsInteger	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsInteger
com.ibm.commerce.datatype.DsDouble	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsDouble
com.ibm.commerce.datatype.DsCurrency	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsCurrency

WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
com.ibm.commerce.datatype.DsDecimal	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsDecimal
com.ibm.commerce.datatype.DsURLLink	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsURLLink
com.ibm.commerce.datatype.DsImage	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsImage
com.ibm.commerce.datatype.DsDate	com.ibm.commerce. pa .datatype.DsDate

さらに、WebSphere Commerce 5.4 で導入された新規のデータ・タイプとして `com.ibm.commerce.pa.datatype.DsLong` があり、これは `catentry_id` または一般的な整数よりも大きな値を持つ他の属性に使用する必要があることに注意してください。

- 商品アドバイザー検索スペースの作成に使用する入力 XML ファイルで、ステップ 1 (85 ページ) の表で示しているとおり、同じデータ・タイプのパッケージ名の変更を加える必要もあります。

WebSphere Commerce 5.4 で提供されているサンプル を参照することができません。これはこのパッケージ名の変更によって更新済みです。

- CRTWCSPA コマンドを使用して入力 XML ファイルを実行して、マイグレーション済みの WebSphere Commerce 5.4 システムに商品アドバイザー検索スペースを作成します。コマンドの実行後に、ICEXPLFEAT テーブルの DATATYPE 列を検査して、すべてのパッケージ名が正常にマイグレーションされたことを検査します。この列のすべてのクラス名は、新規のパッケージ名 `com.ibm.commerce.pa.datatype` を持っているはずでず。
- メタフォーを作成するための PABatchXML ユーティリティへの入力として使用される XML ファイルを、ステップ 1 (85 ページ) のテーブルでリストされている同じパッケージ名の変更で更新します。
- PABatchXML ユーティリティを実行します。

第 2 部 追加のマイグレーション考慮事項

マイグレーション・ガイドのこの部の章は、特定の Commerce Suite 5.1 ユーザーだけに適用されるマイグレーション考慮事項およびシナリオを記載しています。たいていの場合、これらのセクションはオプションのステップと見なすことができます。これには以下が含まれます。

- 89 ページの『第 6 章 メンバー・サブシステムのマイグレーション考慮事項』
- 95 ページの『第 7 章 アクセス・コントロール・サブシステムの考慮事項』
- 16 ページの『Payment コンポーネントのマイグレーション考慮事項』
- 101 ページの『第 8 章 その他のマイグレーション考慮事項』

第 6 章 メンバー・サブシステムのマイグレーション考慮事項

この章では、LDAP と WebSphere Commerce 5.4 データベースとの統合方法の決定によって異なる、メンバー・サブシステムを Commerce Suite 5.1 から WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする際のマイグレーション・シナリオについて説明しています。

重要

マイグレーションの前、あるいはメンバー・リポジトリとしてデータベースの使用からディレクトリー・サーバーの使用に切り替える前には、常にデータベースをバックアップしなければなりません。データベースのバックアップを行う方法については、35 ページの『データベースのバックアップ』を参照してください。

マイグレーション手順の概説

このセクションでは、メンバー・サブシステムのマイグレーション手順について概説します。

下記の表の見方を以下に示します。

DB->DB

Commerce Suite 5.1 データベースから WebSphere Commerce 5.4 データベースへのマイグレーション

DS->DS

Commerce Suite 5.1 ディレクトリー・サーバーから WebSphere Commerce 5.4 ディレクトリー・サーバーへのマイグレーション

DB->DS

Commerce Suite 5.1 データベースから WebSphere Commerce 5.4 データベースへのマイグレーションを行ってから、ディレクトリー・サーバーの使用への切り替え。

データベースの使用からディレクトリー・サーバーの使用へのマイグレーションは、リリース間のマイグレーションの後であれば、いつでも実行できます。したがって、DB->DS シナリオの場合、まず DB->DB 列を見てから、数列に続く DB->DS 列を見るのが正しい見方です。

Commerce Suite 5.1 では、データベースに対するブートストラップ・データで wcsadmin ユーザーが提供されています。しかし、Commerce Suite 5.1 でディレクトリー・サーバーを使用していた場合、ディレクトリー・サーバー内での wcsadmin に、対応するブートストラップは提供されていませんでした。そのため Commerce Suite 5.1 では、ディレクトリー・サーバー内に wcsadmin のエントリーがある場合に、そのディレクトリー・サーバーを使用しているのが誰であるかは分かりませんでした。以下のマイグレーション手順では、そのようなエントリーがディレクトリ

ー・サーバー内に存在していることを想定しています。しかし、ディレクトリー・サーバー内で wcsadmin ユーザーが実際に置かれている場所に関係なく、メンバーシップ階層を取り込む MBRREL テーブルでは、WebSphere Commerce 5.4 内の wcsadmin の親メンバーは Root Organization に設定されます。

この後の自動化されたマイグレーションによるタスクは、メンバー・サブシステムのために行われるすべてのタスクのサブセットにすぎません。この後にリストされていないタスクが他にもあります (主に役割とメンバー・グループのマイグレーション)。**DB->DS** のマイグレーションの詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプで見つけることができます。

表7. メンバー・サブシステムのマイグレーション手順の概説

マイグレーション手順	DB->DB	DS->DS	DB->DS	注釈
ORG_ID および ORGUNIT_ID に適切に入力し、ビジネス・ユーザー用に BUSPROF テーブルにレコードを作成します。	手動	手動	注釈を参照	DB->DB マイグレーション中にすでに完了しています。
USERS テーブル内でユーザーの PROFILETYPE を修正します。 11 ページの『メンバー・サブシステム』を参照してください。				
自動マイグレーション・スクリプトを実行します。				
STATE 列を MEMBER テーブルに追加し、データを取り込みます。	自動	自動	注釈を参照	(*) DB ->DS に関して自動化されたスクリプトによって行われることはすべて、DB->DB マイグレーション中に完了しています。
Root Organization をデータベースに追加します。	自動	自動	参照	(*)
BUSPROF テーブル内の wcsadmin ユーザーの ORG_ID を、-2000 から -2001 に変更します。	自動	自動	参照	(*)
USERS テーブル内の wcsadmin の PROFILETYPE を、C から B に変更します。				
それまでヌルであったものに関して、 ORGENTITY テーブル内の MEMBER_ID を、-2001 (ルート組織) に設定します。	自動	自動	参照	(*)
MBRREL テーブルを作成し、データを取り込みます。	自動	自動	参照	(*)
自動データ・マイグレーションにより生成された組織エンティティ用の DN を調べます。必要なら、スクリプトの DN (識別名) を変更します。	N/A	手動	手動	
ORGENTITY テーブルに組織エンティティの DN、および USERS テーブルにユーザーを取り込むためにスクリプトを実行します。	手動	手動	手動	

表7. メンバー・サブシステムのマイグレーション手順の概説 (続き)

マイグレーション手順	DB->DB	DS->DS	DB->DS	注釈
すべての必要なサフィックスをディレクトリー・サーバーに作成します。これらは、組織エンティティが Commerce Suite 5.1 によりディレクトリー・サーバーに自動的に作成される時に必要になるサフィックスです。	N/A	手動	手動	
ldapentry.xml ファイルを作成します。	N/A	手動	手動	下の注釈を参照してください。
DS->DS マイグレーションの場合、 ldapentry.xml は Commerce Suite 5.1 の ldapmap.xml ファイルの内容に基づいていなければなりません。				
DB->DS マイグレーションの場合、構成マネージャーを使用してディレクトリー・サーバーの使用に切り替えます。手動で instance_name.xml ファイルを編集し、MigrateUsersFromWCSdb オプションを「ON」に設定します。デフォルトでは、それは「OFF」に設定されています。	N/A	N/A	手動	

注: DS->DS マイグレーションの場合、ldapentry.xml を作成する時、ユーザーにどのようにログオンしてもらいたいかにより、ユーザー検索ベースの指定に関して若干異なる方法をとる必要があります。次の説明は 2 種類のユーザーの違いを述べています。

- *DS* ユーザー とは、ディレクトリー・サーバー内に存在するユーザーで、かつ WebSphere Commerce に認識してもらいたいユーザーです。しかしながら、これらのユーザーは Commerce Suite 5.1 にログオンしたことがなく、かつ Commerce Suite 5.1 に参照されたことのないユーザーです。そのため、それらのユーザーは WebSphere Commerce Suite データベースにまだエントリーがありません。
- *WCS DS* ユーザー とは、ディレクトリー・サーバー内に存在するユーザーで、かつ Commerce Suite がすでに認識しているユーザーです。なぜなら、それらのユーザーはすでに Commerce Suite 5.1 サイトにログオンしているからです。そうしたユーザーは Commerce Suite データベースにエントリーがあります。

DS ユーザーと WCS DS ユーザーの両方が RDN (相対識別名) を使用してログオンすることを望む場合には、両方のタイプのユーザーは、ディレクトリー・サーバー内ですべてのユーザーが固有のものに見なされるような RDN 値を持つ必要があります。それから、両方のタイプのユーザーを見つけられるような検索ベースを指定します。ディレクトリー・サーバーがユーザーを検索する時は、WebSphere Commerce はユーザーが 1 つだけ見つかることを期待します。複数のユーザーが見つかるなら、それはエラー状態です。

DS ユーザーおよび WCS DS ユーザーが同じ RDN を持つことを望む場合には (たとえば、ある DS ユーザーが 'uid=john、o=IBM、c=US' という DN を持っていて、別の WCS DS ユーザーが 'uid=john、o=CompanyA、o=Root Organization' という DN を持っている場合、どちらのユーザーも 'john' という RDN 値を持っているという点に注意してください)、次のようにします。

- WCS DS ユーザーには、 WebSphere Commerce Suite 5.1 で使用していたものと同じログオン ID を引き続き使用してログオンしてもらうことができます。 DS ユーザーには、 DN を使用してログオンしてもらいます。 DS ユーザーが常駐する場所と検索ベースがオーバーラップしないように、 WCS DS ユーザーの検索ベースを指定する必要があります。

DB->DS のマイグレーションに関する詳細については、 WebSphere Commerce 5.4 のオンライン・ヘルプで、 LDAP の統合のセクションを参照してください。

既存のディレクトリー・サーバーを使用する既存の Commerce Suite 5.1 ユーザー

このシナリオでは、いくつかのエントリーがある既存のディレクトリー・サーバーがすでにあります。 Commerce Suite 5.1 を使用しているものの、既存のディレクトリー・サーバーは使用していません。 WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後で、既存のディレクトリー・サーバーを WebSphere Commerce 5.4 と一緒に使用しようと思っています。 Commerce Suite 5.1 ユーザーなので、アクセス bean だけを使用して WebSphere Commerce 5.4 データベースから MEMBER データを取り出すコードを実行しています。

詳細については、 WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『LDAP シナリオ: メンバー・リポジトリーとしてのデータベース』を参照してください。

WebSphere Commerce 5.4 での 5.1 ディレクトリー・サーバーの継続使用

このシナリオでは、すでにディレクトリー・サーバーを Commerce Suite 5.1 と一緒に使用しています。今回 WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションし、ディレクトリー・サーバーを引き続き使用します。 Commerce Suite 5.1 の顧客なので、アクセス bean だけを使用してメンバー・データを取り出すコードを実行しています。 5.1 でディレクトリー・サーバーを使用していたので、 Commerce Suite 5.1 によって認識される登録済みユーザーがディレクトリー・サーバーに存在し、ユーザーのデータが Commerce Suite 5.1 データベースに複製されますが、組織エンティティーおよびメンバー・グループのデータは、 Commerce Suite 5.1 データベースにしかありません。

このシナリオでは、以下を行う必要があります。

1. ビジネス・ユーザー (B2B ユーザー) を WebSphere Commerce 5.4 のメンバーシップ階層内で適切に配置するために、 ORG_ID および ORGUNIT_ID を適切に設定し、必要に応じて BUSPROF テーブル内にレコードを存在させる必要があります。さらに、必要に応じてユーザーの profileType を設定します。以下を手動で行う必要があります。
 - ビジネス・ユーザーの親および上位の組織エンティティーがすでに Commerce Suite 5.1 データベースに存在する場合、以下を行います。
 - ビジネス・ユーザーに BUSPROF レコードがない場合、ビジネス・ユーザーの BUSPROF レコードを作成して、適切な組織エンティティーを指すように ORG_ID および ORGUNIT_ID を設定します。

- ビジネス・ユーザーに BUSPROF レコードがある場合、BUSPROF レコードで ORG_ID および ORGUNIT_ID が適切に設定されているかを確認します。
 - ビジネス・ユーザーの親および上位の組織エンティティが Commerce Suite 5.1 データベースに存在せず、それらの組織エンティティを作成できない場合、そのビジネス・ユーザーの profileType を C (B2C ユーザー) に設定することを考慮してください。
2. 51 ページの『データベース・スキーマのマイグレーション』でのデータ・マイグレーション・スクリプトを実行し、以下を行います。
 - STATE 列を MEMBER テーブルに追加します。
 - wcsadmin ユーザーの ProfileType を C から B に変更します。
 - wcsadmin の BUSPROF テーブル内の ORG_ID を、-2000 から -2001 に変更します。
 - Root Organization をデータベースに追加します。
 - Commerce Suite 5.1 ではヌルだったメンバー ID について、ORGENTITY テーブル内の MEMBER_ID を入力します。
 - MBREEL テーブルを作成し、データを取り込みます。
 3. 自動化されたデータ・マイグレーションの一部として、54 ページの『識別名の更新』で説明しているように、ORGENTITY テーブルに識別名 (DN) 値を取り込むスクリプトが提供されています。組織エンティティの DN 値を調べて、それらが適切かどうかを確認し、必要に応じて DN 値を変更する必要があります。それから fillorgDN.sql スクリプトを実行して、組織エンティティの DN 値を取り込みます。また、USERS テーブルに登録済みユーザーの DN 値を取り込みます。DN 値が取り込まれるのは登録済みユーザーについてだけであり、それらのユーザーの DN 値は、後で WebSphere Commerce 論理によって置き換えられることに注意してください。
 4. 必要なすべての接尾部がディレクトリー・サーバー内に適切に作成されているかを確認します。これらの接尾部は、WebSphere Commerce によってディレクトリー・サーバー内に組織エンティティが自動的に作成される際に必要です。
 5. ldapmap.xml に基づいて ldapentry.xml ファイルを作成し、組織エンティティ属性のマッピングを ldapentry.xml に追加します。
 6. instancename.xml ファイル内の MigrateUsersFromWCsdb オプションが OFF になっているかを確認します。

第 7 章 アクセス・コントロール・サブシステムの考慮事項

WebSphere Commerce 5.4 のアクセス・コントロール・モデルは、アクセス・コントロール・ポリシーの制約に基づいています。アクセス・コントロール・ポリシーは、アクセス・コントロール・ポリシー・マネージャーによって施行されます。一般に、ユーザーが保護可能リソースへのアクセスを試みる際、アクセス・コントロール・ポリシー・マネージャーは、ユーザーが、指定されたリソースで要求された操作を実行できるかどうかを判別します。

加えて、以下の点に注意してください。

- 以下の Commerce Suite 5.1 アクセス・コントロール・データベース・テーブルは、WebSphere Commerce 5.4 では使用すべきではありません。
 - ACCMBRGRP
 - ACCCMDGRP
 - ACCCUSTEXC
 - ACCCMDTYPE

これらのテーブルは、アクセス・コントロールを決定するためにサーバー・ランタイムによって使用されることはなくなりました。これらは、いくつかの新しいアクセス・コントロール・テーブルに置き換えられています。詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『アクセス・コントロール』を参照してください。

- デフォルトの Commerce Suite 5.1 ブートストラップ・アクセス・コントロール・ポリシー (ACCCMDGRP テーブル) に加えられる変更は失われます。ただし、このテーブルに対して行われた追加は保存され、データ・マイグレーション・プロセスによって適宜 WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションされます。
- Commerce Suite 5.1 では、ACCCUSTEXC が、指定されたストア内での、指定された顧客コマンドの実行を阻止する除外テーブルです。WebSphere Commerce 5.4 は、より寛容なアクセス・コントロール・モデルに従っているため、緩いポリシーがメンバー階層の上位に存在しないように適切な注意を払ってください。
- WebSphere Commerce 5.4 での、アクセス・コントロールの 2 つのレベルは以下のとおりです。
 - コマンド・レベル (粗い)
ユーザーがコントローラー・コマンドまたはビューへのアクセスを持つかどうかを決定します。
 - リソース・レベル (細かい) – 役割ベースのアクセス・コントロールとしても知られます。
ユーザーが特定のリソースのインスタンスに対してアクションを実行できるかどうかを決定します。

以下の表では、Commerce Suite 5.1 アクセス・コントロールと WebSphere Commerce 5.4 アクセス・コントロールとの違いについて説明しています。主な違いは、Commerce Suite 5.1 はプログラムに基づいたリソース・レベル・アクセス・コントロールを使用するのに対し、WebSphere Commerce 5.4 はポリシーに基づいた

リソース・レベル・アクセス・コントロールを使用するということです。カスタマイズ・コードの障害を最小に抑えるため、WebSphere Commerce ランタイムは、現行では Commerce Suite 5.1 と WebSphere Commerce 5.4 の両方のアクセス・コントロール関連コマンド・メソッドを処理しています。ただし、どのカスタマイズ・コードも WebSphere Commerce 5.4 メソッドを使用するようにマイグレーションして、ポリシー・ベースのアクセス・コントロール・モデルを使用することを強くお勧めします。提供されているどのコマンドも、以下のアクセス・コントロール・モデルのいずれかを必ず使用しているなら、正しく機能するはずですが、

- validateParameters および getResources メソッドを使用する推奨 WebSphere Commerce 5.4 モデル。
- checkParameters、checkPermission、および getResourceOwners メソッドを使用する WebSphere Commerce Suite 5.1 モデル。

表 8. アクセス・コントロール・サブシステムの相違

アイテム	Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
アクセス・コントロール・モデル	<p>役割ベースのアクセス・コントロール</p> <p>Commerce Suite 5.1 では、コマンド・レベルのアクセス・コントロールは、ACCCMDGRP テーブルを使用してインプリメントされます。リソース・レベルのアクセス・コントロールは、ソース・コード内でプログラムに基づいて行われます。リソース・レベル・ポリシーを変更する場合は、ソース・コードを再コンパイルする必要があります。</p>	<p>ポリシー・ベースのアクセス・コントロール</p> <p>WebSphere Commerce 5.4 では、コマンド・レベルおよびリソース・レベルのアクセス・コントロールは、ACPOLICY テーブルを使用してインプリメントされます。ユーザーはソース・コードを再コンパイルせずにポリシーを変更できます。</p>
Databeans	方針に基づいて保護	<p>Delegator インターフェースを使用して直接および間接的に保護されます。databean がこのインターフェースをインプリメントしない場合は、だれでもこれにデータを移植できます。さらに、databean が Delegator インターフェースをインプリメントした場合でも、これが getDelgate メソッドで null を戻す場合は、だれでもこれにデータを移植できます。</p>
getResources()	N/A	<p>このコマンド・メソッドは、リソース・レベルのアクセス・コントロール・チェックを起動するために使用されます。</p> <p>これは、このコマンドによってアクセスされるすべての保護可能 1 次リソースを戻します。このコマンドによってアクセスされるリソースがない場合は、これはヌルを戻します。</p>

表 8. アクセス・コントロール・サブシステムの相違 (続き)

アイテム	Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
getResourceOwners()	<p>デフォルト動作:</p> <p>このコマンドに対し、requestProperties またはセッションで有効なストア ID パラメーターが定義されている場合に、ストアの所有者を戻します。</p> <p>使用可能なストア ID がない場合や、storeId が ECConstants.EC_NO_STOREID に設定されている場合は、EC_ACC_ALL_RESOURCES を戻します。</p>	<p>getResourceOwners() メソッドは、デフォルトで null を戻します。Commerce Suite 5.1 の動作をシミュレートするため、コマンド・レベルのアクセス・コントロール・チェックを実行するとき (つまり、コマンドが保護可能リソースとなるアクセス・チェックを実行するとき)、コマンド・フレームワークは getResourceOwners() から戻されたリソース所有者を使用します。さらにこれは、リソース所有者をコマンドの所有者として使用します。</p> <p>詳細については、100 ページの『getResourceOwners() の使用例』を参照してください。</p>
checkPermission()	<p>このメソッドは、細かいアクセス・コントロール・チェックを提供します。</p> <p>WebSphere Commerce Suite コマンド・フレームワークは、performExecute() メソッドの前にこのメソッドを呼び出します。</p> <p>管理コマンドが細かいアクセス・コントロールを持っていない場合は true を戻します。</p>	<p>checkPermission() メソッドは、下位互換性のために保持されていますが、アクセス・コントロールには使用するべきではありません。</p>
checkParameters()	<p>ここで、Commerce Suite 5.1 はパラメーターのチェックを実行します。デフォルトのインプリメンテーションでは、アクションは実行されません。</p> <p>ControllerCommandImpl および TaskCommandImpl の performExecute() は、checkParameters() を呼び出します。大半のコマンドは、checkParameters() を呼び出すために、その performExecute() の先頭行として super.performExecute() を呼び出します。</p>	<p>WebSphere Commerce 5.4 では、新しいアクセス・コントロール・モデルをサポートするために、このメソッドは validateParameters() に置き換えられています。デフォルトのインプリメンテーションでは、アクションは実行されません。下位互換性のため、ControllerCommandImpl および TaskCommandImpl の performExecute() は、checkParameters() を呼び出します。大半のコマンドは、正しいプログラム規則として super.performExecute() をその performExecute() の先頭行として呼び出します。このメソッド checkParameters() は、次のリリースでは使用できなくなります。</p>

表 8. アクセス・コントロール・サブシステムの相違 (続き)

アイテム	Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
ターゲットを指定できる コマンド	<p>メソッド呼び出しの順序は以下のとおりです。</p> <pre data-bbox="456 338 813 468"> { Command.checkPermission();... Command.performExecute();... Command.checkParameters(); } </pre>	<p>コマンドを WebSphere Commerce 5.4 アクセス・コントロール・モデルにマイグレーションする場合は、<code>validateParameters()</code> をインプリメントする必要があります。</p> <p>Commerce Suite 5.1 で <code>checkParameters()</code> を使用していた場合は、論理を <code>validateParameters()</code> に移し、コードから <code>checkParameters()</code> を除去します。</p> <p>メソッド呼び出しの順序は以下のとおりです。</p> <pre data-bbox="943 636 1341 972"> { Command.validateParameters(); Command.getResources(); Command.checkPermission(); // for backward compatibility only Command.performExecute(); Command.checkParameters(); // for backward compatibility only } </pre>
コントローラー・コマンドおよびビュー	<p>Commerce Suite 5.1 では、URLREG テーブル内で定義されていても、ACCCMDGRP テーブル内に対応するエントリのないコントローラー・コマンドは、アクセス・コントロールの対象になりません。そのため、それらは、ゲスト・ショッパーを含めたすべてのユーザーによってアクセス可能です。同様に、VIEWREG テーブル内で定義されていても ACCCMDGRP テーブル内に対応するエントリのないビューにも、すべてのユーザーがアクセスできます。</p> <p>注: ACCCMDGRP テーブル内で、<code>MbrGrp_Id = -2</code> (つまり Customer アクセス・グループへの割り当て) があるコントローラー・コマンドまたはビューにも、すべてのユーザーがアクセスできます。</p>	<p>WebSphere Commerce 5.4 では、アクセス・コントロール・モデルが変更されています。現在は、コントローラー・コマンドが、そのコマンドへのアクセスをすべてのユーザーに認可するアクセス・コントロール・ポリシーを明示的に持たない場合は、普通のユーザーがそのコマンドにアクセスすることはできず、サイト管理者だけがアクセスできます。同様に、ユーザーが URL からビューに直接アクセスする場合や、コマンドによってビューにリダイレクトする場合は、そのビューへのアクセスを認可する明示的なアクセス・コントロール・ポリシーが必要です。</p>

注:

1. Commerce Suite 5.1 から拡張されたコントローラー・コマンドを追加している場合、WebSphere Commerce 5.4 は、マイグレーション時にそれに対してコマンド・レベルのポリシーを追加するだけです。Commerce Suite コマンドが `getResources()` をインプリメントしている場合、それが戻すリソースを判別して、コマンドに適したリソース・レベルのポリシーを作成する必要があるか、または、リソース・レベルのアクセス・コントロールを必要としない場合は、コマンドがヌル値を戻すように `getResources()` でコマンドを指定変更する必要があるかのいずれかです。

WebSphere Commerce 5.4 コマンドがその `getResources()` に戻すものを判別するには、トレースを分析して `Action=WCBECommand` を探し、`getResources()` がチェックしているすべての保護可能リソースを見つけてください。上記のトレースでは、リソースは `Order` です。たとえば、`SERVER` トレースを使用可能にした場合のことを考慮してみましょう。ログ内には以下が示されています。

```
===== TimeStamp:    2001-11-16 02:42:30.937
Thread ID:    <Worker#3>
Component:    SERVER
Class:        AccManager
Method:        isAllowed
Trace:        isAllowed? User=10012; Action=com.fvt.ACCOrderItemAddCmd;
Protectable=com.ibm.commerce.order.objects._Order_Stub;
Owner=70000000000000002000resource is Groupable
```

```
=====
TimeStamp:    2001-11-16 02:42:30.984
Thread ID:    <Worker#3> Component:
SERVER Class: AccManager
Method:        isAllowed
Trace:        PASSED? =false
```

上記のトレースの意味は、リソース・レベルのポリシーが失敗したということです。この場合、`ACCOrderItemAddCmd` は、`getResources()` をインプリメントするサーバー `OrderItemAdd` コマンドから拡張されます。したがって、デフォルトでは、`ACCOrderItemAdd` も、それに対する `getResources()` がヌルを戻すように変更されていない限り、リソース・レベルのポリシーを必要とします。このリソース・レベルのポリシーは、マイグレーション時には、どの `WebSphere Commerce 5.4` コマンドを拡張するかが分からないので追加されません。

たいていの場合、コマンドはアクセス bean を `getResources()` メソッドで戻します。たとえば、`com.ibm.commerce.xyz.objects.XYZAccessBean` を `getResources()` で戻すと、トレースには `com.ibm.commerce.xyz.objects._XYZ_Stub` として表されます。この違いは、`WebSphere Commerce 5.4` がアクセス bean をそのリモート・インターフェースに狭めなければならないからです (これは実際に保護可能インターフェースに拡張する EJB のリモート・インターフェースであるため)。

2. `WebSphere Commerce Suite 5.1` では、リソース・レベルのアクセス・コントロールは、コマンド・ロジック内でプログラマチックに施行されていました。`WebSphere Commerce 5.4` では、リソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは外部的に指定されます。これはコマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーの指定方法と似ています。マイグレーション時に、コマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは `Commerce Suite 5.1` から `WebSphere Commerce 5.4` にマイグレーションされます。`Commerce Suite 5.1` のデフォルトのアクセス・コントロール・ポリシーのカスタマイズによって必要とされるどのリソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシー (`ACCCMDGRP` テーブルに保管される) も、手動で追加する必要があります。そうしない場合は、予期しないアクセス・コントロール違反例外を受け取ります。詳細については、161 ページの『付録 G. トラブルシューティング』の関連項目を参照してください。

getResourceOwners() の使用例

WebSphere Commerce Suite 5.1 コマンド

- デフォルト動作に依存するコマンド

これらのコマンドは、`getResourceOwners()` をインプリメントせず、デフォルトでは `null` を返します。

コマンド・レベルのアクセス・コントロール・チェックの実行時に、コマンド・フレームワークは、コマンド所有者としてストア所有者を返します。使用可能なストア ID がない場合、これは `EC_SITE_ORGANIZATION` を返します。

- `getResourceOwners()` メソッドをインプリメントするコマンド

コマンド・レベルのアクセス・チェックの実行時に、コマンド・フレームワークは、`getResourceOwners()` によって戻されるそれぞれのリソース所有者に対して、コマンドのアクセス・チェックを実行します。たとえば、

`getResourceOwners()` メソッドが組織 1 と組織 2 という 2 つの所有者を返す場合、コマンド・フレームワークは、まず組織 1 を所有者としてコマンドのアクセス・チェックを実行します。このチェックがパスすると、今度は組織 2 をコマンド所有者として使って、同じコマンドのチェックを再度実行します。この両方のチェックをパスしなければなりません。

新しい WebSphere Commerce 5.4 コマンド

- これらのコマンドは、`getResourceOwners()` をインプリメントせず、デフォルトでは `null` を返します。
- コマンド・レベルのアクセス・コントロール・チェックの実行時に、コマンド・フレームワークは、コマンド所有者としてストア所有者を返します。使用可能なストア ID がない場合、これは `EC_SITE_ORGANIZATION` を返します。

第 8 章 その他のマイグレーション考慮事項

この章では、注意を向け、必要に応じてアクションを取る必要がある、いくつかの WebSphere Commerce 5.4 のその他の領域について説明しています。

デフォルトの通貨の動作

顧客がショッピングで希望する通貨を選択できるようにするために、サポートされる支払通貨のリストを、ストア・ページ上に組み込むことができます。

- 顧客の希望する通貨がストアでサポートされている場合、その通貨がショッピング通貨になります。
- 希望通貨がサポートされていない場合に、顧客の希望する通貨を有効なカウンター値として持つ別の通貨があれば、その通貨がショッピング通貨として使用されます。
- 希望する通貨をカウンター値として持つ別の通貨がなければ、ストアのデフォルト通貨は、STOREENT テーブルの新しい SETCURR 列から決定されます。この設定は、顧客の言語 ID には依存していません。この動作は、WebSphere Commerce 5.4 で新しくなった点であることにご注意ください。
- STOREENT テーブルで指定されているデフォルト通貨が他になければ、ストアの顧客の言語 ID 用のデフォルト通貨が使用されます。この場合は、STORELANG データベース・テーブルが設定を決定します。

注:

1. 希望する通貨がないショッパーや、非サポートの希望する通貨 (サポートされている通貨用のカウンター値ではない) があるショッパーだけが、この変更の影響を受けます。ショッパーに、サポートされている希望する通貨がある場合は、どの言語を選択しているとしても、常にこの通貨が表示されます。
2. 以前の Commerce Suite 5.1 のデフォルト通貨を WebSphere Commerce 5.4 で保持する場合は、STOREENT テーブルにストアのデフォルト通貨を設定しないでください。新しい WebSphere Commerce 5.4 のデフォルト通貨をインプリメントするには、STOREENT テーブルにストアのデフォルトを設定します。Commerce Suite 5.1 の STORELANG テーブル・パラメーターを変更する必要はありません。したがって、マイグレーション済みのどのストアに新しいデフォルトの通貨の動作をインプリメントし、どのストアに以前の動作を保持するかを選択できます。
3. STORELANG テーブルの SETCURR 列は、将来使用されなくなる可能性があるため、ヌルに設定することをお勧めします。
4. STOREENT テーブル内のストアまたはストア・グループの SETCCURR 列を設定します。マイグレーションされたストアの場合は、最初はこれは当てはまりません。新しいストアはどれも、ストアまたはストア・グループのデフォルト通貨を設定する必要があります。

価格設定のための考慮事項

以下に示すのは、Commerce Suite 5.1 の価格設定用コマンドと置き換えられた、WebSphere Commerce 5.4 の新しいコマンドおよびメソッドです。

タスク・コマンド

- `GetBaseUnitPriceCmd` は置き換えられて、`GetContractUnitPriceCmd` になりました。
- `GetBaseSpecialPriceCmd` は置き換えられて、`GetContractSpecialPriceCmd` になりました。
- `GetProductContractUnitPriceCmd` は置き換えられて、`GetProductBaseUnitPriceCmd` になりました。

注: 下位互換性のため、Commerce Suite 5.1 コマンドは WebSphere Commerce 5.4 でも有効です。

データ bean

以下のデータ bean の場合、Commerce Suite 5.1 では、価格を検索するためにメソッド `getCalculatedPrice()` を使用することができました。WebSphere Commerce 5.4 では、これは新しいメソッド `getCalculatedContractPrice()` に置き換えられます。

- `ItemDataBean`
- `PackageDataBean`
- `ProductDataBean`
- `CatalogEntryDataBean`
- `InterestItemDataBean`
- `BundleDataBean`

注: 下位互換性のため、Commerce Suite 5.1 メソッドは WebSphere Commerce 5.4 でも有効です。

上記のコマンドまたはメソッドの詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

第 3 部 付録

付録 A. データベース・スキーマの拡張

1 つ以上の既存のテーブルを変更して標準の WebSphere Commerce Suite 5.1 データベース・スキーマを拡張した場合は、変更したそれぞれのテーブルのコピーを作成する必要があります。ここでは例として、INTEGER DEFAULT 0 と FRIEND が MBRGRP の外部鍵になっていて、標準の USERREG テーブルに FRIEND という列を追加したケースを考えてみましょう。新規の列および参照制約は、マイグレーション時に除去されます。

テーブルのバックアップを作成するには、以下のようにします。

1. Operations Navigator を立ち上げます。ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。

2. 以下の SQL ステートメントを入力します。

```
create table bac_userreg like userreg insert into bac_userreg
select * from userreg
```

3. データ・マイグレーションの後に、列をテーブルに追加して戻し、テーブルのバックアップ・コピーから、失われたデータを新規の列に置き換える必要があります。除去された制約を追加して戻す必要もあります。これを実行するには、以下の SQL ステートメントを (1 行で) 実行します。

```
ALTER TABLE USERREG ADD CONSTRAINT F_FRIEND FOREIGN KEY (FRIEND) REFERENCES
MBRGRP ON DELETE CASCADE
```

4. テーブルを調べて、標準の WebSphere Commerce スキーマ・テーブルを指す、何らかの新規テーブルからの制約を他に作成していないかどうか確認してください。そのような制約がある場合は、データ・マイグレーション・スクリプトを実行する前にこれを除去する必要があります。

注: これらの制約は、マイグレーションが完了した後、自分で作成し直す必要があります。

付録 B. マイグレーション・スクリプトの概要

このセクションでは、マイグレーション・スクリプトが何を実行し、どのような情報が組み込まれるのかについて説明しています。ユーザーが取るべきアクションはありません。

データベース・マイグレーション・スクリプトは、ユーザーが指定するディレクトリーにデータベースのバックアップ・コピーを作成してから、以下のサブシステムまたはコンポーネントをマイグレーションします。

- メンバー
- カタログ
- ATP 在庫
- オーダー・アイテム
- 契約
- キャンペーン
- アクセス・コントロール

メンバーのマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、メンバー・サブシステムに対して以下の更新を実行します。

- スクリプトは、MEMBER テーブルの状況を以下のように設定します。
 - スクリプトは、以下に対しては状況をヌル (状況なし) に設定します。
 - ゲスト・ユーザー (ユーザー登録タイプが G に設定されている)
 - メンバー・グループ
 - スクリプトは、以下に対しては状況を承認済み (1) に設定します。
 - 登録済みユーザー (ユーザー登録タイプが R に設定されている)
 - サイト管理者 (ユーザー登録タイプが S に設定されている)
 - 管理者 (ユーザー登録タイプが A に設定されている)
 - 組織エンティティー

MEMBER テーブルの状況には、以下のようなものがあります。

- 0** 承認保留中
- 1** 承認済み
- 2** 拒否済み

- MBRGRP テーブルの OWNER_ID 列が設定されていない (つまり値 0 が含まれている) 場合は、これを -2001 (Root Organization) に設定します。
- ユーザーのプロファイル・タイプを設定します。
 - Commerce Suite 5.1 でユーザー・タイプ S または A (Site Administrator または Administrator 役割) として登録されているユーザーに対しては、スクリプトは PROFILETYPE を B に設定します。

- Commerce Suite 5.1 でビジネス・プロフィールを持つ (つまり、BUSPROF テーブルが設定されている) ユーザーと、ヌルの PROFILETYPE を持つユーザーに対しては、スクリプトはこれらを B2B ユーザーと見なすため、PROFILETYPE を B に設定します。

たとえば、ユーザーの PROFILETYPE が C (B2C ユーザー) に設定されている場合は、スクリプトはプロフィール・タイプをリセットしません。

- MBRGRP テーブルをチェックします。

MBRGRPUSG テーブルに AccessGroup の MBRGRPTYPE_ID がある場合、以下の場合を除いて、スクリプトは対応する役割を ROLE テーブル内に作成します。

- MBRGRPTYPE_ID が -2 (CustomerGroup) に設定されている場合 (WebSphere Commerce 5.4 では顧客グループは役割ではないため)。
- Commerce Suite 5.1 で Order Clerk 役割が使用されている場合、 WebSphere Commerce 5.4 では、マイグレーション・スクリプトはこれをユーザー定義の役割にマイグレーションします。

スクリプトは、WebSphere Commerce 5.4 の ROLE テーブル内のすべての役割を MBRROLE テーブルに移動し、 MEMBER_ID を値 -2001 (Root Organization) に設定します。ルート組織はこれらのすべての役割にアクセスできます。

- ORGENTITY テーブルをチェックし、MEMBER_ID がヌルの場合、親 MEMBER_ID を -2001 (Root Organization) に設定します。
- ユーザー登録タイプが S であるすべてのユーザーをチェックします。スクリプトは以下を行います。
 - MBRROLE テーブル内に、Site Administrator 役割が -1 に設定されたエントリーを作成します。
 - すべての親および先祖に同じ役割が割り当てられるようにします。
 - ユーザーの登録タイプが A である場合、スクリプトはそれらを明示的に管理者グループ (管理者グループに関連付けられたいくつかの事前定義役割がある) にマイグレーションします。
 - MBRGRPMBR テーブル内に、新規管理グループを指す MBRGRP_ID があるエントリーを作成します。
- ACCMBRGRP テーブル内の各レコードに対して、スクリプトは以下を行います。
 - MBRROLE テーブルにレコードを追加します。
 - 管理者が属する親の組織エンティティー用の MBRROLE テーブルに、追加レコードを追加します。 OWNER_ID が 0 の場合、スクリプトはこれを -2001 に設定します。
- MBRREL テーブルを作成します。ただしこれは、登録済みユーザーに対してのみ作成し、 ORGENTITY テーブル内の MEMBER_ID が 0 (ゼロ) に設定されているゲスト・ユーザーに対しては作成しません。
- SQL ステートメントを生成して、ORGENTITY テーブルの DN を充てんします。スクリプトは fillorgDN.sql というファイルを生成します。 ORGENTITY テーブルを更新するには、このテーブルの DN (識別名) 列を手動で更新するか、またはこのファイルを使用します。詳細については、54 ページの『識別名の更新』を参照してください。

カタログのマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、カタログ・サブシステムに対して以下の更新を実行します。

- 親を持たないアイテムに対して親商品を作成します。
 - これはその商品タイプの CATENTRY テーブル・エントリーを作成し、そのアイテムの CATENTRY からそのエントリーの値をコピーします。
 - CATENTDESC テーブル・エントリー (カタログ・エントリーの説明) を作成します。
 - CATENTREL テーブル・エントリー (商品とアイテムとの関係) を作成します。
- 商品とアイテムのフルフィルメント・エントリーを作成します。
 - 各商品に対して BASEITEM、BASEITEMDSC、ITEMVERSN、および STOREITEM テーブル・エントリーを作成します。
 - 各アイテムに対して ITEMSPC および VERSIONSPC テーブル・エントリーを作成します。
- パッケージのフルフィルメント・エントリーを作成します。
 - 各パッケージに対して BASEITEM、BASEITEMDSC、ITEMVERSN、および STOREITEM テーブル・エントリーを作成します。
 - 各パッケージに対して ITEMSPC および VERSIONSPC テーブル・エントリーを作成します。

ATP 在庫のマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、在庫サブシステムに対して以下の更新を実行します。

- 新しい ATP 在庫表記にマイグレーションすることを選択した場合、スクリプトは ALLOCATIONGOODFOR を 43200 の値に更新して、ATP サポートを使用可能にします。

新しい ATP 在庫表記にマイグレーションしないことを選択した場合、スクリプトは、ALLOCATIONGOODFOR を値 0 に更新して ATP 在庫のマイグレーションを延期し、INVENTORY テーブルを使用して、Commerce Suite 5.1 と同様の方法での在庫のトラッキングを継続します。

この値の意味を理解するには、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプにある STORE テーブル用のデータベース・スキーマの資料を参照してください。非ゼロ値があれば、ATP 在庫は使用可能になります。

- 各商品ごとに DISTARRANG テーブル用のエントリーを作成します。これは、ENDDATE に大きな値 (59 年) を、および STARTDATE に現在日付を指定します。
- 各アイテムごとに、ITEMFFMCTR、RADETAIL、RECEIPT、および RCTAVAIL テーブル用のエントリーを作成します。
- 各パッケージごとに、ITEMFFMCTR、DISTARRANG、RADETAIL、RECEIPT、RCTAVAIL テーブル用のエントリーを作成します。

オーダー・アイテムのマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、状況が P、I、または M であるすべてのオーダーをチェックします。

- これらのオーダーの下にあるすべてのオーダー・アイテムを検索します。
- ORDERITEMS テーブルの CATENTRY_ID に応じて ITEMSPC フィールドを埋めます。
- ストアのデフォルト契約を使用するすべてのオーダー・アイテムの TRADING_ID フィールドを埋めます。
- すべてのオーダーとオーダー・アイテムで、状況が C のものを状況 S に変換するスクリプトを生成します。

配送計算コード

Commerce Suite 5.1 では、配送計算コードは、異なる配送先住所を持つオーダー・アイテムのグループごとに別個に計算されていました。つまり、配送計算コードでは、配送先住所別にオーダー・アイテムがグループ化されていました。現在では、配送先住所別のグループ化は、オプションの動作になっています。下位互換性動作を保証するため、マイグレーション・スクリプトは、すべての配送計算コード (CALCODE.CALUSAGE_ID = -2) 用の CALCODE.GROUPBY 列に perAddress フラグを設定します。

支払いのマイグレーション

各 CMDREG エントリーごとに、マイグレーション・スクリプトは DoCancelPMCmdImpl を DoCancelCmdImpl に変更します。追加情報については、20 ページの『DoCancelCmd の CMDREG エントリーの変更』を参照してください。

割引データのマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、Commerce Suite 5.1 の Commerce Accelerator ツールによって作成された割引データが存在しているかどうかを判別します。割引サブシステムに対して以下を行います。

- スクリプトは、Commerce Suite 5.1 Commerce Accelerator 以外のツールで割引データが作成されたと検出した場合は、その割引データを現状のまま残しておきます。これは、その割引データを WebSphere Commerce 5.4 レベルにマイグレーションすることはありません。この場合、その割引データにアクセスして表示するには、Commerce Suite 5.1 で使用したものと同一ツールとメソッドを使用する必要があります。
- スクリプトは、Commerce Accelerator ツールで割引データが作成されたと検出した場合は、CALCODE および CALCODEMGP テーブル内のその割引データを、WebSphere Commerce 5.4 で必要とされる割引データにマイグレーションします。
- 以前の割引データがマイグレーションされていたら、それを削除します。マイグレーションされない割引データは、現状のまま残ります。

契約のマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、契約サブシステムに対して以下の更新を実行します。

- Commerce Suite 5.1 でストアのデフォルト契約を使用していなかった場合は、WebSphere Commerce 5.4 では、スクリプトは必要に応じてストアのデフォルト契約を作成します。

Commerce Suite 5.1 で、ストアのデフォルト契約を使用していた場合は、スクリプトは、ご使用のストアのデフォルト契約を、WebSphere Commerce 5.4 ストアのデフォルト契約にマイグレーションします。これは、メンバー・グループ価格設定が使用できない場合は、セラー参加者と契約レベル参加者を作成します。各 TRADEPOSCN エントリーごとに、FLAGS 列がゼロに設定されている場合には、標準価格契約条件を作成します。FLAGS 列が非ゼロの場合、スクリプトはカスタム価格契約条件を作成します。

- 各 MGPTRDPCSN エントリーごとに、取引位置コンテナ・レベルのバイヤー参加者を作成します。MBRGRP_ID がゼロの場合は、バイヤー参加者 MEMBER_ID がヌルに設定され、すべてのバイヤーに資格があることを示します。
- 各カスタム価格契約条件ごとに、スクリプトは以下を行います。
 - カスタム価格表に対して、対応するカスタム商品セットを作成します。
 - 価格表からのデータを使用して、商品セット内にデータを取り込みます。
- 複数の契約がある場合、スクリプトは、STOREDEF.CONTRACT_ID に適切な値を設定することによって、1 つだけがデフォルト契約として活動化されるようにします。
- 各契約ごとに TRADING テーブルにエントリーを作成します。
- 新しい STORECNTR テーブルにエントリーを追加します。

デフォルト契約

WebSphere Commerce 5.4 では、契約サポートを提供する条件が導入されています。マイグレーション・プロセスでは、WebSphere Commerce Suite 5.1 ビジネス・フロー（たとえば配送料用）と同様の動作および特性を持つ、ご使用のシステムに対するデフォルトの契約が作成されます。

デフォルト契約は自動的に作成されるので、通常は、マイグレーション・プロセス中にユーザーがアクションを取る必要はありません。ビジネス・プロセスのために追加契約を作成する必要がある場合は、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後に、WebSphere Commerce Accelerator を使用してそれを行います。WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『新規契約の作成』のセクションを参照してください。

データベース・マイグレーション・スクリプトは、WebSphere Commerce 5.4 デフォルト契約用の以下の項目を作成します。

- マイグレーションされたストア用のポリシー (POLICY テーブル) およびポリシーの説明 (POLICYDESC テーブル)
 - マスター・カタログ用の標準価格ポリシー (ストアごと) — Mastercatalog TC。

- 「セラーごとに配送料を課金」ポリシー (POLICY_ID=-7001 ブートストラップ・データ)
- 「運送会社ごとに配送料を課金」ポリシー (POLICY_ID=-7002 ブートストラップ・データ)
- 返品課金ポリシー — 日ごとの少額の課金 (ストアにつき 1 つずつ作成)
- 返品承認ポリシー — 日ごとの承認 (ストアにつき 1 つずつ作成)

さらに、スクリプトは、返品課金と返品承認用の 4 つのポリシー・コマンドを作成します (ストアごと)。

マイグレーション・スクリプトは、ユーザーがオリジナルの支払ポリシー (policy_id=-2001 ブートストラップ・データ) を使用することを想定しているため、それを作成しません。

- ストアのデフォルト契約用に作成された条件 — 1 つの配送 TC (契約ごと)
新しい JavaServer ページを作成する必要なくストアを稼働できるようにするために、返品およびリファンド条件は作成されません。
返品およびリファンドの詳細情報は、各ストアに固有で、WebSphere Commerce 5.4 での新規事項です。このフィーチャーをデプロイする必要がある場合は、ご使用のストア用の新しい契約条件を作成する必要があります。 WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプの『新規契約の作成』のセクションを参照してください。
- 契約参加者
 - セラー参加者
 - 1 人以上のバイヤー参加者 (MGPTRDPSCN に応じる)
 - 1 人の契約レベル・バイヤー参加者

キャンペーンのマイグレーション

マイグレーション・スクリプトは、キャンペーン・イニシアチブ、e-マーケティング・スポット、および顧客プロファイルを WebSphere Commerce 5.4 の形式にマイグレーションします。 SEGMENT テーブルに保管されていた顧客プロファイルは、MBRGRP テーブルに移動されます。キャンペーン・イニシアチブ規則は、BZRPENTSTG テーブルから抽出され、INITIATIVE テーブルの RULE 列に保管されます。各条件は別個のイニシアチブとして保管されます。 e-マーケティング・スポットは、MPE テーブルから EMSPOT テーブルに移動されます。キャンペーン・イニシアチブのスケジューリングは、INTVSCHED テーブルに移動されます。

アクセス・コントロールのマイグレーション

アクセス・コントロールのマイグレーションには、以下のコンポーネントのマイグレーションが含まれます。

- Commerce Suite 5.1 ACCMBRGP テーブルから WebSphere Commerce 5.4 MBRROLE テーブルへのマイグレーション。
- Commerce Suite 5.1 ACCCMDGRP テーブルから WebSphere Commerce 5.4 ACPOLICY テーブルへのマイグレーション。

- Commerce Suite 5.1 ACCCUSTEXC テーブルから WebSphere Commerce 5.4 ACPOLICY テーブルへのマイグレーション。
- Commerce Suite 5.1 の Order Clerk アクセス・グループのマイグレーション (必要に応じて)。

詳細は以下のとおりです。

1. Commerce Suite 5.1 では、ユーザーは、ACCMBRGRP テーブル内でさまざまなアクセス・グループ (メンバー・グループ・タイプが AccessGroup に設定されたメンバー・グループ) に割り当てられることによってアクセス特権を与えられます。WebSphere Commerce 5.4 でも、アクセス・コントロール・ポリシーは部分的にアクセス・グループに基づいています。ただし、ユーザーは、アクセス・グループに直接割り当てられる代わりに、MBRROLE テーブル内で役割に割り当てられます。たいていのブートストラップ・アクセス・グループは、暗黙的に役割割り当てを参照します。たとえば、Sellers アクセス・グループには、MBRROLE テーブルで Seller 役割が割り当てられているすべての人が含まれます。

以下の表では、Commerce Suite 5.1 のアクセス・グループを、WebSphere Commerce 5.4 役割および WebSphere Commerce 5.4 アクセス・グループにマップしています。

表9.

Commerce Suite 5.1 アクセス・グループ	WebSphere Commerce 5.4 役割	WebSphere Commerce 5.4 アクセス・グループ
Site Administrator (-1)	Site Administrator (-1)	SiteAdministrators (-1)
Customer (-2)	AllUsers アクセス・グループには暗黙的にすべての人が含まれるので、役割としては不要。	AllUsers (-2)
Customer Service Representative (-3)	Customer Service Representative (-3)	CustomerServiceRepresentatives (-3)
Merchant (-4)	Seller (-4)	Sellers (-4)
Order Clerk (-5)	ブートストラップでは使用されない	ブートストラップでは使用されない
Store Administrator (-6)	Store Administrator (-6)	StoreAdministrators (-6)
Store Developer (-7)	Store Developer (-7)	StoreDevelopers (-7)
Merchandising Manager (-8)	Product Manager (-8)	ProductManagers (-8)
Marketing Manager (-9)	Marketing Manager (-9)	MarketingManagers (-9)

注: 通常、役割の名前は単数形で、アクセス・グループの名前は複数形です。

ACCMBRGRP テーブル内のエントリーは、Commerce Suite 5.1 アクセス・グループ ID から WebSphere Commerce 5.4 役割 ID への上記のマッピングを使用して、MBRROLE テーブルにマイグレーションされます。Commerce Suite 5.1 システムでアクセス・グループを作成した場合、データ・マイグレーション・スクリプトは、そのアクセス・グループと同じ名前を持つ、対応する役割を作成しません。

2. データ・マイグレーション・スクリプトは、Commerce Suite 5.1 ACCCMDGRP テーブルに追加したすべてのエントリーを、WebSphere Commerce 5.4 ACPOLICY テーブルに適切にマイグレーションします。エントリーがブートストラップ・アクセス・グループを参照していた場合、スクリプトは既存の WebSphere Commerce 5.4 ブートストラップ・アクセス・コントロール・ポリシーを更新し

て、コマンドまたはビューを組み込みます。エントリーが、Commerce Suite 5.1 で作成したアクセス・グループを参照している場合、マイグレーション・スクリプトは新しいポリシーを、適切なコンポーネント (Action、ActionDescription、ActionGroup、ResourceCategory、ResourceGroup など) と共に作成します。

3. Commerce Suite 5.1 ACCCUSTEXC テーブルのマイグレーションには、以下の適切な AllUsers テンプレート・アクセス・コントロール・ポリシーのオーバーライドが含まれます。
 - 特定の組織エンティティのコントローラー・コマンドの除外用の AllUsersExecuteAllUserCmdResourceGroup_TemplatePolicy。
 - 特定の組織エンティティのビューの除外用の AllUsersExecuteAllUsersViews_TemplatePolicy。

それから、スクリプトは、どのコマンドおよびビューが、この組織エンティティが所有するストアにアクセスできないかに応じて、この組織エンティティ用の適切な AllUsers ポリシーを作成します。

4. WebSphere Commerce 5.4 では、Order Clerk 役割は使用されません。そのため、WebSphere Commerce 5.4 ブートストラップ・アクセス・コントロール・ポリシーは、この役割を参照しません。ただし、顧客がこの役割によってアクセスされるいくつかのカスタマイズされたコントローラー・コマンドまたはビューを追加している場合は、スクリプトは ACPOLICY テーブル内に適切なアクセス・コントロール・ポリシーを作成します。

付録 C. 後からの ATP インベントリーへの変換

WebSphere Commerce 5.4 にデータベース・マイグレーション・スクリプトを使用してマイグレーションする場合、インベントリー・データは、デフォルトでは、WebSphere Commerce 5.4 によってサポートされる新規の ATP インベントリー表記に変換されます。インベントリー・データを、マイグレーション・スクリプトの `noatp` オプションを指定して変換しないことにした場合、以降のセクションで説明しているとおりに、後で `migrateATP` スクリプトを実行することによって、ATP に変換することができます。

ユーザーが ATP オプションを使用してマイグレーションすることを選択するかどうかにかかわらず、マイグレーション・スクリプトは、`PRODUCT` および `ITEM` エントリーの場合、以下のテーブルをユーザーに代わってセットアップします。

- `BASEITEM`
- `ITEMSPC`
- `ITEMVERSN`
- `STOREITEM`
- `VERSIONSPC`

このセットアップは、マイグレーション時に一度だけ実行されることに注意してください。新規の `PRODUCT` および `ITEM` エントリーをデータベース・マイグレーション・スクリプト (`migratedb`) を実行した後に追加する場合は、`migrateATP` スクリプトを実行する前に、上記のテーブルが、マイグレーション・スクリプトの実行以降に追加されたすべての新規の `PRODUCT` および `ITEM` エントリーに対して適切にセットアップされていることを確認する必要があります。WebSphere Commerce 5.4 ツールを使用して新しい商品およびアイテムを追加する場合、エントリーはユーザーに対して適切にセットアップされます。

Mass Loader (`massload.xml`) を使用して `ITEM` および `PRODUCT` エントリーを取り込む場合は、それらのテーブル (`BASEITEM`、`ITEMSPC`、`ITEMVERSN`、`VERSIONSPC`、および `STOREITEM`) も、スクリプトの実行前にセットアップする必要があります。Mass Loader の使用方法については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプから、ローダーの使用についての情報と、それらのテーブルの説明を参照してください。

The `migrateATP` クラスは、以下のテーブルにエントリーを作成します。

- これは、商品ごとに `DISTARRANG` を作成します。これは、`ENDDATE` に大きな値 (59 年) を、また `STARTDATE` に現行日を指定します。
- これは、アイテムごとに `RADETAIL`、`RECEIPT`、`RCTAVAIL`、および `ITEMFFMCTR` を作成します。
- これは、パッケージごとに `DISTARRANG`、`RADETAIL`、`RECEIPT`、`RCTAVAIL`、および `ITEMFFMCTR` を作成します。(これを各親が親商品で、各アイテムが子アイテムであるかのように扱います。)

さらに、これは以下を行います。

- ストアのデフォルト契約を使用するすべてのオーダー・アイテムの TRADING_ID フィールドを埋めます。
- すべてのオーダーとオーダー・アイテムで、状況が C のものを状況 S に変換するスクリプトを生成します。

以下の手順で ATP インベントリーに変換します。

1. `instance_root/temp` ディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
RUNJAVA CLASS(com.ibm.commerce.migration.tool.migrateATP)
  PARM(database_name
        instance_name
        logon_password>)
  CLASSPATH('QIBM/ProdData/WebCommerce/properties:
            /QIBM/ProdData/WebCommerce/lib/wcsmigration.jar')
```

出力からエラーがないかを調べます。 F6 を押して Java 出力をスプール・ファイルに出力し、後で見ることできます。

3. Operations Navigator を立ち上げます。 ix ページの『データベース・スクリプトの実行』を参照してください。
4. 以下の SQL スクリプトを実行します。

```
/QIBM/ProdData/WebCommerce/schema/db2/migration/updatekeys.sql
```


付録 D. データベース・スキーマの変更点

この付録は、Commerce Suite 5.1 と WebSphere Commerce 5.4 との間のデータベース・スキーマの変更点を要約しています。このリリースで導入されている新しいテーブルについては、*IBM WebSphere Commerce 新着情報 バージョン 5.4* を参照してください。

データベース・テーブルの使用法と説明の詳細については、*WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプのデータベース・テーブルの説明*を参照してください。

注: すべての 1 次鍵索引名、ユニーク鍵索引名、および外部鍵索引制約名は、Commerce Suite 5.1 に関連して変更されており、この表にはリストされていません。WebSphere Commerce 5.4 では、1 次鍵索引名とユニーク鍵索引名は、システムによって生成されます。また、外部鍵制約は名前変更されています。例として、CALMETHOD テーブルについて、その変更点を以下の表に要約します。

表 10. CALMETHOD データベース・テーブル

アイテム	Commerce Suite 5.1 名	WebSphere Commerce 5.4 システム生成名
1 次鍵索引	P_CALMETHOD	SQL010926024834880
ユニーク鍵索引	UI_CALMETHOD	I0000055
外部鍵制約	F_CALMETHOD1	F_164
	F_CALMETHOD2	F_163

データベース・スキーマの変更点

以下の表は、Commerce Suite 5.1 スキーマに加えられた主な変更点のリストです。

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
A				
		ACACGPDESC		新規テーブル
		ACACTACTGP		新規テーブル
		ACACTDESC		新規テーブル
		ACACTGRP		新規テーブル
		ACACTION		新規テーブル
		ACATTR		新規テーブル
		ACATTRDESC		新規テーブル
ACCCMDGRP				除去された テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
ACCCMDTYPE				除去された テーブル
ACCCUSTEXC				除去された テーブル
		ACCLOGMAIN		新規テーブル
		ACCLOGSUB		新規テーブル
ACCMBRGRP				除去された テーブル
		ACCOUNT		新規テーブル
		ACORGPOL		新規テーブル
		ACPOLDESC		新規テーブル
		ACPOLICY		新規テーブル
		ACRELATION		新規テーブル
		ACRELDISC		新規テーブル
		ACRELGRP		新規テーブル
		ACRESACT		新規テーブル
		ACRESATREL		新規テーブル
		ACRESCGRY		新規テーブル
		ACRESGPDES		新規テーブル
		ACRESGPRES		新規テーブル
		ACRESGRP		新規テーブル
		ACRESMEMRL		新規テーブル
		ACRESPRIM		新規テーブル
		ACRESREL		新規テーブル
		ACRLGPDESC		新規テーブル
		APRVSTATUS		新規テーブル
		ATTACHMENT		新規テーブル
		ATTACHUSG		新規テーブル
ATTRIBUTE		ATTRIBUTE	USAGE	新規列
ATTRVALUE		ATTRVALUE	OPERATOR_ID	新規列
		AUCPAYINFO		新規テーブル
AUCTION		AUCTION	AUCMODE	新規列
			AUCPAYINFO_ID	
			DURLENGTH	
			INVRSRVID	
			PRICELIMIT	
			QUANTLIMIT	

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント	
テーブル	列名	テーブル	列名		
AUCTIONLOG		AUCTIONLOG	AUCMODE	新規列	
			AUCPAYINFO_ID		
			DURLENGTH		
			INVRSRVID		
			PRICELIMIT		
			QUANTLIMIT		
AUTOBID		AUTOBID	AUCPAYINFO_ID	新規列	
AUTOBIDLOG		AUTOBIDLOG	AUCPAYINFO_ID	新規列	
B					
		BASEITEM		新規テーブル	
		BASEITMDSC		新規テーブル	
BID		BID	AUCPAYINFO_ID	新規列	
			BIDMODE		
			INITPRICE		
			LIMITPRICE		
BIDLOG		BIDLOG	AUCPAYINFO_ID	新規列	
			BIDMODE		
			INITPRICE		
			LIMITPRICE		
BIDPAYMENT		BIDPAYMENT	AUCPAYINFO_ID	新規列	
			BKORDALLOC		新規テーブル
			BKORDITEM		新規テーブル
BUSPROF		BUSPROF	REQUISITIONERID	新規列	
			BUYERPO		新規テーブル
			BUYERPOTYP		新規テーブル
			BUYSUPMAP		新規テーブル
			BUYSUPSEC		新規テーブル
			BZSRVCFG		新規テーブル
			BZSVCCFG		新規テーブル
			BZSVCSTA		新規テーブル
C					
CACHLOG	CASHASHVALUE	CACHLOG	CASHASHVALUE	変更された列	
	データ・タイプ: VARCHAR(64)		データ・タイプ: VARCHAR(254)		

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
CALCODE	CODE	CALCODE	CODE	変更された列
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
			DESCRIPTION	新規列
			DISPLAYLEVEL	
			ENDDATE	
			FLAGS	
			PRECEDENCE	
	STARTDATE			
		CALCODEMGP		新規テーブル
CALRANGE		CALRANGE	MARKFORDELETE	新規列
CAMPAIGN	ENDDATE	CAMPAIGN		除去された列
	LASTDEPLOY			
	LASTDEPLOYEDBY			
	MATYPE_ID			
	STARTDATE			
	USERSTATUS			
			STATUS	新規列
			TYPE	
		CATALOGDESC		新規ビュー
CATALO		CATALO	TPCLEVEL	新規列
		CATALOGDESC		新規ビュー
		CATCLSFCOD		新規テーブル
		CATCONFINF		新規テーブル
CATEGORY				除去された テーブル
		CATEGORYREL		新規ビュー
CATENCALCD		CATENCALCD	TRADING_ID	新規列
	CONTRACT_ID			除去された列
CATENTDESC		CATENTDESC	KEYWORD	新規列
CATENTRY		CATENTRY	BASEITEM_ID	新規列
			ITEMSPC_ID	
			STATE	
CATGPCALCD		CATGPCALCD	TRADING_ID	新規列
	CONTRACT_ID			除去された列
CATGPENREL		CATGPENREL	LASTUPDATE	新規列
CATGRPATTR		CATGRPATTR	SEQUENCE	新規列
CATGRPDESC		CATGRPDESC	KEYWORD	新規列
			CATGRPPS	

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
CATGRPREL		CATGRPREL	LASTUPDATE	新規列
		CATGRPTPC		新規テーブル
		CATPRDREL		新規ビュー
CATTOGRP		CATTOGRP	LASTUPDATE	新規列
			SEQUENCE	
		CHARGETYPE		新規テーブル
		CHKARRANG		新規テーブル
		CHKCMD		新規テーブル
		CHRGTYPDSC		新規テーブル
CLEANCONF		CLASIFCODE		新規テーブル
	CONDITION	CLEANCONF		除去された列
	TABNAME			
			OBJECTNAME	新規列
			SEQUENCE	
			STATEMENT	
	TYPE		TYPE	変更された列
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
	PK: No		PK: Yes	
	NAMEARGg		NAMEARG	
ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL		
DAYSARG		DAYSARG		
ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL		
		CLSFCODEDS		新規テーブル
CMPGNINTV				除去された テーブル
CMPGNRV				除去された テーブル
		CNTRDISPLY		新規テーブル
		CNTRNAME		新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
CONTRACT		CONTRACT	COMMENTS	新規列
			MAJORVERSION	
			MARKFORDELETE	
			MINORVERSION	
			ORIGIN	
			TIMEACTIVATED	
			TIMEAPPROVED	
			TIMECREATED	
			TIMEDEPLOYED	
			TIMEUPDATED	
	USAGE			
	STORE_ID			除去された列
	NAME		NAME	変更された列
	データ・タイプ: VARCHAR(254)		データ・タイプ: VARCHAR(200)	
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
	MEMBER_ID		MEMBER_ID	
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
CPENDORDER	MEMBER_ID	CPENDORDER	MEMBER_ID	変更された列
	PK: No		PK: Yes	
CPGNLOG	INITIATIVE_ID	CPGNLOG	INITIATIVE_ID	変更された列
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
	PK: No		PK: Yes	
		CPITMAP		新規テーブル
		CPOFFER		新規テーブル
		CPPMN		新規テーブル
		CPPMNDESC		新規テーブル
		CPPMNDISC		新規テーブル
		CPPMNORD		新規テーブル
		CPPMNPROD		新規テーブル
		CPPMNVAL		新規テーブル
		CPWALLET		新規テーブル
		CREDITLINE		新規テーブル
CURFMTDESC		CURFMTDESC	NUMBRUSG_ID	新規列

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
CURFORMAT		CURFORMAT	NUMBRUSG_ID MINAPPROVEAMOUNT	新規列
D				
DISPCGPREL		DISPCGPREL	LANGUAGE_ID	新規列
DISPENTREL		DISPENTREL	LANGUAGE_ID	新規列
		DISTARRANG		新規テーブル
E				
		EMSPOT		新規テーブル
		ENUMDESC		新規テーブル
F				
FFMCENTER		FFMCENTER	DEFAULTSHIPOFFSET MARKFORDELET	新規列
		FLCOMPOSE		新規テーブル
		FLDOMNDESC		新規テーブル
		FLINSTANCE		新規テーブル
		FLOW		新規テーブル
		FLOWADMIN		新規テーブル
		FLOWDESC		新規テーブル
		FLOWDOMAIN		新規テーブル
		FLOWTYPE		新規テーブル
		FLSTATEDCT		新規テーブル
		FLSTATEGP		新規テーブル
		FLSTATEREL		新規テーブル
		FLSTDCTDSC		新規テーブル
		FLSTGPDSC		新規テーブル
		FLTRANSDSC		新規テーブル
		FLTRANSITN		新規テーブル
		FLTYPEDESC		新規テーブル
H				
		HISTOATTR		新規テーブル
		HISTOFREQ		新規テーブル
		HISTONVP		新規テーブル
I				
ICEXPLDESC	NAME	ICEXPLDESC	NAME	変更された列
	データ・タイプ: VARCHAR(64)		データ・タイプ: VARCHAR(254)	

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
ICEXPLFEAT	COLUMNNAME データ・タイプ: CHAR	ICEXPLFEAT	COLUMNNAME データ・タイプ: VARCHAR(254)	変更された列
INITIATIVE		INITIATIVE	CAMPAIGN_ID RESULTTYPE RULE SELLTYPE STATUS TYPE	新規列
	DEPLOYABLE ENDDATE LASTDEPLOY LASTDEPLOYEDBY MATYPE_ID PROFILE RULEVALUE_ID STARTDATE USERSTATUS			除去された列
INTVMP				除去された テーブル
		INTVSCHED		新規テーブル
INTVSGMT				除去された テーブル
		INVADJCODE		新規テーブル
		INVADJDESC		新規テーブル
		INVADJUST		新規テーブル
		INVOICE		新規テーブル
		INVRESERVE		新規テーブル
		INVRSRVDSC		新規テーブル
		INVRSRVTYP		新規テーブル
		ITEMFFMCTR		新規テーブル
		ITEMSPC		新規テーブル
		ITEMTYPE		新規テーブル
		ITEMVERSN		新規テーブル
J				
JURST		JURST	MARKFORDELETE	新規列
JURSTGROUP		JURSTGROUP	MARKFORDELETE	新規列
L				
LANGUAGE		LANGUAGE	MIMECHARSET	新規列

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
		LMEVENTMAP		新規テーブル
		LMSERVER		新規テーブル
		LPPOPURAMT		新規テーブル
M				
MAFAMILY				除去された テーブル
		MANIFEST		新規テーブル
MATYPE				除去された テーブル
		MBRATTR		新規テーブル
		MBRATTRVAL		新規テーブル
MBRGRP		MBRGRP	LASTUPDATE	新規列
			LASTUPDATEDBY	
		MBRGRPCOND		新規テーブル
MBRGRPMBR		MBRGRPMBR	EXCLUDE	新規列
MBRGRPTYPE		MBRGRPTYPE	PROPERTIES	新規列
		MBRREL		新規テーブル
		MBRROLE		新規テーブル
MEMBER		MEMBER	STATE	新規列
		MLTIME		新規テーブル
MPE				除去された テーブル
MPETYPE				除去された テーブル
N				
		NUMBRUSG		新規テーブル
		NUMBRUSGDS		新規テーブル
O				
OFFER	IDENTIFIER	OFFER	IDENTIFIER	変更された列
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL	
		OICOMPLIST		新規テーブル
		OPERATOR		新規テーブル
		OPERATRDSC		新規テーブル
		ORCPMAP		新規テーブル
ORDADJUST		ORDADJUST	DISPLAYLEVEL	新規列
		ORDCALCD		新規テーブル
		ORDCHNLTYP		新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
ORDERITEMS		ORDERITEMS	ALLOCADDRESS_ID	新規列
			ALLOCATIONGROUP	
			ALLOCFPMC_ID	
			ALLOCQUANTITY	
			CONFIGURATIONID	
			CORRELATIONGROUP	
			ESTAVAILTIME	
			FULFILLMENTSTATUS	
			INVENTORYSTATUS	
			ITEMSPC_ID	
			LASTALLOCUPDATE	
			LINEITEMTYPE	
			NEEDEDQUANTITY	
			ORDRELEASENUM	
			OUTPUTQ_ID	
			PROMISEDAVAILTIME	
			SHIPPINGOFFSET	
			TERMCOND_ID	
			TIMERELEASED	
			TIMESHIPPED	
	TRADING_ID			
	CONTRACT_ID			除去された列
		ORDERMSG		新規テーブル
ORDERS		ORDERS	ORDCHNLTY_ID	新規列
			ORGENITY_ID	
			PROVIDERORDERNUM	
			SHIPASCOMPLETE	
ORDICALCD		ORDICALCD	CALFLAGS	新規列
			CALPARMAMT	
			CALPARMTYPE	
			ORDICALCD_ID	
			CALCODE_ID	
	PK: Yes		PK: No	
	ORDERITEMS_ID		ORDERITEMS_ID	
	PK: Yes		PK: No	
		ORDIMEEXTN		新規テーブル
		ORDIOFFER		新規テーブル
		ORDIPROF		新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
			ORDITRD	新規テーブル
			ORDMEEXTN	新規テーブル
ORDOPTIONS	NOTIFYMERCHANT	ORDOPTIONS	NOTIFYMERCHANT	変更された列
	データ・タイプ: SMALLINT		データ・タイプ: INTEGER	
	NOTIFYSHOPPER		NOTIFYSHOPPER	
	データ・タイプ: SMALLINT		データ・タイプ: INTEGER	
ORDPAYMTHD		ORDPAYMTHD	ACCOUNT_ID	新規列
			ACTUALAMOUNT	
			BIGINTFIELD1	
			BIGINTFIELD2	
			BIGINTFIELD3	
			BUYERPO_ID	
			CHARGEAMOUNT	
			CHARGEAMTCURR	
			CHARGETIME	
			CREDITLINE_ID	
			DECIMALFIELD1	
			DECIMALFIELD2	
			DECIMALFIELD3	
			PAYSUMMARY_ID	
			POLICY_ID	
			REFUNDNUMBER	
			RMA_ID	
			STATUS	
			STRINGFIELD1	
			STRINGFIELD2	
			STRINGFIELD3	
			STRINGFIELD4	
			TRADING_ID	
			XMLDATA	
			ORDPICKHST	新規テーブル
			ORDRELEASE	新規テーブル
			ORDSHIPHST	新規テーブル
ORDTAX		ORDTAX	LASTUPDATE	新規列
			ORGCODE	新規テーブル
			OUTPUTQ	新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
		OUTPUTQDSC		新規テーブル
P				
		PARTICIPNT		新規テーブル
		PARTROLE		新規テーブル
		PARTROLEDS		新規テーブル
		PATTRIBUTE		新規テーブル
		PATTRPROD		新規テーブル
		PATTRVALUE		新規テーブル
PAYSTATUS	PENDING	PAYSTATUS	PENDING	変更された列
	データ・タイプ: SMALLINT		データ・タイプ: INTEGER	
		PAYSUMMARY		新規テーブル
		PICKBATCH		新規テーブル
PKGATTR	LANGUAGE_ID	PKGATTR	LANGUAGE_ID	変更された テーブル
	PK: No		PK: Yes	
PKGATTRVAL	LANGUAGE_ID	PKGATTRVAL	LANGUAGE_ID	変更された テーブル
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
	PK: No		PK: Yes	
		PLCYACCDSC		新規テーブル
		PLCYACCLCK		新規テーブル
		PLCYACCT		新規テーブル
		PLCYLCKDSC		新規テーブル
		PLCYPASSWD		新規テーブル
		PLCYPWDDSC		新規テーブル
		PLCYTYCMIF		新規テーブル
		PLCYTYPDSC		新規テーブル
		POLICY		新規テーブル
		POLICYCMD		新規テーブル
		POLICYDESC		新規テーブル
		POLICYTC		新規テーブル
		POLICYTYPE		新規テーブル
		PRATRSTATR		新規ビュー
		PRCOFFPRC		新規ビュー
		PRCEOFFPRD		新規ビュー
		PRDATRAVAL		新規ビュー
		PRICE		新規ビュー
		PRICEDESC		新規ビュー

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
		PROCBUYPRF		新規テーブル
		PROCMSGVW		新規テーブル
		PROCROTCL		新規テーブル
		PROCSYS		新規テーブル
		PRODATR		新規ビュー
		PRODDSTATR		新規ビュー
		PRODSETDSC		新規テーブル
PRODUCT				除去された テーブル
		PRODUCTSET		新規テーブル
		PRSETCEREL		新規テーブル
		PURCHASELT		新規テーブル
PVCBINDING		PVCBINDING	PVCBINDING_ID	新規列
	PVCSESSION_ID		PVCSESSION_ID	変更された列
	PK: Yes		PK: No	
	USERS_ID		USERS_ID	
	PK: Yes		PK: No	
PVCBUFFER		PVCBUFFER	parameters2k	新規列
PVCDEVMDL	MODELNAME	PVCDEVMDL	MODELNAME	変更された列
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL	
			DEVMDLNAME	新規列
PVCDEVSPEC	SESSIONTYPE	PVCDEVSPEC	SESSIONTYPE	変更された列
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL	
Q				
QTYFMTDESC		QTYFMTDESC	NUMBRUSG_ID	新規列
QTYFORMAT		QTYFORMAT	NUMBRUSG_ID	新規列
		QTYUNITMAP		新規テーブル
R				
		RA		新規テーブル
		RABACKALLO		新規テーブル
		RADETAIL		新規テーブル
		RCPTAVAIL		新規テーブル
		RECEIPT		新規テーブル
		REFUNDMTHD		新規テーブル
RICHATTR				再定義された テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
RICHATTRCG				新規テーブル
RICHATTRCATGP				除去された テーブル
		RFQ		新規テーブル
		RFQPROD		新規テーブル
		RFQRSP		新規テーブル
		RFQRSPPROD		新規テーブル
		RFQRSPTCRL		新規テーブル
		RLDISCOUNT		新規テーブル
		RMA		新規テーブル
		RMAAUTHLOG		新規テーブル
		RMACHARGE		新規テーブル
		RMAIADJCRD		新規テーブル
		RMAIDNYRSN		新規テーブル
		RMAITEM		新規テーブル
		RMAITEMCMP		新規テーブル
		RMATAX		新規テーブル
		ROLE		新規テーブル
		RTNDNYDESC		新規テーブル
		RTNDNYRSN		新規テーブル
		RTNDSPCODE		新規テーブル
		RTNDSPDESC		新規テーブル
		RTNRCPTDSP		新規テーブル
		RTNREASON		新規テーブル
		RTNRECIPT		新規テーブル
		RTNRSNDESC		新規テーブル
S				
		SCHCMD		新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
SCHCONFIG		SCHCONFIG	INTERFACENAME	新規列
			STOREENT_ID	
	SCCAPPTYPE		SCCAPPTYPE	変更された列
	データ・タイプ: VARCHAR		データ・タイプ: CHAR	
	SCCPATHINFO		SCCPATHINFO	
	データ・タイプ: VARCHAR(128)		データ・タイプ: VARCHAR(254)	
	SCCQUERY	SCCQUERY		
	データ・タイプ: VARCHAR	データ・タイプ: LONG		
SEGMENT				除去された テーブル
		SCHACTIVE		新規テーブル
SHIPMODE		SHIPMODE	MARKFORDELETE	新規列
		SHPARJURGP		新規テーブル
SHPARRANGE		SHPARRANGE	FLAGS	新規列
	SHIPMODE_ID		SHIPMODE_ID	変更された列
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL	
SHPJCRULE	FFMCENTER_ID	SHPJCRULE	FFMCENTER_ID	変更された列
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL	
	JURSTGROUP_ID		JURSTGROUP_ID	
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
	SHIPMODE_ID		SHIPMODE_ID	
	ヌル・オプション: NOT NULL	ヌル・オプション: NOT NULL		
STDPRICE				新規テーブル
STENCALUSG		STENCALUSG	CALMETHOD_ID_APP	新規列
			CALMETHOD_ID_FIN	
			CALMETHOD_ID_INI	
			CALMETHOD_ID_SUM	
			SEQUENCE	
		USAGEFLAGS		
		STGUINDTAB		新規テーブル

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント	
テーブル	列名	テーブル	列名		
STORE		STORE	ALLOCATIONGOODFOR	新規列	
			AVSACCEPTCODES		
			BOPMPADFACTOR		
			DEFAULTBOOFFSET		
			FFMCSELECTIONFLAGS		
			MAXBOOFFSET		
			PRICEREFFLAGS		
			REJECTEDORDEXPIRY		
			RMAGOODFOR		
			RTNFFMCTR_ID		
	STORETYPE				
STORECAT		STORECAT	LASTUPDATE	新規列	
			MASTERCATALOG		
		STORECNTR	新規テーブル		
STOREENT		STOREENT	SETCCURR	新規列	
STOREINV		STOREINV		要約テーブルが ビューに変更さ れたもの	
			STOREITEM		新規テーブル
			STORITMFFC		新規テーブル
T					
TAXCGRY		TAXCGRY	MARKFORDELETE	新規列	
TAXJCRULE		TAXJCRULE	TAXJCRULE_ID	新規列	
	CALRULE_ID		CALRULE_ID	変更された列	
	PK: Yes		PK: No		
	FFMCENTER_ID		FFMCENTER_ID		
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL		
	PK: Yes		PK: No		
	JURSTGROUP_ID		JURSTGROUP_ID		
	ヌル・オプション: NOT NULL		ヌル・オプション: NULL		
PK: Yes	PK: No				
		TCDESC		新規テーブル	
		TCPITMAP		新規テーブル	
		TCSUBTYPDS		新規テーブル	
		TCSUBTYPE		新規テーブル	
		TCTYPE		新規テーブル	

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
		TERMCOND		新規テーブル
		TFALGOPOL		新規テーブル
		TFALGOREG		新規テーブル
		TFALGOTYPE		新規テーブル
		TFALGPOLDS		新規テーブル
		TFALGTYPDS		新規テーブル
		TFALREGDSC		新規テーブル
		TFDOMAIN		新規テーブル
		TFDOMDSC		新規テーブル
		TFEXTENG		新規テーブル
		TFSBDOMAIN		新規テーブル
		TFSBDOMDSC		新規テーブル
		TFTRADENG		新規テーブル
		TFTRENGDSC		新規テーブル
		TMPBOLIST		新規テーブル
		TMPCMLIST		新規テーブル
		TMPPROCID		新規テーブル
		TMPFFCLIST		新規テーブル
		TMPRADTL		新規テーブル
		TMPRCTLIST		新規テーブル
		TORCPMAP		新規テーブル
TRADEPOSCN		TRADEPOSCN	PRODUCTSET_ID	新規列
			PRECEDENCE	
			MARKFORDELETE	
			TYPE	
	NAME		NAME	変更された列
	ヌル・オプション: NULL		ヌル・オプション: NOT NULL	
		TRADING		新規テーブル
		TRDATTACH		新規テーブル
		TRDDEPAMT		新規テーブル
		TRDDESC		新規テーブル
TRDPSCNXML				除去された テーブル
		TRDPURAMT		新規テーブル
		TRDREFAMT		新規テーブル
		TRDTYPE		新規テーブル
		TRDTYPEDSC		新規テーブル

U

表 11. WebSphere Commerce 5.4 で変更されたテーブル (続き)

WebSphere Commerce Suite 5.1		WebSphere Commerce 5.4		コメント
テーブル	列名	テーブル	列名	
USERPVCDEV		USERPVCDEV	PVCSESSION_ID	新規列
USERREG		USERREG	PLCYACCT_ID	新規列
			TIMEOUT	
			PASSWORDRETRIES	
			SALT	
			PASSWORDCREATION	
			PASSWORDINVALID	
USRTRAFFIC		USRTRAFFIC	SESSIONID	新規列
V				
		VENDOR		新規テーブル
		VENDORDESC		新規テーブル
		VERSIONSPC		新規テーブル
W				
		WCCAT_DESC		新規ビュー
		WCCATEGORY		新規ビュー
		WCCATRTCAT		新規ビュー
		WCCATSTORS		新規ビュー
		WCMLANG		新規テーブル
		WCPRDCTPID		新規ビュー
		WCPRDPRICE		新規ビュー
		WCPRDPCATP		新規ビュー
		WCPRDDESC		新規ビュー
		WCPRDSHIP		新規ビュー
		WCPRODUCT		新規ビュー
		WCSDTNRYS		新規テーブル
Z				
ZIPCODE				除去された テーブル

付録 E. 変更されたプログラミング・インターフェース

この付録では、WebSphere Commerce 5.4 で変更または廃止された、Commerce Suite 5.1 のコマンドやクラス名などのプログラミング・インターフェースに加えられた変更点をリストしています。このリリースで導入された新しいインターフェースについては、*IBM WebSphere Commerce 新着情報 バージョン 5.4* を参照してください。

変更されたインターフェースの使用法および構文の詳細については、WebSphere Commerce 5.4 オンライン・ヘルプを参照してください。

使用すべきでないコマンド

以下のいくつかの Commerce Suite 5.1 コマンドは、WebSphere Commerce 5.4 では使用すべきではなく、WebSphere Commerce の将来のリリースではサポートされなくなります。

- EntityAdmin

このコマンドは Commerce Suite 5.1 のオンライン・ヘルプには記載されていますが、WebSphere Commerce 5.4 のオンライン・ヘルプには記載されていません。さらに、このコマンドは以下のエンティティをサポートしていました。

- entity=MemberGroupType (MBRGRPTYPE テーブルにマップ)
- entity=MemberGroup (MBRGRP テーブルにマップ)
- entity=MemberGroupMember (MBRGRPMBR テーブルにマップ)
- entity=MemberGroupUsage (MBRGRPUSG テーブルにマップ)
- entity=**AccessControlMemberGroup** (ACCMBRGRP テーブルにマップ)
- entity=**AccessControlCommandGroup** (ACCCMDGRP テーブルにマップ)
- entity=**AccessControlCustomerCommandExclusion** (ACCCUSTEXC テーブルにマップ)

注: 上記の下から 3 つの (太字の) エンティティは、Commerce Suite 5.1 アクセス・コントロール・テーブルを管理するために使用されていましたが、WebSphere Commerce 5.4 では使用されなくなりました。それで、このコマンドは WebSphere Commerce 5.4 のそれらのテーブルを引き続き操作できますが、アクセス・コントロール・ランタイムはそれらのテーブル内のデータには影響を受けません。

アクセス・コントロールの詳細については、9 ページの『アクセス・コントロール』および 95 ページの『第 7 章 アクセス・コントロール・サブシステムの考慮事項』を参照してください。

- HTTPCommandContext

HTTPCommandContext インターフェースは、同じ機能が CommandContext コマンドによって提供されているので、WebSphere Commerce 5.4 では使用すべきではあ

りません。コードでは HTTPCommandContext の代わりに CommandContext を使用する必要があります。そうしない場合、ランタイム ClassCastException 例外を受け取ります。

現在 HTTPCommandContext を使用している場合、コードを以下の方法で変更してください。

1. HttpServletRequest オブジェクトを入手するには、以下のようになります。

```
com.ibm.commerce.webcontroller.HttpControllerRequestObject req =
(com.ibm.commerce.webcontroller.HttpControllerRequestObject)commandContext.getRequest();
HttpServletRequest httpRequest = req.getHttpRequest();
```

2. HttpServletResponse オブジェクトを入手するには、以下のようになります。

```
HttpServletResponse httpResponse = (HttpServletResponse)commandContext.getResponse();
```

3. 要求がブラウザから来るかどうかをチェックするには、以下のようになります。

```
if (commandContext.getRequest() instanceof
    com.ibm.commerce.webcontroller.HttpControllerRequestObject)
```

または

```
if (commandContext.getDeviceFormatTypeId().equals(new Integer(-1)))
```

変更されたコマンド

商品アドバイザー

商品アドバイザーのパッケージ名は、WebSphere Commerce Suite 5.1 のものとは異なるものになりました。商品アドバイザーを使用する場合は、これらのパッケージ名について 85 ページの『商品アドバイザーのマイグレーション考慮事項』を参照してください。

UserRegistrationAddCmd および UserRegistrationUpdateCmd

WebSphere Commerce Suite 5.1 では、com.ibm.commerce.usermanagement.command パッケージにおいて、UserRegistrationAddCmd および UserRegistrationUpdateCmd コマンドは、UserRegistrationCmd コマンドを拡張し、このコマンドは AddressBaseCmd コマンドを拡張します。

WebSphere Commerce 5.4 では、UserRegistrationCmd コマンドは AddressBaseCmd コマンドを拡張しなくなりました。それで、AddressBaseCmd から継承したものを使用するメソッドがある場合は、以下に太字で示しているとおりにコードを再作成する必要があります。

例

```
if ( isGuest ){
UserRegistrationAddCmd userRegAdd = (UserRegistrationAddCmd)
    CommandFactory.createCommand(UserRegistrationAddCmd.NAME,getStoreId());
    userRegAdd.setCommandContext(getCommandContext());
    userRegAdd.setRequestProperties(register_Prop);
    userRegAdd.execute();
newBillingAddress=userRegAdd.getAddressId(); <===in 51
//should change to the following in 54
String userId = userRegAdd.getWorkingUserId();
    try
    {
AddressAccessBean abBillingAddress =
        new AddressAccessBean().findSelfAddressByMember(new Long(userId));
```

```

newBillingAddress=abBillingAddress.getAddressId() ;
}
catch(Exception e)
{
//User does not have a self address
}
ECTrace.trace(ECTraceIdentifiers.COMPONENT_USER, CLASSNAME, METHODNAME,
"Successfully created a new user..");
}
else {
UserRegistrationUpdateCmd userRegUpdate = (UserRegistrationUpdateCmd)
CommandFactory.createCommand(UserRegistrationUpdateCmd.NAME,getStoreId());
userRegUpdate.setCommandContext(getCommandContext());
userRegUpdate.setRequestProperties(register_Prop);
userRegUpdate.execute();
newBillingAddress = userRegUpdate.getAddressId();<=in 51
//should change to the following in 54
String userId = userRegAdd.getWorkingUserId();
try
{
AddressAccessBean abBillingAddress =
new AddressAccessBean().findSelfAddressByMember(new Long(userId));
newBillingAddress=abBillingAddress.getAddressId() ;
}
catch(Exception e)
{
//Use does not have a self address
}
ECTrace.trace(ECTraceIdentifiers.COMPONENT_USER, CLASSNAME, METHODNAME,
"Successfully updated a new user..");
}
}

```

以降のいくつかのセクションの表では、以下のパッケージに含まれているプログラミング・インターフェースに加えられた変更点をリストしています。

- WCS_Order
- WCS_Catalog
- WCS_User
- WCS_Databean
- WCS_EJB

これらの表では、すべてのクラスの完全名は `com.ibm.commerce.` で始まります。たとえば、`taxation.commands.GetDisplayTaxesCmdImpl` の完全名は、`com.ibm.commerce.taxation.commands.GetDisplayTaxesCmdImpl` です。以下の表では、簡潔に表現するために、`com.ibm.commerce.` は名前から取り除かれています。

WCS_Order

以下の表は、オーダー・サブシステムに関連したクラスに加えられた変更点を要約しています。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
taxation.commands.GetDisplayTaxesCmdImpl	BigDecimal BIG_DECIMAL_ZERO;	public void setDisplayOnly(boolean);
	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローされ れます。
		public void setUOM(String);

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
taxation.commands.ApplyOrderTaxesCmd	public static final String defaultCommandClassName;	
taxation.commands.ResolveTaxJurisdictionCmd Impl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。
fulfillment.commands.InventoryBaseCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。
fulfillment.commands.ApplyOrderShipping ChargesCmd	public static final String defaultCommandClassName;	
fulfillment.commands.UpdateInventoryFor OrderItemsCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。
price.commands.GetBaseUnitPriceCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。
		static Class class\$com\$ibm\$commerce \$price\$commands \$GetBaseUnitPrice CmdImpl;
		static Class class\$(String);
price.commands.GetBaseUnitPriceCmdImpl \$QualifyingOfferInfo	GetBaseUnitPriceCmdImpl this\$0;	
price.commands.ApplyOrderAdjustmentsCmd	public static final String defaultCommandClassName;	
price.commands.SetCurrencyPreferenceCmd Impl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。
		static Class class\$com\$ibm\$commerce \$price\$commands \$SetCurrencyPreference CmdImpl;
order.utils.GetCalculationUsagesCmdImpl \$PseudoOrderItemAccessBean	GetCalculationUsagesCmdImpl this\$0;	
order.utils.GetCalculationUsagesCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、 ECEException; がスローさ れます。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
order.utils.OrderConstants	public static final String ORDER_BID;	public static final String ORDER_BACKORDERED; public static final String ORDER_PAYMENT_AUTH_REVIEW;
order.utils.GetShippingChargesCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。 public void setCurrency(String);
order.utils.ResolveOrdersCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。 static Class class\$java\$lang\$Long;
order.utils.ResolveJurisdictionCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.utils.ApplyCalculationUsagesCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.utils.CalculationCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.utils.ResolveOrderItemsCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。 static Class class\$java\$lang\$Long;
order.commands.CheckOrderCopyCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	
order.commands.OrderDisplayCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.OrderProfileUpdateCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
order.commands.OrderListCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.CheckOrderTemplateCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	
order.commands.ExtOrderCopyCmdImpl	public void checkParameters();	
order.commands.SetOrderPaymentInfoCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.OrderProcessCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.OrderProcessCmdImpl \$OrderExpiredException	OrderProcessCmdImpl this\$0;	
order.commands.OrderProcessingHelper \$DoubleNVP	OrderProcessingHelper this\$0;	
order.commands.AdminOrderCancelCmd Impl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.ScheduledOrderCancelCmd Impl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public AccessVector getResources() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.OrderCopyCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public AccessVector getResources() で、ECEException; がスローされます。 public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.GetOrderPayInfoCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	
order.commands.SetCurrentPendingOrdersCmd Impl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.GetCurrentPendingOrdersCmd Impl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
order.commands.OrderPrepareCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
		public void setATPParms (ATPPParameters);
order.commands.ScheduledOrderProcessCmd Impl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
		public AccessVector getResources() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.OrderProfile	public void updatePaymentInfo(Hashtable) で、FinderException、CreateException、RemoteException、NamingException、ECAApplicationException、ECEException; がスローされます。	public void updatePaymentInfo (Hashtable, CommandContext) で、FinderException、CreateException、RemoteException、NamingException、ECAApplicationException、ECEException; がスローされます。
order.commands.SetOrderTemplateCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
		static Class class\$java\$lang\$string;
order.commands.OrderScheduleCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
order.commands.TestNotificationCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
order.commands.OrderUnlockCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
		public AccessVector getResources() で、ECEException; がスローされます。

WCS_Catalog

以下の表は、カタログ・サブシステムに関連したクラスに加えられた変更点を要約しています。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
tools.catalog.commands.OfferNotebookUpdateImpl		除去されました
tools.catalog.commands.ItemNotebookUpdateImpl		除去されました
tools.catalog.commands.OfferNotebookUpdate		除去されました
tools.catalog.commands.ItemNotebookUpdate		除去されました
tools.catalog.beans.ItemListBean		除去されました
tools.catalog.beans.OfferListBean		除去されました
tools.catalog.beans.LanguageDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.CalculationCodeSBBean		除去されました
tools.catalog.beans.OfferDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.ListPriceDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.OfferPriceDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.CatalogListDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.TaxCodeClassificationDataBean		除去されました
tools.catalog.beans.QtyUnitListData		除去されました
tools.catalog.beans.ProductSearchData		除去されました
tools.catalog.beans.AttributeValueDataBean	public void setCommandContext (CommandContext);	
	public TypedProperty getRequestProperties();	public Long getAttributeValueId();
	public CommandContext getCommandContext();	public String getDisplaySequence();
	public void setRequestProperties (TypedProperty);	public void setAttributeValueId(Long);

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
tools.catalog.helpers._CatalogSearch_BaseStub	public Vector findCatalogEntry (ProductSearchData) で、NamingException、SQLException、RemoteException、ObjectNotFoundException; がスローされます。	public Vector findCatalogEntry (ProductSearchParameters) で、NamingException、SQLException、RemoteExceptionObjectNotFoundException; がスローされます。
tools.catalog.helpers._CatalogSearch_Stub	public Vector findCatalogEntry (ProductSearchData) で、NamingException、SQLException、RemoteExceptionObjectNotFoundException; がスローされます。	public Vector findCatalogEntry (ProductSearchParameters) で、NamingExceptionSQLException、RemoteExceptionObjectNotFoundException; がスローされます。
tools.catalog.helpers.CatalogSearchBean	public static final String findCatalogEntryTypeID_WHERE;	public static final String findItem_WHERE; public static final String findProduct_WHERE; public void setCatalogEntryType(String);

WCS_User

以下の表は、ユーザー・サブシステムに関連したクラスに加えられた変更点を要約しています。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
usermanagement.commands.AddressDelete CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。 public boolean isReadyToCallExecute();	
usermanagement.commands.UserRegistration CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public boolean isLogonIdUnique(String) で、ECEException; がスローされます。 public void setCity(String);

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
usermanagement.commands.OrgEntity RegistrationCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。
usermanagement.commands.AddressCheck CmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。
	public boolean isReadyToCallExecute();	
usermanagement.commands.AddressBase CmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public String getAddress3(); public AccessVector getResources() で、ECEException; がスローされま す。
security.commands.LogonCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。 public void updateLockoutInformation(boolean) で、ECEException; がスローされま す。
security.commands.LDAPAuthenticationCmd Impl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。 public String getAuthenticateUserId();
security.commands.DBAuthenticationCmd Impl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。 public void markPasswordAsTemporary();
security.commands.LogoffCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。
security.commands.ResetPasswordRegister Cmd	public abstract String getErrorCode();	
security.commands.UpdateCredentials CmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。 public void markPasswordTemporary();
security.commands.ResetPasswordCmdImpl	public void checkParameters() で、 ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされま す。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
security.commands.VerifyCredentialsCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
		public String getAuthenticateUserId();
security.commands.ResetPasswordGuest CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
security.commands.MigrateUserEntries CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
security.commands.SendPasswordNotification CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
security.commands.ResetPassword AdministratorCmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
security.commands.ResetPasswordRegister CmdImpl	public void checkParameters() で、ECEException; がスローされます。	public void validateParameters() で、ECEException; がスローされます。
	public String getErrorCode();	

WCS_Databean

以下の表は、データ bean サブシステムに関連したクラスに加えられた変更点を要約しています。

クラス	WebSphere Commerce Suite 5.1	WebSphere Commerce 5.4
user.beans.UserRegistrationInputDataBean	public abstract void setUserId(Long);	

Enterprise JavaBeans

以下の表は、Enterprise JavaBeans クラスに加えられた変更点を要約しています。

表 12.

コンポーネント	クラス名	WebSphere Commerce Suite 5.1 でのみのメソッド
カタログ	AttributeBean	public void ejbCreate(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。 このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 から削除されています。

表 12. (続き)

コンポーネント	クラス名	WebSphere Commerce Suite 5.1 でのみのメソッド
	AttributeFloatValueHome	<p>public abstract AttributeFloatValue create(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	AttributeHome	<p>public abstract Attribute create(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	AttributeIntegerValueHome	<p>public abstract AttributeIntegerValue create(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	AttributeStringValueHome	<p>public abstract AttributeStringValue create(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	AttributeValueBean	<p>public void ejbCreate(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	AttributeValueHome	<p>public abstract AttributeValue create(Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	CatalogEntryHome	<p>public abstract CatalogEntry create(Long) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	CatalogGroupPageRelationBean	<p>public void ejbCreate(Long, Long, Integer) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>

表 12. (続き)

コンポーネント	クラス名	WebSphere Commerce Suite 5.1 でのみのメソッド
	ItemHome	<p>public abstract Item create(Long) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	ProductHome	<p>public abstract Product create(Long) で、CreateExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
	ProductUserGroupRelationBean	<p>このクラス・ファイルは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p> <p>このメソッドは WebSphere Commerce 5.4 からは除去されています。</p>
オーダー	OfferBean	<p>public Enumeration getContracts() で、FinderExceptionRemoteExceptionNamingException; がスローされます。</p> <p>public Enumeration getContracts(Integer) で、FinderExceptionRemoteExceptionNamingException; がスローされます。</p> <p>これは、WebSphere Commerce 5.4 での設計変更です。現在では、契約は、オファーから検索することはできません。</p>
	OrderOptionBean	<p>すべての Short Java オブジェクト・タイプは、データベースと整合するように整数オブジェクト・タイプにマイグレーションされています。</p>
オーダーの状況	OrderFulfillmentItemStatusBean	<p>public void ejbCreate(TypedProperty) で、CreateExceptionNamingExceptionRemoteExceptionFinderException; がスローされます。</p> <p>TypedProperty は、EJB オブジェクトのランタイム従属関係を除去するため、現在では Hashtable に変更されています。</p>
	OrderFulfillmentStatusBean	<p>public void ejbCreate(TypedProperty) で、CreateExceptionNamingExceptionRemoteExceptionFinderException; がスローされます。</p> <p>TypedProperty は、EJB オブジェクトのランタイム従属関係を除去するため、現在では Hashtable に変更されています。</p>

表 12. (続き)

コンポーネント	クラス名	WebSphere Commerce Suite 5.1 でのみの メソッド
	OrderFulfillmentStatusHome	<p>public abstract OrderFulfillmentStatus create(TypedProperty) で、 NamingExceptionCreate ExceptionFinder ExceptionRemoteException; がスローされます。</p> <p>TypedProperty は、EJB オブジェクトのランタイム 従属関係を除去するため、現在では Hashtable に変更されています。</p>
ユーザー	MemberBean	<p>public String getDisplayName();</p> <p>表示名列が、MEMBER テーブルから除去され ています。</p>
	MemberBeanFinderHelper	<p>public static final String findDistinctStoreOwnersWhereClause;</p> <p>このメソッドは WCS 5.1 では機能せず、現在 WCBE 5.1 からは除去されています。</p>

付録 F. サンプル JSP の更新

マイグレーションの後に WebSphere Commerce 5.4 でご使用のストアのさまざまな面が正しく機能するために、JSP の一部を変更する必要があります。たとえば、ストア・サービスを使用してショッピング・フローを完了できるようにするには、Commerce Suite 5.1 に同梱されていた `shipaddress.jsp` を更新する必要があります。さらに、ログオン・エラー・メッセージを改善するため、Commerce Suite 5.1 に同梱されていた JSP である、`register.jsp` および `account.jsp` を更新する必要があります。

更新済みの JSP を参照用に以下にリストします。

register.jsp

```
<%
//*****
//*
//* Licensed Materials - Property of IBM
//*
//* 5697-D24
//*
//* (c) Copyright IBM Corp. yyyy, 2000
//*
//* US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
//* disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.
//*
//*
//*
%>

<%@ page language="java" %>
<% // All JSPs requires the first 4 packages for getResource.jsp which is used for multi language support %>
<%@ page import="java.io.*" %>
<%@ page import="java.util.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.server.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.command.*" %>

<%@ page import="javax.servlet.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.catalog.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.catalog.objects.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.beans.*" %>

<%@ page import="com.ibm.commerce.user.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.user.objects.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.datatype.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.usermanagement.commands.ECUserConstants" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.common.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.security.commands.ECSecurityConstants" %>
<%@ include file="getResource.jsp"%>
<%
// JSPHelper provides you with a easy way to retrieve
// URL parameters when they are encrypted
JSPHelper jhelper = new JSPHelper(request);

String storeId = jhelper.getParameter("storeId");
String catalogId = jhelper.getParameter("catalogId");
String languageId = jhelper.getParameter("langId");
%>

<jsp:useBean id="bnError" class="com.ibm.commerce.beans.ErrorDataBean" scope="page">
<% com.ibm.commerce.beans.DataBeanManager.activate(bnError, request); %>
</jsp:useBean>

<%
String strErrorMessage = null;
String strErrorCode = "";

String strLogonID = null;
String strPassword = null;
String strPasswordVerify = null;
String strLastName = null;
String strFirstName = null;
```

```

TypedProperty hshErrorProperties = bnError.getExceptionData();

if (hshErrorProperties != null)
{
    //We have a registration error.

    strErrorCode = hshErrorProperties.getString(ECConstants.EC_ERROR_CODE, "");
    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_BAD_LOGONID))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE40");
    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_LOGONID_EXISTS))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE41");

    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_BAD_LOGONPASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE42");
    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_BAD_LOGONPASSWORDVERIFY))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE43");
    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_PASSWORDS_NOT_SAME))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE44");

    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_ADDR_ERR_BAD_LASTNAME))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE45");
    if (strErrorCode.equals(ECUserConstants.EC_UREG_ERR_MISSING_LOGONPASSWORDVERIFY))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ERROR_MESSAGE46");

    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_MINIMUMLLENGTH_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE21");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_MINIMUMDIGITS_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE22");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_MINIMUMLETTERS_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE23");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_USERIDMATCH_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE24");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_REUSEOLD_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE25");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_MAXCONSECUTIVECHAR_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE26");
    if (strErrorCode.equals(ECSecurityConstants.ERR_MAXINTANCECHAR_PASSWORD))
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASS_ERROR_MESSAGE27");

    //Redisplay what was entered when the
    //invalid entry was submitted.
    strLogonID = jhelper.htmlTextEncoder(jhelper.getParameter(ECUserConstants.EC_UREG_LOGONID));
    strPassword = jhelper.getParameter(ECUserConstants.EC_UREG_LOGONPASSWORD);
    strPasswordVerify = jhelper.getParameter(ECUserConstants.EC_UREG_LOGONPASSWORDVERIFY);
    strLastName = jhelper.htmlTextEncoder(jhelper.getParameter(ECUserConstants.EC_ADDR_LASTNAME));
    strFirstName = jhelper.htmlTextEncoder(jhelper.getParameter(ECUserConstants.EC_ADDR_FIRSTNAME));
}
else
{
    //Form is loading under regular condition.
    //Initialize all fields to empty.

    strLogonID = "";
    strPassword = "";
    strPasswordVerify = "";
    strLastName = "";
    strFirstName = "";
}
%>

```

```

<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "DTD/xhtml11-transitional.dtd">
<html>
<head>
<title><%=infashiontext.getString("REGISTER_TITLE")%></title>

<link rel=stylesheet href="<%=storeDir%>/fashionfair.css" type="text/css">
</head>

<body marginheight="0" marginwidth="0">

<!-- Set the user id and e-mail to the same value -->
<SCRIPT language="javascript">
function prepareSubmit(form)
{
    form.<%=ECUserConstants.EC_ADDR_EMAIL1%>.value =
        form.<%= ECUserConstants.EC_UREG_LOGONID%>.value.toLowerCase()
    form.<%=ECUserConstants.EC_UREG_LOGONID%>.value =
        form.<%= ECUserConstants.EC_UREG_LOGONID%>.value.toLowerCase()

    form.submit()
}
</SCRIPT>

<%
String incfile;

incfile = "/" + storeDir + "/header.jsp";
%>
<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

<%
incfile = "/" + storeDir + "/sidebar.jsp";
%>

<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

<!--END SEARCH-->

<td bgcolor="#FFFFFF" width="600" rowspan="6" valign="top">

<!--MAIN CONTENT STARTS HERE-->

<table cellpadding="2" cellspacing="0" width="580" border="0" align="left">
<tr>

<td width="10" rowspan="10">&nbsp;  </td>

<td align="left" valign="top" colspan="3" class="categoryspace">
<font class="category"><%=infashiontext.getString("REGISTRATION")%></font>
<hr width="580" noshade align="left">
<font class="required">*</font><font class="text"><%=infashiontext.getString("REQUIRED_FIELDS3")%></font></td>
</tr><tr>

```

```

<td align="left" valign="top" width="400" class="topspace">
<%
if (strErrorMessage != null)
{
    //We have error message.
    %>
<p><font color="red"><%=strErrorMessage%></font><br><br></p>
<%
}
%>
<FORM name="Register" method=POST action="<%=UserRegistrationAdd"%>">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="langId" Value="<%=languageId%>">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="new" Value="Y">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="storeId" Value="<%=storeId%>">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="catalogId" Value="<%=catalogId%>">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="URL" Value="LogonForm">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="page" Value="account">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="registerType" Value="G">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="profileType" Value="C">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_EMAIL1%>" Value="">
<!--
Lots of mandetary fields are not displayed in this form.
We set them to "-".
-->
<INPUT TYPE="hidden" NAME="personTitle" Value="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_ADDRESS1%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_ADDRESS2%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_CITY%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_STATE%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_ZIPCODE%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_COUNTRY%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_PHONE1%>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%= ECUserConstants.EC_UREG_CHALLENGEQUESTION %>" VALUE="-">
<INPUT TYPE="hidden" NAME="<%= ECUserConstants.EC_UREG_CHALLENGEANSWER %>" VALUE="-">

<table cellpadding="3" cellspacing="0" border="0" align="left">
<tr>
<td align="right" valign="middle">
<font class="required">*</font><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("EMAIL2")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%= ECUserConstants.EC_UREG_LOGONID%>" value="<%=strLogonID%>"></td>
</tr><tr> <td align="right" valign="middle">
<font class="required">*</font><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("PASSWORD3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%=ECUserConstants.EC_UREG_LOGONPASSWORD%>"
type="password" value="<%=strPassword%>"></td>
</tr><tr> <td align="right" valign="middle">
<font class="required">*</font><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("VERIFY_PASSWORD3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%=ECUserConstants.EC_UREG_LOGONPASSWORDVERIFY%>"
type="password" value="<%=strPasswordVerify%>"></td>
</tr>
<% if (locale.toString().equals("ja_JP")||locale.toString().equals("ko_KR")||
locale.toString().equals("zh_CN")||locale.toString().equals("zh_TW")) { %>

```

```

<tr>
<td align="right" valign="middle">
<font class="required">*</font><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("LAST_NAME3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_LASTNAME%>" value="<%=strLastName%>" type="text"></td>
</tr><tr> <td align="right" valign="middle">
<font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("FIRST_NAME3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%= ECUserConstants.EC_ADDR_FIRSTNAME %>" value="<%=strFirstName%>" type="text"></td>
</tr>
<% } else { %>
<font class="product">
<tr>
<td align="right" valign="middle">
<font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("FIRST_NAME3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%= ECUserConstants.EC_ADDR_FIRSTNAME %>" value="<%=strFirstName%>" type="text"></td>
</tr><tr> <td align="right" valign="middle">
<font class="required">*</font><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("LAST_NAME3")%></font></td>
<td align="left" valign="middle">
<input size="25" maxlength="50" name="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_LASTNAME%>" value="<%=strLastName%>" type="text"></td>
</tr>
<% } %>
<tr>
<td align="left" valign="top">
<font class="text">&nbsp;</font></td>
<td align="left" valign="top" class="categoryspace">
<table cellpadding="4" cellspacing="0" border="0">
<tr>
<td align="left" valign="middle" bgcolor="#FFCC99">
<A href="javascript:prepareSubmit(document.Register)"><font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("SUBMIT")%></font></a>
</td>
</tr></table>
</td></tr></table>
</form>
</td>

<td width="180" valign="top" class="topspace">
<table cellpadding="3" cellspacing="0" border="1" width="180" bgcolor="#FFFFCC">
<tr>
<td align="left" valign="top">
<font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("YOUR_PRIVACY")%></font><br>
<font class="text"><%=infashiontext.getString("PRIVACY_STATEMENT")%><br>
<a href="PrivacyView?langId=<%=languageId%>&storeId=<%=storeId%>&catalogId=<%=catalogId%>">
<%=infashiontext.getString("LEARN_MORE")%></a></font>
</td></tr></table>
</td>

</tr></table>
</td>

</tr></table>
<%
incfile = "/" + storeDir + "/footer.jsp";
%>

<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

</body>

</html>

```

account.jsp

```
<%
/**
*****
**
** Licensed Materials - Property of IBM
**
** 5697-D24
**
** (c) Copyright IBM Corp. yyyy, 2000
**
** US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
** disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.
**
**
*****
**
%>

<%@ page language="java" %>
<% // All JSPs requires the first 4 packages for getResource.jsp which is used for multi language support %>
<%@ page import="java.io.*" %>
<%@ page import="java.util.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.server.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.command.*" %>

<%@ page import="javax.servlet.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.catalog.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.catalog.objects.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.user.beans.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.user.objects.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.datatype.*" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.usermanagement.commands.ECUserConstants" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.security.commands.ECSecurityConstants" %>
<%@ page import="com.ibm.commerce.common.beans.*" %>
<%@ include file="getResource.jsp"%>

<%
CommandContext commandContext = (CommandContext)
    request.getAttribute(ECConstants.EC_COMMANDCONTEXT);

String catalogId = request.getParameter("catalogId");
String storeId = request.getParameter("storeId");
String languageId = request.getParameter("langId");

//Parameters may be encrypted.
if (catalogId == null)
    catalogId = ((String[]) request.getAttribute("catalogId"))[0];
if (storeId == null)
    storeId = ((String[]) request.getAttribute("storeId"))[0];
if (languageId == null)
    languageId = ((String[]) request.getAttribute("langId"))[0];
%>
```

```

<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C/DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "DTD/xhtml1-transitional.dtd">

<head><title><%=infashiontext.getString("ACCOUNT_TITLE")%></title>
<link rel=stylesheet href="<%=storeDir%>/fashionfair.css" type="text/css">
</head>

<body marginheight="0" marginwidth="0">

<%
String incfile;

incfile = "/" + storeDir + "/header.jsp";
%>
<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

<%
incfile = "/" + storeDir + "/sidebar.jsp";
%>

<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

<!--END SEARCH-->

<td bgcolor="#FFFFFF" width="600" rowspan="6" valign="top">

<%
//Deal with possible errors when logging in
String strPageTitle    = "Logon";
String strErrorMessage = null;
String strErrorCode     = null;

String[] strArrayAuth = (String [])request.getAttribute(ECConstants.EC_ERROR_CODE);

if (strArrayAuth != null){
    if(strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_DISABLED_ACCOUNT) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("ACCOUNT_LOCKED");
    }else if( strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_MISSING_LOGONID) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("LOGIN_ID_MISSING");
    }else if(strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_INVALID_LOGONID) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("LOGON_ID_INVALID");;
    }else if(strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_MISSING_PASSWORD) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASSWD_MISSING");
    }else if(strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_INVALID_PASSWORD) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("PASSWORD_INCORRECT");
    }else if(strArrayAuth[0].equalsIgnoreCase(ECSecurityConstants.ERR_LOGON_NOT_ALLOWED) == true){
        strErrorMessage = infashiontext.getString("WAIT_TO_LOGIN");
    }
}
}

```



```

/*
 * Register link behaves differently depending on if the user is logged
 * in. If the user is logged in (hence a registered user) clicking on
 * register will log the user off then display the registration form.
 * This will allow multiple registration using the same browser.
 * For guest shoppers clicking on Register link will simply display the
 * registration form.
 */
UserRegistrationDataBean regBean = new UserRegistrationDataBean();
com.ibm.commerce.beans.DataBeanManager.activate(regBean, request);
String regURL = null;

if (! regBean.findUser())
// findUser() return false if the customer is not registered
{
    //This is a guest user. Simply display the registration form.
    regURL = "UserRegistrationForm";
}
else
{
    //This is a registered/logged in user. Log him off first.
    //Through LogoffView registration page will be displayed.
    regURL = "Logoff";
}
%>
<!--MAIN CONTENT STARTS HERE-->

<table cellpadding="2" cellspacing="0" width="580" border="0">
<tr>

<td width="10" rowspan="10">&nbsp;&nbsp;&nbsp;</td>

<td align="left" valign="top" colspan="3" class="categoryspace">
<font class="category"><%=infashiontext.getString("MY_ACCOUNT3")%></font>
<hr width="580" color="#336666" noshade align="left">
</td>

</tr><tr>

<td align="left" valign="top" width="280" bgcolor="#CC6600">
<font class="subheader"><%=infashiontext.getString("PERSONAL_INFO")%></font></td>

<td width="20" rowspan="5">&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;&nbsp;</td>

<td align="left" valign="top" width="280" bgcolor="#CC6600">
<font class="subheader"><%=infashiontext.getString("ADDRESS_BOOK")%></font></td>

</tr><tr>

<td align="left" valign="top" width="280" class="topspace">
<font class="text"><%=infashiontext.getString("UPDATE_NAME")%></font><p>

<table cellpadding="0" cellspacing="0" border="0" align="left">
<tr>
<td align="left" valign="top">

```

```

<table cellpadding="4" cellspacing="0" border="0">
<tr>
<td align="left" valign="middle" bgcolor="#FFCC99">
<A href="UserRegistrationForm?storeId=<%=storeId%>&langId=<%=languageId%>&catalogId=<%=catalogId%>">
<font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("CHANGE_INFO")%></font></a></td>
</tr></table>

</td>
</tr></table>

</td>

<td align="left" valign="top" width="280" class="topspace">

<%
if (strErrorMessage != null)
{
    //We have an error message.
}%>
<p><font color="red" ><%=strErrorMessage%></font><br>
<%
}
%>
<table cellpadding="0" cellspacing="0" border="0">
<tr>
<td align="left" valign="top">
<font class="text"><%=infashiontext.getString("UPDATE_ADDRESS1")%></font><br><br></td>
</tr><tr>
<td align="left">
<table cellpadding="4" cellspacing="0" border="0">
<tr>
<td align="left" valign="middle" bgcolor="#FFCC99">
<A href="AddressBookForm?storeId=<%=storeId%>&langId=<%=languageId%>&catalogId=<%=catalogId%>">
<font class="strongtext"><%=infashiontext.getString("EDIT_ADD")%></font></a></td>
</tr></table>
</td></tr></table>

</tr></table>
</td>
</tr></table>

</td>
</tr></table>
<%
incfile = "/" + storeDir + "/footer.jsp";
%>

<jsp:include page="<%=incfile%>" flush="true"/>

</body>

</html>

```

infashiontext_en_US.properties

LOGON_ID_INVALID = The e-mail address entered is invalid. Type another e-mail address in the E-mail address field and try again.
PASSWORD_INCORRECT = The password entered is incorrect. Type your password in the Password field and try again.
LOGIN_ID_MISSING = Type an e-mail address in the E-mail address field.
PASSWD_MISSING = Type a password in the Password field.
ACCOUNT_LOCKED = Due to 3 unsuccessful password attempts, you will be unable to logon. Please contact a store representative to unlock your account.
WAIT_TO_LOGIN = Please wait a few seconds before attempting to log in again.

PASS_ERROR_MESSAGE21 = You entered a password with less than 6 characters. Passwords must be at least 6 characters in length, and include one digit and one letter. Please re-enter your password.
PASS_ERROR_MESSAGE22 = Your password does not contain a digit. Passwords must be at least 6 characters in length, and include one digit and one letter. Please re-enter your password.
PASS_ERROR_MESSAGE23 = Your password does not contain a letter. Passwords must be at least 6 characters in length, and include one digit and one letter. Please re-enter your password.
PASS_ERROR_MESSAGE24 = Your password is the same as your user-id. Please assure that your user-id and password are different.
PASS_ERROR_MESSAGE25 = Your new password is the same as the previous one. Please enter a new password, or choose 'My Account' on the menu bar to return to your account page.
PASS_ERROR_MESSAGE26 = A character in your password occurs more consecutively than the allowed limit of 3. Please re-enter your password.
PASS_ERROR_MESSAGE27 = A character in your password occurs more than the allowed limit of 4. Please re-enter your password.

infashion store translation text

ENCODESTATEMENT = text/html; charset=ISO_8859-1

header.jsp

SHOPPING_CART = SHOPPING CART
MY_ACCOUNT = MY ACCOUNT
CONTACT_US = CONTACT US
HELP = HELP
SEARCH = SEARCH
HOME = Home

#footer.jsp

SHOPPING_CART2 = Shopping cart
MY_ACCOUNT2 = My account
CONTACT_US2 = Contact us
HELP2 = Help
PRIVACY_POLICY = Privacy policy

#sidebar.jsp

CHOOSE_COUNTRY = CHOOSE A LANGUAGE
CANADA = Canada
UNITED_STATES = United States
CHINA = China
FRANCE = France
GERMANY = Germany
ITALY = Italy
JAPAN = Japan
SPAIN = Spain
TURKEY = Turkey
SERVICES = SERVICES
REGISTER = Register
NOW_BUY = now and get 10% off your first purchase!
NEED_HELP = Need help?
JUST_ASK = Just ask!
GO = GO

.
. .
.

付録 G. トラブルシューティング

このセクションでは、マイグレーション時に生じる可能性がある潜在的な問題と、そのような問題を解決するためのアクションをリストします。

- **問題:** ストア・サービス・ユーティリティの「ストア・アーカイブ」ページに、Commerce Suite 5.1 で公開し、WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションしたストアの状況が not published (公開されていない) と示されます。

解決法: WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションする場合、データベース・マイグレーション・スクリプトは、SCHSTATUS テーブルで SCSSTATE が 'C' (complete (完了)) に設定されているすべてのエントリーを消去します。データベース・マイグレーション・スクリプトは、SCHSTATUS テーブルにある保留または未完了状態の他のすべてのエントリーを SCHACTIVE テーブルに移動させます。以前に完了と設定されていたエントリーが SCHACTIVE テーブルに移動されないと、マイグレーション後にストア・サービスではストアの状態を not published (公開されていない) と表示します。

ストアは正しく機能し続けることに注意してください。

- **問題:** マイグレーションした WebFashion ストアに、新規ユーザーを登録しようとすると、失敗して次のようなエラーになります。

```
...
TimeStamp:    2001-10-13 18:17:46.456
Thread ID:    <Worker#2>
Class:        com.ibm.commerce.infashion.commands.RegisterNAddToMemberGroupImp]
Method:        performExecute
Severity:      1
Message Text: CMN0411E The following Finder Exception occurred during processing:
               "javax.ejb.ObjectNotFoundException".
Exception:    javax.ejb.ObjectNotFoundException
               at javax.ejb.FinderException.<init>(FinderException.java:36)
               at javax.ejb.ObjectNotFoundException.<init>(ObjectNotFoundException.java:38)
               ...
```

解決法: register.jsp を、コマンド RegisterNAddToMemberGroup をコマンド UserRegisterAdd で置き換えて更新し、70 ページの『サンプルの WebFashion ストアのユーザー登録』の説明に従って顧客プロフィールを変更します。

- **問題:** 出荷された Commerce Suite 5.1 テーブルへの外部鍵リンクを含むテーブルをカスタマイズした場合、データ・マイグレーション時に、参照保全制約 (外部鍵、1 次鍵、索引など) を除去しようとする、データ・マイグレーション・スクリプトは失敗する場合があります。一般的なエラー・メッセージは、次のようなものです。

```
ERROR at line 1:
ORA-02273: this unique/primary key is referenced by some foreign keys
```

解決法: マイグレーション前に、Commerce Suite 5.1 テーブルに関する制約があれば除去し、WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後に、その制約をリストアする必要があります。マイグレーション・プロセスを開始している場合、次のようにして、Commerce Suite 5.1 データのバックアップ・コピーをロードすることが必要になる場合があります。

何らかの Commerce Suite 5.1 参照保全制約を変更した場合、すなわち、すでに存在する索引または外部鍵の関係に別の列を追加した場合、その列はデータ・マイグレーション・プロセスの一部として削除されます。

- **問題:** WebSphere Commerce 5.4 へのマイグレーション後に、 WebSphere Commerce 5.4 管理コンソールにログオンして、ユーザーを変更または作成する場合 (つまりリストからユーザーを選択して「変更」をクリックする)、コンソールはブランク・ページを表示します。 ecmsg.log ファイルに以下のエラーが示されます。

```
=====  
TimeStamp: 2002-02-04 19:04:40.908  
Thread ID: <Servlet.Engine.Transports:10>  
Class: UIPropertiesBean  
Method: setRequestProperties  
Severity: 1  
Message Text: CMN7023E The system could not pass the XMLFile parameter into  
the UI Property Element. The element could not be loaded.
```

```
=====  
TimeStamp: 2002-02-04 19:04:41.036  
Thread ID: <Servlet.Engine.Transports:10>  
Class: HttpForwardViewCommandImpl  
Method: performExecute  
Severity: 1  
Message Text: CMN1244E An error occurred when forwarding document  
tools/common/NotebookNavigation.jsp.javax.servlet.ServletException  
Exception: javax.servlet.ServletException at  
org.apache.jasper.runtime.PageContextImpl.  
handlePageException(PageContextImpl.java:604)  
at tools.common._NotebookNavigation_jsp_0._jspService  
(_NotebookNavigation_jsp_0.java:314)  
at org.apache.jasper.runtime.HttpJspBase.  
service(HttpJspBase.java:142)  
.  
.  
.
```

解決法: この例外は、ツールが以前のバージョンの UserRegistration_locale.properties ファイルを検索しているときに発生します。これは、顧客プロファイルを表示する CSA ツールでの問題と、新規ユーザー登録時のストアでの問題の原因にもなります。 WebSphere Commerce 5.4 の場合、これらのファイルは ディレクトリーだけに置くべきです。この問題を修正するには、システムで上記のディレクトリーにはない WebSphere Commerce Suite 5.1 UserRegistration_locale.properties ファイルのすべてのインスタンスを検出して、それが入っているフォルダーを名前変更するか、またはそれらのファイルを削除する必要があります。フォルダーを名前変更するかまたはファイルを削除した後に、 WebSphere Application Server を再始動します。これで WebSphere Commerce 5.4 管理者のユーザーを変更できるはずですが。

- **問題:** WebSphere Commerce 5.4へのマイグレーション後に、予期しないアクセス・コントロール違反を検出する場合があります。これはメッセージ・ログ・ファイル (デフォルトでは ecmsg_xxxx.log に設定) に、以下のようなエラー・メッセージを書き込みます。

```
TimeStamp: 2002-02-15 09:03:24.14  
Thread ID: <Servlet.Engine.Transports:10>  
Class: AccManager  
Method: isAllowed  
Severity: 1
```

Message Text: CMN1501E User 859 does not have the authority to perform action "com.ibm.commerce.usermanagement.commands.OrgEntityAddCmd" on resource "com.ibm.commerce.user.objects._Organization_Stub" for command "OrgEntityAdd".

解決法: この例外は、リソース・レベルのアクセス・コントロール・チェックが失敗したことを意味します。アクションは WebSphere Commerce コマンドなので、これはコマンド・レベルのアクセス・コントロール障害とは対照を成す、リソース・レベルのアクセス・コントロール障害です。これがコマンド・レベルのアクセス・コントロール障害であったなら、アクションは Execute であったはずですが、この場合、アクションは OrgEntityAdd コマンドです。

WebSphere Commerce Suite 5.1 では、リソース・レベルのアクセス・コントロールは、コマンド・ロジック内でプログラマチックに施行されていました。

WebSphere Commerce 5.4 では、リソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは外部的に指定されます。これはコマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーの指定方法と似ています。マイグレーション時に、コマンド・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーは Commerce Suite 5.1 から

WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションされます。Commerce Suite 5.1 のデフォルトのアクセス・コントロール・ポリシーのカスタマイズによって必要とされるどのリソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシー (ACCMDGRP テーブルに保管される) も、以下に例示するとおり手動で追加する必要があります。

WebSphere Commerce 5.4 のデフォルトのアクセス・コントロール・ポリシーに基づいて、メンバーシップ管理者およびサイト管理者だけが OrgEntityAdd コマンドへのアクセス権を持ちます。この例で、ユーザー 859 (上記のログに示されており、特別な役割を持たない) がこのコマンドにアクセスできるようにしたい場合は、既存のポリシーを変更するか、または新規のポリシーを追加する必要があります。このポリシーは、ユーザー 859 を含む、あまり限定的ではないアクセス・グループ (つまり、アクセス・コントロールを目的としたユーザーのグループ) を参照する必要があります。例として AllUsers アクセス・グループがありますが、これにはすべてのユーザーが組み込まれています。新規のアクセス・コントロール・ポリシーは、そのアクション・グループに、ログから判別したとおり、com.ibm.commerce.usermanagement.commands.OrgEntityAddCmd アクションを組み込むことが必要な場合もあります。リソース・グループは、ログから判別したとおり、com.ibm.commerce.user.objects.Organization リソースを組み込むことが必要な場合もあります。これは Organization EJB のリモート・インターフェースであることに注意してください。さらに、これはログに示されるリソースの名前とはやや異なることにも注意してください。この違いの理由は、コマンドはそのリソースを保護するように指定するときに Organization アクセス Bean を戻しますが、このアクセス Bean は保護可能インターフェースを拡張するリモート・インターフェースなので、WebSphere Commerce ランタイムはこれをそのリモート・インターフェースに狭める必要があるからです。EJB リソースの保護の詳細については、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* バージョン 5.4 を参照してください。

このサンプル・ポリシーに必要なコンポーネント (Access Group、ActionGroup、ResourceGroup) のほとんどは、既にデフォルトのアクセス・コントロール・ポリシーで定義済みです。これによって新規のアクセス・コントロール・ポリシーを追加するプロセスは簡略になります。ここに示すのは、デフォルトのアクセス・

コントロール・ポリシー・ファイル defaultAccessControlPolicies.xml で指定されている、既存のリソース・レベル・ポリシーです。

```
<Policy Name="MembershipAdministratorsForOrgExecuteOrgEntityRegistrationCommandsOnOrganizationResource"
OwnerID="RootOrganization"
UserGroup="MembershipAdministratorsForOrg"
ActionGroupName="OrgEntityRegistration"
ResourceGroupName="OrganizationDataResourceGroup"
PolicyType="template"/>
</Policy>
```

UserGroup は MembershipAdministratorsForOrg を指定していることに注意してください。この例では、目標はすべてのユーザーを組み込んだ新規のポリシーを追加することです。

新規の、あまり限定的ではないリソース・レベルのアクセス・コントロール・ポリシーをファイルに作成します。たとえば orgentityaddpolicy.xml などとします。このファイルは xmlpolicies.xml ディレクトリーに置く必要があります。これは、定義したら /QIBM/ProdData/WebCommerce/bin ディレクトリーにある以下のスクリプトを実行して、ロードすることができます。以下のようにスクリプトを実行します。(このスクリプトの実行の詳細については、*WebSphere Commerce アクセス・コントロール・ガイド* バージョン 5.4 を参照してください。)

```
apload database userid password orgentityaddpolicy.xml
```

以下に示すのは orgentityaddpolicy.xml の内容です。

```
<?xml version="1.0"encoding="ISO-8859-1"standalone="no"?>

<!DOCTYPE Policies SYSTEM "../dtd/accesscontrolpolicies.dtd">
<Policies>

<Policy Name="AllUsersExecuteOrgEntityRegistrationOnOrganizationResourceGroup"
OwnerID="RootOrganization"
UserGroup="AllUsers"
ActionGroupName="OrgEntityRegistration"
ResourceGroupName="OrganizationDataResourceGroup">

</Policy>
```

- **問題:** WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーションした後に、JavaServer Pages を立ち上げたり、マイグレーション後の JSP の選択項目をクリックすると、以下のエラーが表示されます。

```
TimeStamp: 2002-02-27 11:24:17.04
Thread ID: <Servlet.Engine.Transports:10>
Class: HttpForwardViewCommandImpl
Method: performExecute
Severity: 1
Message Text: CMN1244E An error occurred when forwarding document
              11bean/productvertical.jsp.org.apache.jasper.JasperException:
              /usr/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_demo.ear/
              wcstores.war/xxxx/productvertical.jsp(2676,0)
              JSPG0059E: Unable to compile class for JSP
              null/usr/WebSphere/AppServer/temp/prizm/WebSphere_Commerce_Server_-_demo/
              WebSphere_Commerce_Enterprise_Application_-_demo/wcstores.war/
              xxxx/_productvertical_jsp_3.java:57:
              Class com.ibm.util.Sorter not found in import.
              import com.ibm.util.Sorter;
```

解決法: カスタマイズしたコードおよび JSP が、IBM WebSphere Application Server 3.5.x からの com.ibm.util.Sorter クラスを使用しています。com.ibm.util パッケージ全体は現在の WebSphere Application Server バージョンからは除去されています。WebSphere Application Server 4.0.2 にパッケージされている IBM SDK for Java からの同等のクラスを使用して、コードおよび JSP を再作成する必要があります。

- **問題:** Oracle を使用しており、データベース・マイグレーション・スクリプトの実行時に選択した ATP オプションを指定して WebSphere Commerce 5.4 にマイグレーション済みの場合、migratedb.log に以下のエラーが書き込まれます。

```
ALTER TABLE rcptavail...
ADD ( CONSTRAINT f_659                                *
ERROR at line 2:
ORA-02298: cannot validate (WCSADMIN.F_659) - parent keys not found
```

または、migratedb.log で上記のエラーに気付かず、新規ストアを公開しようとしている場合、障害が発生して

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs ディレクトリーの messages.txt ファイルに以下のエラーが書き込まれます。

```
2002.02.27 13:32:20.763 java.lang.Class formatValueToObject  MassLoader
Error when formatting value for RCPTAVAIL.RECEIPT_ID :
@receipt_id_105 with error [class java.lang.NumberFormatException(@receipt_id_105)].
```

解決法: データベースで以下の照会を実行します。

```
select constraint_name,constraint_type from all_constraints
where owner='WC_SADMIN' and table_name='RCPTAVAIL;'
```

以下のような出力が書き込まれるはずです。

CONSTRAINT_NAME	C
-----	-
F_658	R
SYS_C00147031	C
SYS_C00147032	C
SYS_C00147033	C
SYS_C00147875	P

制約名 F_659 が欠落している場合、 WebSphere Commerce Downloads ページから wcmigration.jar の最新のダウンロード可能バージョンを入手するか、または手動で以下のように修正します。

1. テーブル RCPTAVAIL のレコードをチェックします。テーブル RECEIPT で、RECEIPT_ID が不在これらのレコードを削除します。
 - テーブル RECEIPT に RECEIPT_ID が不在、テーブル RCPTAVAIL のレコードを表示するには、以下の SQL ステートメントを実行します。

```
SELECT receipt_id FROM rcptavail WHERE receipt_id
NOT IN (SELECT receipt_id FROM receipt);
```

- 上記の Select ステートメントで表示されたレコードを削除するには、以下のようになります。

```
DELETE FROM rcptavail WHERE receipt_id
NOT IN (SELECT receipt_id FROM receipt);
```

2. 以下の SQL ステートメントを使用して、テーブル RCPTAVAIL からテーブル RECEIPT までの外部鍵を再作成します。

```
ALTER TABLE rcptavail
ADD CONSTRAINT f_659
FOREIGN KEY (receipt_id)
REFERENCES receipt
ON DELETE CASCADE;
```

3. 新規のストアが正常に公開できるかを試行してみます。

トレース情報の使用可能化

トレース情報を使用可能にすると、ディレクトリーに、トレース情報ファイル `ecmsg_xxxx.log` が生成されます。このファイルを生成して WebSphere Commerce 5.4 サーバー・コンポーネントのさまざまなトレースをログ記録できるようにする場合、構成マネージャーでログ・システム・ノードを構成して、トレースを使用可能にすることをお勧めします。別の方法として、`instance_name.xml` ファイルのトレース・タグに、以下を追加することができます。ただし、このファイルを手動で編集するときには十分な注意が必要です。

```
<LogSystem name="Log System">
  <trace fileSize="40"
    display="false"
    traceFile="ecmsg.log" >
    <component name="SERVER" />
    <component name="CATALOG" />
    <component name="ORDER" />
    <component name="USER" />
    <component name="COMMAND" />
    <component name="PVC" />
    <component name="UBF" />
    <component name="INVENTORY" />
    <component name="RFQ" />
    <component name="REPORTING" />
    <component name="TOOLSFRAMEWORK" />
    <component name="DEVTOOLS" />
  </trace>

  <messageLog fileSize="40"
    messageFile="ecmsg.log"
    notification="false"
    display="false">
    <logSeverity type="ERROR" />
  </messageLog>
  <activityLog display="false">
    <userTraffic cacheSize="20" />
    <accessLogging logAllRequests="false"
      cacheSize="32" />
  </activityLog>
</LogSystem>
```

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしません。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Domino は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。



Printed in Japan